トラクタ
取扱説明書

GJ24　GJ27
GJ30



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはトラクタをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのでご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は，ほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください!

この取扱説明書は，次の通り構成されています。まず，**安全作業のために**からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

●安全な作業をするための注意事項は？ **安全作業のために** 安全作業説明編

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

●使用前に知っておかなければならないことは？ **ご使用まえに** 1

機械の概要**「仕様（装備）」**等について説明しています。

●各部の名称を知るには？ **各部の名称** 6

機械の主な名称について説明しています。

●トラクタを動かすには？ **運転のしかた** 8

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動・発進・走行・停止のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた，坂道での運転のしかた等を説明しています。

●ほ場作業を行うには？ **作業のしかた** 26

作業に必要な装置の使いかたについて説明しています。

●キャビンを使用するには？ **キャビン装備機の取扱い** 44

キャビン装備機の取扱いについて説明しています。

●機械を長もちさせるには？ **手入れのしかた** 52

機械をつねに正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。

●機械を長期格納するときは？ **長期格納のしかた** 86

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

●故障かなと思ったら？ **不調時の処置** 88

異常を感じたらすぐ原因を調べ処置してください。

●主要諸元，主な消耗部品は？ **付　表** 95

もくじ

安全作業のために ……（安全作業説明編）

ご使用まえに ……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 3
4．小型特殊自動車について…… 4
　1．小型特殊自動車の届出…… 4
　2．運転免許…… 4
　3．公道を走行する時…… 5

各部の名称 ……6

1．運転装置の名称…… 6
　1．スイッチ，計器関係…… 6
　2．レバー，ペダル，シート関係…… 7

運転のしかた …… 8

1．運転まえの点検…… 8
　1．点検項目…… 8
　2．運転まえの準備…… 9
　3．安全フレームの取扱い……10
　4．灯火類の操作……11
2．運転操作のしかた……12
　1．エンジンの始動と停止……12
　2．発進・走行のしかた……15
　3．停車・駐車のしかた……20
　4．自動車への積込み・積降ろし……22
　5．坂道での運転のしかた……24
　6．ほ場への出入りのしかた……24

作業のしかた …… 26

1．ほ場作業のしかた……26
　1．ほ場での旋回のしかた……26
　2．ポジションコントロールレバーの取扱い…28
　3．傾き自動の取扱い……31
　4．作業に適した速度の選びかた……34
　5．4 輪駆動とデフロックの使いかた……35
　6．作業機降下速度の調節……36
2．作業に必要な装置の使いかた……37
　1．トレッドの調節のしかた……37
　2．3 点リンクの取付け寸法の設定のしかた……38
　3．フロントローダの取扱い……41
　4．作業機の取扱い……42
　5．作業機用電源の取扱い……43
　6．バンパウェイト（オプション）……43

キャビン装備機の取扱い ……44

1．各部の取扱い……44
　1．ドア･リヤウインドウの開閉のしかた ……44
2．スイッチの取扱い……46
　1．灯火スイッチの取扱い……46
　2．各種スイッチの取扱い……47
3．運転装置の取扱い……48
　1．バックミラー……48
4．室内装備の取扱い……49
　1．カップホルダ……49
　2．エアコン……49

手入れのしかた ……52

1．定期点検整備表……52
2．給油・給脂・給水のしかた……54
　1．給油・給脂・給水表……54
　2．ボンネットの開閉とカバー類の取り外しかた …55
　3．エンジンオイルの点検と交換……57
　4．エンジンオイルフィルタの交換……58
　5．燃料の補給……58
　6．燃料フィルタの交換と掃除……60
　7．エア抜き要領……60
　8．冷却水の保守管理……61
　9．ミッションオイルの点検と交換……63
　10．油圧オイルフィルタの交換……64
　11．フロントアクスルオイルの点検と交換…64
　12．各部の給脂……66
　13．ウォッシャ液の給水……66
3．各部の掃除のしかた……67
　1．エアクリーナの掃除……67
　2．ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除…67

3．コンデンサフィン，コンデンサスクリーンの掃除［キャビン仕様］……68
4．エアコンの掃除［キャビン仕様］……68
4．各部の点検と調整のしかた……70
1．ファンベルトの点検・調整……70
2．クラッチペダルの点検・調整……70
3．トーインの点検・調整……71
4．ブレーキペダルの点検・調整……72
5．タイヤの点検……73
6．ハンドルの点検……74
7．ホース類の点検……74
8．ウォータホース　エアコン配管点検……75
9．電気配線の点検と掃除……75
10．ヒューズの交換……76
11．バッテリの点検と充電……79
12．コンプレッサベルトの張り調整［キャビン装備機］…85
13．冷媒（ガス）［キャビン装備機］……85

長期格納のしかた ……86
1．機械の掃除・洗浄・格納……86
2．格納中の手入れ……87
3．再使用にあたって……87

不調時の処置 ……88
1．エンジン部……88
1．始動しない，または始動困難……88
2．エンジン出力不足およびエンジン自然停止…89
2．走行・運転操作部……90
1．走らない，ブレーキがきかない……90
2．パワーステアリング……91
3．油圧部……92
1．油圧関係……92
4．電気・自動制御部……93
1．電気関係……93
2．自動制御関係……93
5．キャビン部……94
1．キャビン関係……94

付表 ……95
1．主要諸元……95
2．主な消耗部品……96
1．エンジン関係……96
2．エアクリーナ・油圧ライン関係……96
3．電装関係……97
3．アタッチメント一覧表……98
4．潤滑油について…… 100
1．エンジンオイルについて…… 100
2．ミッション，フロントアクスルオイルについて… 100
5．トラクタ関連商品…… 101

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1. 安全作業のしかた ……(安-1)
⚠作業前に次のことを守りましょう！…… (安-1)
⚠安全作業のポイント……(安-2)
⚠作業前の一般的な注意事項……(安-4)
⚠作業前の点検，整備，掃除をする時は ……(安-6)
⚠エンジンを始動する時は ……(安-11)
⚠作業機の装着および作業をする時は ……(安-13)
⚠走行運転をする時は ……(安-17)
⚠狭い道路，凸凹道，坂道，傾斜地で運転する時は …(安-19)
⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は ……(安-21)
⚠ほ場で作業をする時は ……(安-22)
⚠1 日の作業が終わったら ……(安-23)
⚠長期格納する時は ……(安-24)
2. 表示ラベルについて ……(安-26)

安全作業のために

1. 安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項で説明している安全説明は**トラクタ全般**についてのものです。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ● 16 才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。  	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。 

⚠ 安全作業のポイント



●取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転する

始業・点検　準備点検

●平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
●機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
●エンジン，バッテリ，燃料タンクの周辺を掃除する
●バッテリコードや電気配線，燃料ホースの点検
●給油，冷却水の点検はエンジンが冷えている時に行う
●燃料補給時は火気を近づけない
●各部の締付けを確認する
●ブレーキの作動具合と左右の遊び量の点検
●ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認
●方向指示器などの保安部品の作動確認
●作業機を上げて点検するときは作業機降下速度調節グリップを「固定」の位置にして作業機の下に固定脚を置く
●トラクタを移動して作業機を着脱する時はトラクタと作業機の間に立たない
●機械は改造しない
●油脂類の廃却は，廃却設備のあるところで処理する

エンジン始動

●すべてのカバーを取付け，安全フレームをおこす
●トラクタや作業機の周囲から人を遠ざける
●運転席に座り駐車ブレーキをかけ，シートベルトをする
●主変速，シャトルレバー，PTO 変速を「《N》（中立）」にし，クラッチペダルを踏む
●屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする

走行・運転

●左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する
● PTO 変速を「《N》（中立）」にする
●倍速旋回を「切」にする





●傾き自動スイッチ，深さ自動スイッチの「切」を確認する
●トラクタや作業機に人や物を乗せない
●発進時は周囲をたしかめる
●エンジンコントロールレバーを「低」にし，フートアクセルで走行する
●急発進，急ブレーキ，急旋回はしない
●わき見運転や手放し運転をしない

道路（公道）走行

●運転免許証を携帯し，交通法規を守る
●公道走行する時は作業機を装着しない
●前後左右を確認し，低速車線を走る
●夜間の移動はライトをつける
●走行中に飛び乗り，飛び降りはしない

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

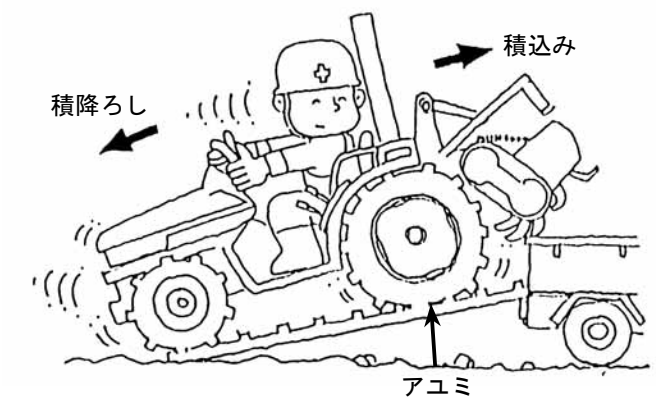
●狭い農道や凸凹道は低速で走行する
●対向車を避ける時，端に寄りすぎない
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
●登り坂では急発進しない
●下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使用する
●坂道では走行クラッチを切らない，変速レバーを「《N》（中立）」にしない

停車・駐車

●平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，主変速・副変速，PTO 変速を「《N》（中立）」にし作業機を降ろしてからエンジンを停止する
●坂道では駐車しない
（やむをえず駐車するときは歯止めをする）
●機械を離れる時はキーを抜取る

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは充分な強度，幅，長さ（荷台高さの 4 倍以上），すべり止め，フックのあるものを使用する
- アユミは自動車の荷台に対し真っ直ぐにかけ，フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械のまわりには人を近づけない
- PTO 変速を「《N》（中立）」にする
- 積込みは後進，積降ろしは前進で低速で行う
- ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする
- アユミの上ではクラッチ操作や変速操作をしない
- 片ブレーキ，デフロックは使用しない



ほ場作業　ほ場の出入り

- PTO 変速を「《N》（中立）」にする
- 左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する
- 低速であぜに対して直角に行う
- 高あぜ，溝越え，急傾斜はアユミを使用する
- 上がるときは後進，降りるときは前進で行う
- あぜがくずれないか確認しゆっくり行う

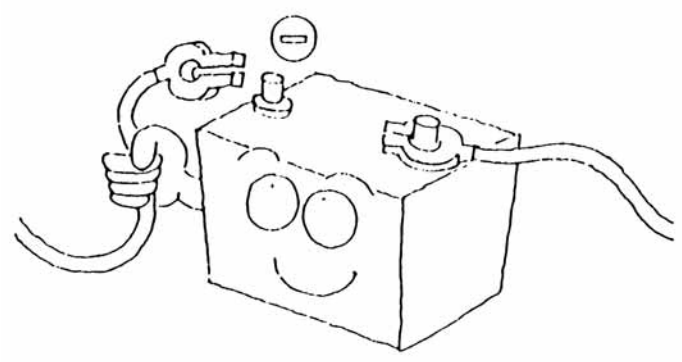


ほ場での作業

- 子供等，人をそばに近づけない。２人乗りはしない
- ウエイトがわりに人や物を乗せない
- 旋回時は周囲を確認する
- わき見運転や手放し運転はしない
- 急傾斜地では作業をしない
- デフロック使用後は解除を確認する
- けん引作業は純正ドローバを使用し，後車軸の高さより上では引っ張らない
- 疲労を感じたら無理に作業を続けず休憩をする

作業中途の点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する
- 作業機の点検をする時は作業機降下速度調節グリップを「固定」にする
- エンジンまわりの点検はエンジンが冷えてから行う



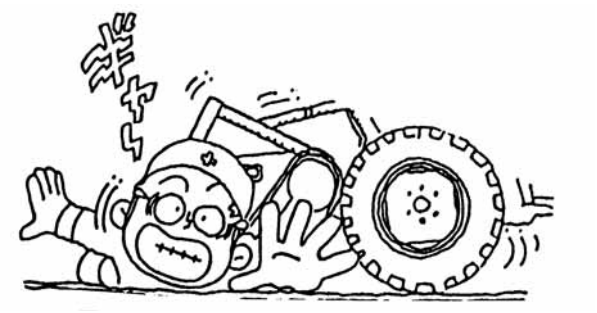
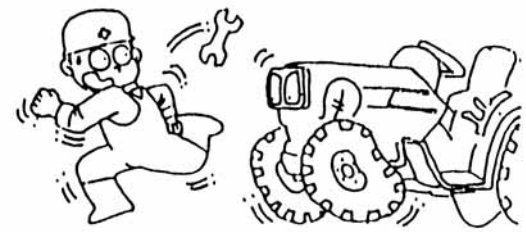
終業・格納　１日の作業が終わったら

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけて作業機を降ろしエンジンを停止してキーを抜取る
- エンジン，バッテリ，燃料タンク周辺を掃除する
- マフラ，ラジエータ等は冷えるまで直接触れない
- タイヤの交換，輪距の変更はジャッキと固定脚を使用する
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

長期格納

- 作業機は外すか，降ろしておく
- 燃料は満タンにし，燃料コックを閉めておく
- バッテリのアースコードを外すか，バッテリを取外す
- クラッチペダルを踏込んでペダルロックをかける
- 後輪の前後に歯止めをし，駐車ブレーキを解除する
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談する

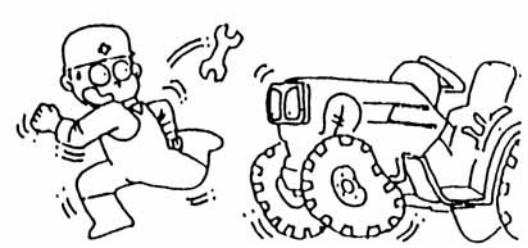
⚠作業前の一般的な注意事項

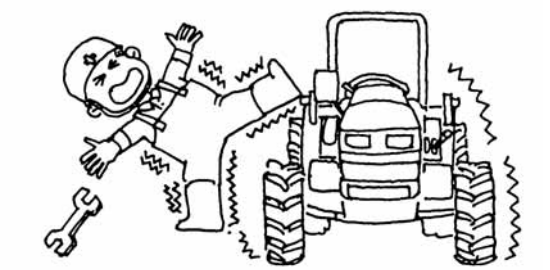
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆機械はほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。 
⚠警告 ◆トラクタを使用する前後に点検を行い，異常個所は直ちに整備してください。 １シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。 

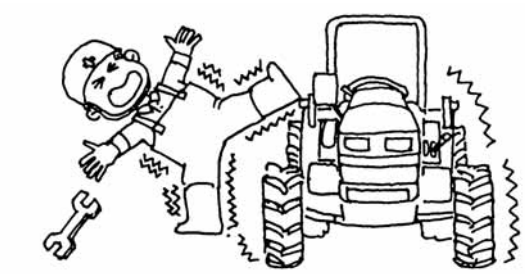
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆トラクタでの傷害事故の大半は転落・転倒事故です。安全フレームを取外して運転しないでください。 通常は安全フレームを「おこして」シートベルトを着用してください。 	転落や転倒した時は死亡または傷害事故になることがあります。 
⚠警告 ◆機械に人や物を乗せたり，人を近づけないでください。 ● トラクタや作業機の上に人や物を乗せない。 ● 子供等，人を近づけない。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆トラクタへの飛び乗り，飛び降りはしないでください。	転落や転倒して，傷害事故を引起こすことがあります。 

⚠作業前の点検・整備・掃除をする時は……

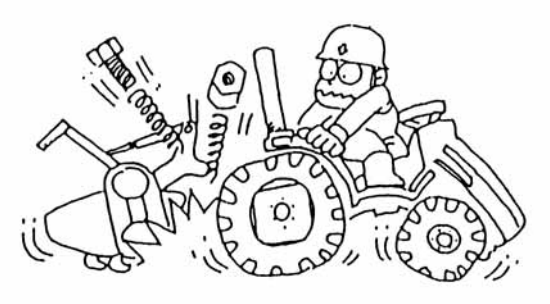
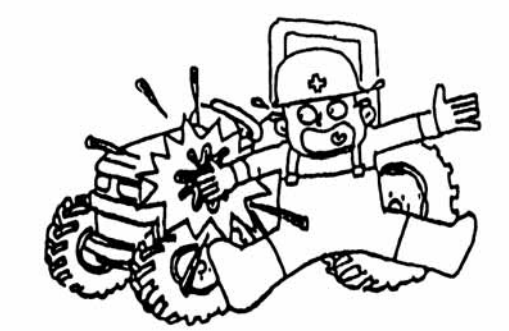
必 ず 守 っ て く だ さ い ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止させタイヤに歯止めをしてから行なってください。 ●主変速，シャトルレバー，PTO 変速レバーが「《N》(中立)」になっていることを確認する。	機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。 
⚠危険 ◆給油，注油時はエンジンを停止しエンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしないでください。 ◆燃料補給時は，くわえタバコなどの火気を近づけないでください。 ●燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。	燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。 
⚠危険 ◆燃料ホースの損傷や燃料もれがないか点検してください。 ●もれている場合は交換する。 ●燃料ホースは２年ごとに交換する。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを外さないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検はリザーブタンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドをすることがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についた時は，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだ時は医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明やヤケドをすることがあります。 
⚠警告 ◆バッテリ端子から，コードを取外すときは，⊖側を先に取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください。 ●バッテリは指定されたバッテリを使用する。 ●⊕⊖を逆に接続しない。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。 

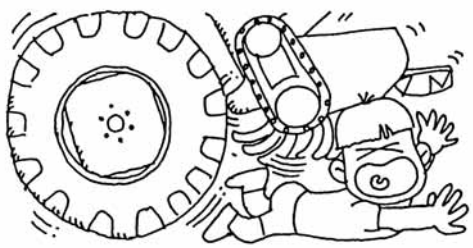
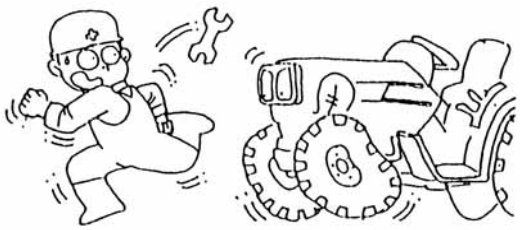
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線のコードが他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●電気部品を取外す前にバッテリ⊖側のコードをバッテリ端子から外す。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。 
⚠警告 ◆タイヤの空気圧は取扱説明書に記載してある空気圧を守ってください。 ●タイヤの空気は入れすぎない。 ◆タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。 ◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。（特別教育を受けた人が行うように法で義務づけられています。）	タイヤに空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と，タイヤが破裂し，死傷事故につながることがあります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクまわりにワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。	交通事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ブレーキの点検調整をしてください。 ●左右のブレーキのきき具合は良いか，また左右ブレーキの踏代が同一になっているか確認する。 ◆ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認してください。 ◆前後輪（タイヤ）取付ボルトのゆるみがないか確認してください。	正常な走行運転ができず事故を引起こす原因となります。  正常な走行ができなくなり，事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆高圧噴油に触れないでください。 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をもっとも下げた状態にして残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸透した場合，取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。 

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠注意 ◆点検整備に必要な工具類は，適正な管理をし，正しく使用してください。 ◆トラクタには，点検調整に必要な工具類を常備しておいてください。 	整備不良で事故を引起こすおそれがあります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，全て取付けてください。 ●カバーは正しく取付ける。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 

⚠エンジンを始動する時は……

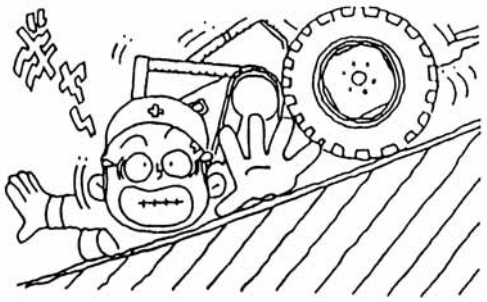
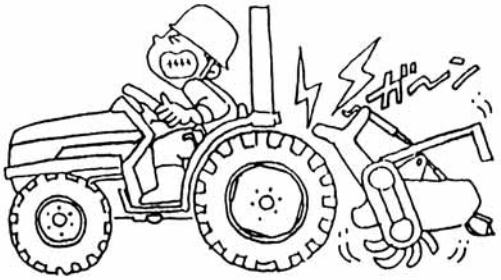
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

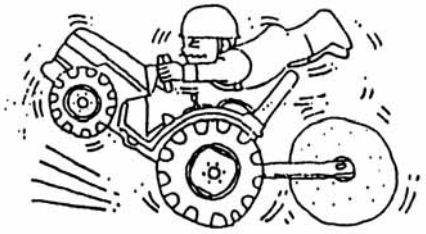
⚠警告 ◆始動する前に，周囲を確認し，トラクタや作業機の周囲から子供等，人を遠ざけてください。	子供等，人が近づくと，傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆始動はシートに座って正しい姿勢で行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆主変速，シャトルレバー，PTO変速を「《N》（中立）」にしてください。 ●主変速，シャトルレバー，PTO変速のレバーが「《N》（中立）」になっているかレバーを手で動かして確認する。 ●クラッチペダルを踏んで始動します。	変速やクラッチが入っていると機械が動きだし事故の原因となることがあります。 

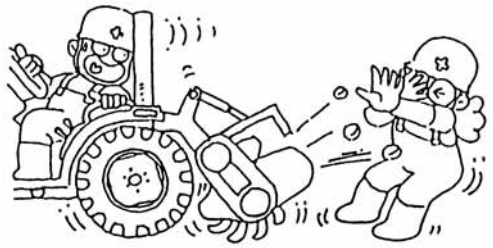
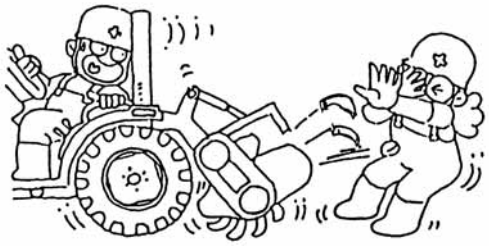
必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，主変速，シャトルレバー,PTO 変速を「《N》(中立)」にし，平坦な場所で駐車ブレーキをかけて行なってください。	トラクタが動き出し，思わぬ事故の原因となることがあります。 

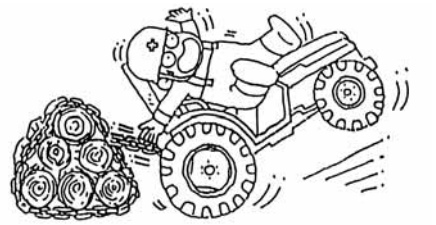
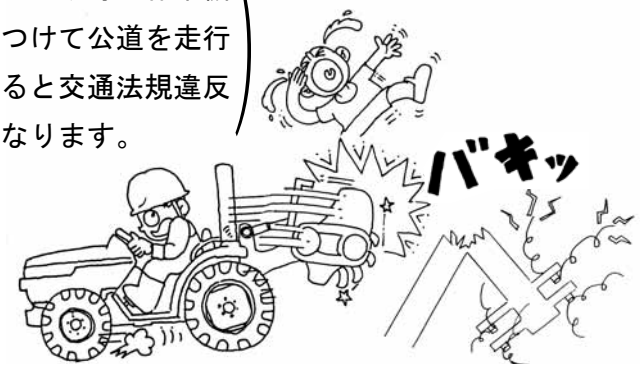
⚠作業機の装着および作業をする時は……

必 ず 守 っ て く だ さ い ➡ 守らないとこんな事故が！

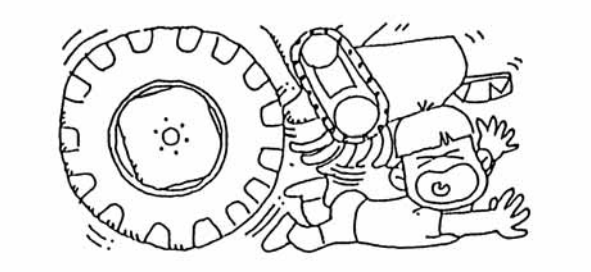
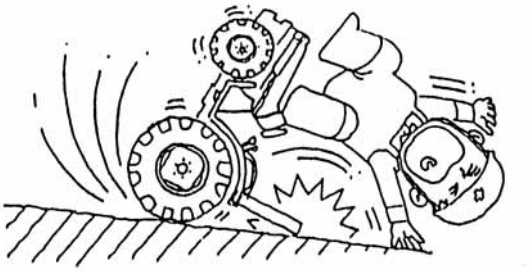
⚠警告 ◆作業機を着脱する前に，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。着脱作業は各部の動きが止まってから行なってください。 ●着脱は平坦な場所で，地盤のしっかりしたところで行う。 ●夜間は適切な照明をする。	トラクタが動き出したりして，思わぬ傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆トラクタに適合した作業機を装着してください。 ●作業機の取扱説明書を読む。 ●吊り穴は作業機に応じて指定された穴位置で使用する。 ●左右のチェックチェンを調整し，作業機が振れてもタイヤに触れないようにする。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業機の着脱で２人作業の時は合図を確実にし合って行なってください。 ◆スーパーヒッチで作業機を着脱する時は周囲を確認しトラクタや作業機の周囲から子供等，人を遠ざけてください。 ●トラクタを移動して作業機を着脱する時は，トラクタと作業機の間に進入しない。 ●装着は手順通り正しく行う。 ●確実に装着して，ピンに抜け止めピンをする。 ●作業者以外の人を近づけない。 ◆トップリンクの調整は作業機を下げてから行なってください。	機械にはさまれたりして，傷害事故を起こすことがあります。  作業機を上げたままで調整を行うと，トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり，傷害事故を引起こすことがあります。 

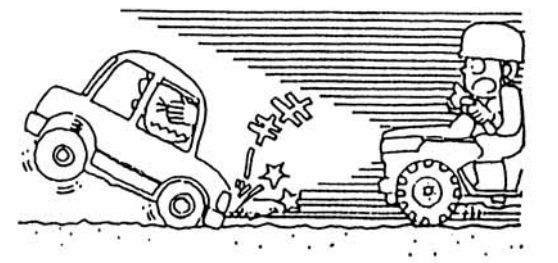
必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ヨーク（ユニバーサルジョイント）の安全カバーは取外さないでください。 ●安全カバーの回り止めをする。 ◆ヨークを確実にロックピンで固定してください。 ●ヨークは作業機に標準装備されているものを使用する。 ●ヨークは作業中真っ直ぐになるように装着する。	巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。  作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆各部のボルト，ナット，ロータリの爪等がゆるんでないか確認してください。 ●ボルト，ナット類，耕うん爪等の取付ボルトがゆるんだ状態であれば，直ちに締める。	作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆重い作業機を装着した時は，トラクタのフロントに，バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。	トラクタがバランスを崩し傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆フロントローダ作業をする時は，後方にウエイト又は他の作業機を装着するなどして，バランスを保ってください。 ●ウエイトがわりに人や物を乗せない。ローダに見合ったバランスウエイトを装着する。	バランスを崩し転倒事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業機の下へもぐったり，足を踏込んだりしないでください。	何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆点検，調整時，爪交換時などに外したカバー類は，すべて元の位置に正しく装着してください。 ●ロータリカバーは泥や石等が飛散しないように調節する。	機械に巻込まれたり，泥や石等がはねたりして傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業機ごとに指定されたPTO回転速度で使用してください。	作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆作業機を上げて点検する時や，草・ワラの巻付を除去する時は，作業機降下速度調節グリップを「固定」の位置にして作業機の下に「固定脚」を入れ，作業機が降りないことを確認してください。 ●駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，PTO変速を「《N》（中立）」にする。 ◆ロータリの耕うん爪を交換する場合は，メガネレンチを使用し正しい姿勢で締付けてください。	何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。  確実に締付けないと，作業中に爪が抜けてとび，傷害事故を引起こすことがあります。 

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆けん引作業は純正ドローバを使用し，後車軸の高さより上で引っ張らないでください。 ●けん引する時は，トラクタが後方に転倒しないように純正ドローバを使用し，ゆっくりスタートする。	転倒事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆公道を走行する時は，作業機を装着しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 （ロータリ等の作業機をつけて公道を走行すると交通法規違反となります。） 
⚠警告 ◆けん引や傾斜地での作業をするときは，支障のない範囲で輪距を広くしてください。	転倒事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆最大積載時総質量がトラクタの1.5倍を越えるトレーラは,けん引しないでください。	ブレーキが効きにくくなり，事故の原因となります。 
⚠注意 ◆PTO軸を使用しない時はPTOキャップを取付けてください。	巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。 

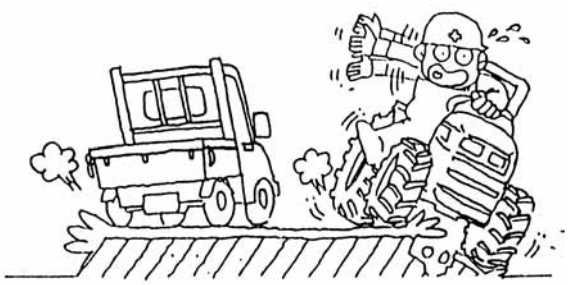
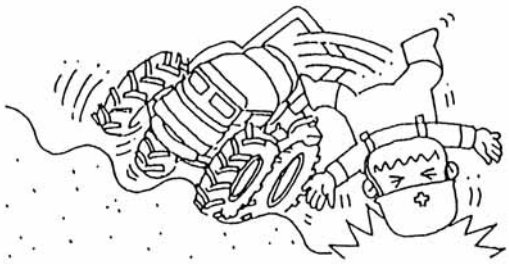
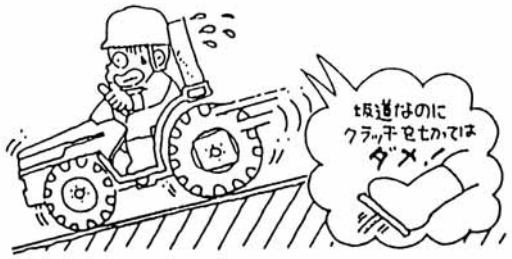
⚠走行運転をする時は……

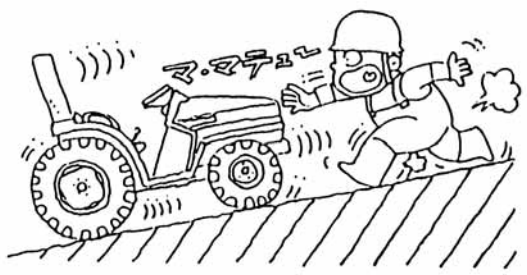
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆発進するときは，周囲を確認してから発進してください。 ●子供等，人がトラクタ及び作業機に近づかないようにし，周囲にいる人を遠ざけてから発進する。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認してください。 ●左右のブレーキペダルを連結する。 ●デフロックを解除する。	ブレーキが片ぎきになったり，ハンドル操作しても旋回できなかったりして事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆倍速旋回の「切」，PTO変速の「《N》(中立)」を確認してください。 ●発進前に,倍速旋回スイッチを「切」にする。 ●発進前に,PTO 変速を「《N》(中立)」にする。 ●傾き自動を「切」にする。	傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。 ●低速で発進する。 ●クラッチペダルはゆっくり離す。 ●旋回するときは，エンジン回転を低速にして行う。 ●エンジンコントロールレバーを「低」にし，フートアクセルで走行する。	転倒事故を引起こすことがあります。 

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆公道を走行する時は，交通法規を守り，安全フレームを起こし，ヘルメットを着用し，シートベルトをしてください。 ●作業機は装着しない。 ●周囲を確認しながら走行する。 ●わき見運転をしない。 ●低速車線を走る。	思わぬ傷害事故の原因となります。 トラクタ運転中は，気のゆるみが大事故につながることを忘れないようにしてください。 
⚠警告 ◆夜間の移動はライトをつけてください。 ●夜間，対向車とすれ違う場合は，前照灯を下向きにして走行する。	対向車の運転者が目をくらまし，交通事故を引起こす原因となることがあります。 
⚠警告 ◆駐車・停車する時は，平坦な場所で駐車ブレーキをかけてください。 ●作業機（ロータリ等）を降ろす。 ●座席を離れる時はエンジンを停止し，キーを抜取っておく。	トラクタが動き出し，思わぬ事故の原因となることがあります。 

⚠狭い道路，凸凹道，坂道，傾斜地で運転する時は……

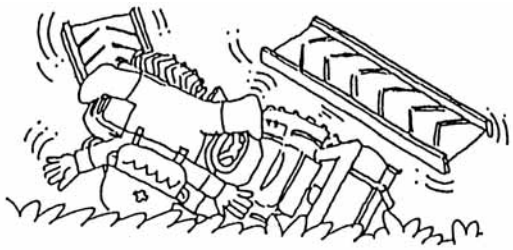
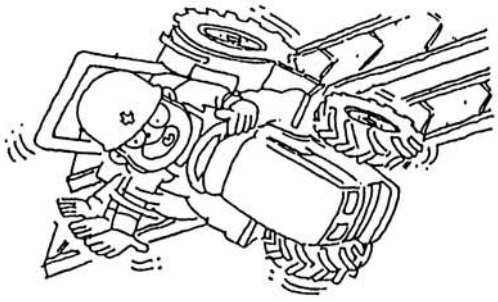
必 ず 守 っ て く だ さ い → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないでください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。 ●雨天や雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。	路肩がくずれ転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道，傾斜地や凸凹道，カーブの多い道路では，高速運転をしないでください。 ●スピードを落として慎重に走行する。	転倒事故を引起こします。 
⚠警告 ◆坂道，傾斜地では，主変速や副変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして，ニュートラルで走行しないでください。 ●坂にさしかかったら，坂の手前でいったんトラクタを止めて変速を低速に入れ変えて走行する。 ●下り坂では，速度を下げてエンジンブレーキを使用する。	エンジンブレーキがきかなくなってスピードが速くなり事故の原因となります。 

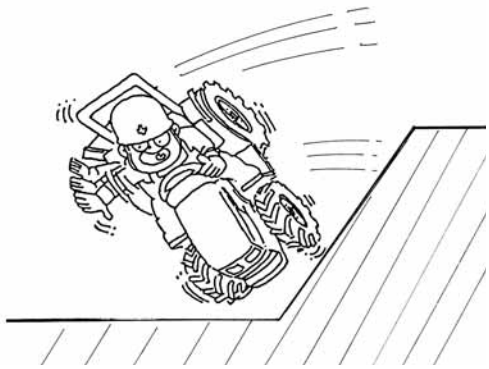
必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆坂道の途中や傾斜地での駐車はしないでください。やむをえず坂道の途中や傾斜地で駐車するときは，駐車ブレーキをかけて後輪に歯止めをしてください。 ●作業機（ロータリ等）は降ろす。 ◆副変速を《L》に入れ，主変速レバーを１速に入れ，シャトルレバーを前進又は後進に入れてください。	トラクタが動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆急な傾斜地では作業や走行をしないでください。	トラクタが転倒し傷害事故を引起こします。 
⚠警告 ◆果樹園作業，ハウス内作業では，走行速度を落とし周囲を確認して，慎重に運転してください。 ◆高さ制限のある場所では安全フレームを後方に倒すことができますが，この位置では身体を保護することはできません。その際はシートベルトはしないでください。 ●ヘルメットをかぶる。 ●切り株に乗り上げない。 ●枝にひっかからないようにする。	張り出した木の枝や，頭上の障害物で頭部や胸部を打って死亡または傷害事故になることがあります。 切り株等で転倒したり，ひっかけた枝にたたかれ死亡または傷害事故になることがあります。 

⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

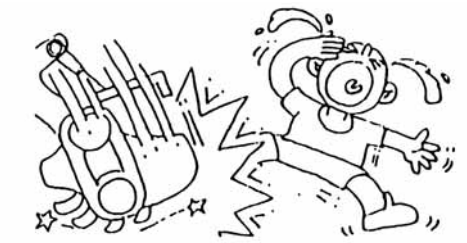
⚠警告 ◆アユミは充分な強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め，フックのあるものを使ってください。 ●前後輪のタイヤがはみ出さない幅の広いアユミを使用する。 ●自動車は積載重量を超えない車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用する。 ●自動車はエンジンを停止し変速を１速かバックに入れ駐車ブレーキをかけ，歯止めをする。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを自動車の荷台に平行に確実にかけてください。 ●２枚のアユミを左右のタイヤの間隔に合わせて置き，荷台に対して真っ直ぐにする。 ●荷台にアユミのフックを確実にかけ，外れないかを確認する。	バランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆積込みは後進，積降ろしは前進で行なってください。 ●補助者立会誘導のもとに行う。 ●機械のまわりに子供等，人を近づけない。 ●左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する。 ●アユミの上では，必要以上のハンドル操作はしない。 ●ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする。	進路変更するとバランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミの上では走行クラッチを切らないでください。 ●途中でトラクタを止める必要がないよう，アユミの左右位置や平行，安定を確認し，低速で積込み・積降ろしを行う。	エンジンブレーキがきかなくなり，急降下して事故を起こすことがあります。

⚠ほ場で作業をする時は……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆急傾斜，溝越え，高いあぜのあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ●ほ場への出入りは上がるときは後進，降りるときは前進で低速で行う。 ● PTO 変速を「《N》（中立）」にする。 ●アユミの上では必要以上のハンドル操作をしない。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こします。 
⚠警告 ◆あぜ越えは，低速であぜに直角に行なってください。 ●左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する。 ●あぜが崩れないか確認しゆっくり行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業中は，トラクタに人を近づけないようにしてください。 ●ほ場に子供等，人を入れない。 ●子供等，人が近寄らないようにする。 ●わき見運転をしない。特にあぜ際での旋回は，周囲に人がいないことを確認して行う。 ●あぜ際での作業はむりをせず，枕地に余裕をとって，周囲を確認しゆっくり旋回する。	作業機が衝突したりして傷害事故を引起こすことがあります。 

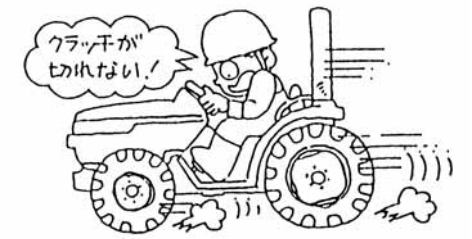
⚠ １日の作業が終わったら……

必 ず 守 っ て く だ さ い ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●エンジン，マフラ，燃料タンクまわりのワラ，草等を除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆保管は平坦な場所に置き，作業機（ロータリ等）は地面に降ろし，駐車ブレーキをかけてください。 ●キーは抜取っておく。 ● PTO 変速は「《N》（中立）」にしておく。	何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シートカバーをかける場合は，マフラやエンジンが確実に冷えてから行なってください。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを外さないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検はリザーブタンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 

⚠長期格納する時は……

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆各部を水洗いして，平坦な場所でエンジンを停止し駐車ブレーキをかけ，キーを抜取ってください。	機械から目をはなしたすきに子供等がイタズラをしたり，思わぬ事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆故障個所，爪の摩耗があれば，早目に修理，交換します。 ◆ボルトやナットがゆるんだ状態であれば，直ちに締付けます。 	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆バッテリはトラクタから外して保管するか，⊖側のコードを外しておいてください。 ●バッテリをトラクタから外して保管する時は，⊖側のコードから外す。	火災事故の原因となることがあります。 

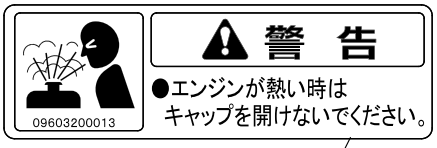
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆格納するときは，クラッチ板こう着防止のためクラッチ板を離した状態にしておいてください。 ●クラッチペダルを一杯踏込んでフックをかける。 ●後輪の前後に歯止めをし，駐車ブレーキをかけておく。	クラッチが切れなくなり思わぬ事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆作業機は外すか，降ろしておいてください。	何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。 	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 

2. 表示ラベルについて

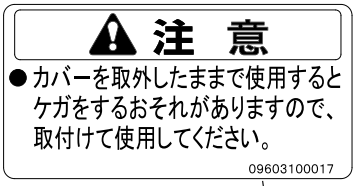
このトラクタには各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している**「表示ラベル」**が貼り付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき，注意を守って操作ください。

また，トラクタに貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買い上げ先」**に注文して購入し貼り替えてください。

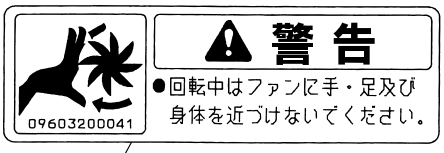
①



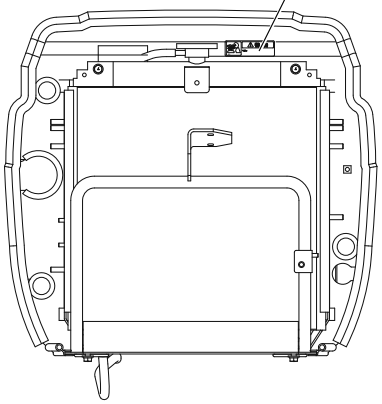
②サイドカバー内側（左右）

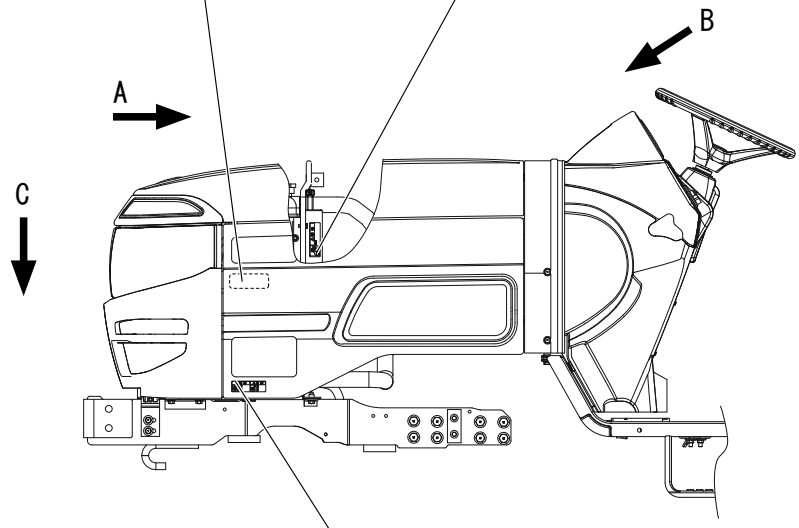


③

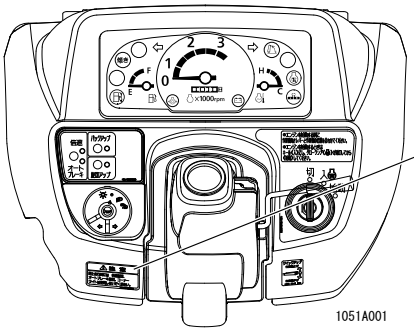


A 矢視

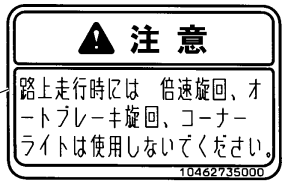




B 矢視



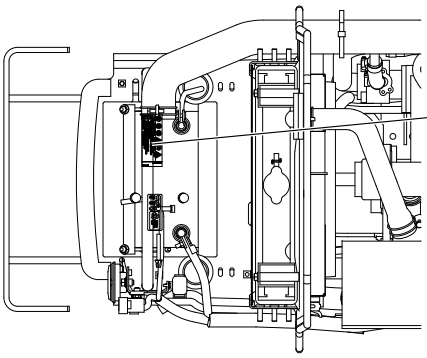
⑤



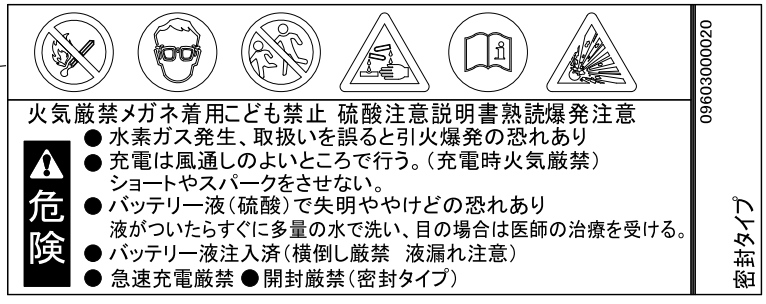
④



C 矢視



⑥



⑦ [2 柱フレーム仕様]

警 告

●駐車する時や、ほ場作業以外の走行をする時は、左右のブレーキペダルを連結してください。

09603200016

⑧

火気厳禁

警 告

給油時エンジン停止

軽 油

09603200054

⑨ [2 柱フレーム仕様]

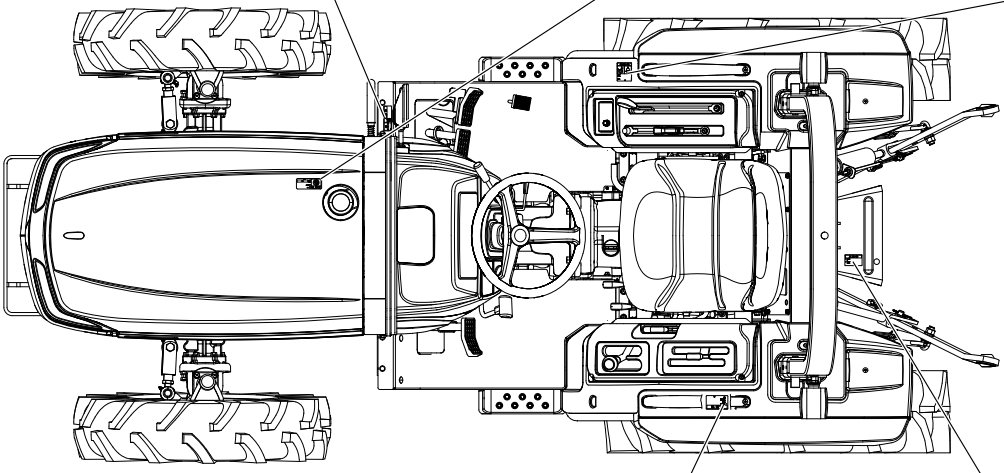
警 告

■運転する時は

●安全フレームを起こし矢印の位置にピンをセットしてください。

●シートベルトを締めてください。

09603200021



⑪ [2 柱フレーム仕様]

注 意

● トラクタから降りる時はエンジンを停止してください。
乗り降りする時変速レバーに触れると、トラクタが動き出すことがあります。

10382764001

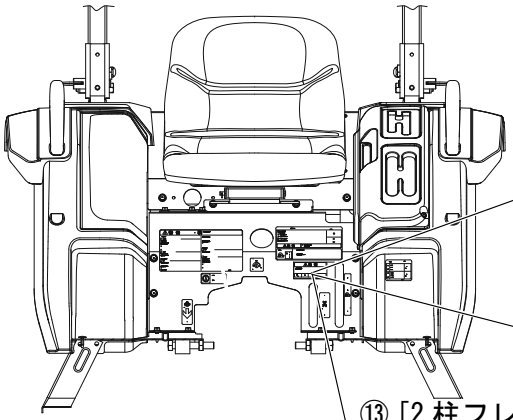
⑩

注 意

◉ ＰＴＯガードの上に乗らないでください。

◉ ＰＴＯ軸を使用しない時は，ＰＴＯキャップを取付けてください。

19682747000



⑳ [2 柱フレーム仕様]
[ナロートレッド仕様]

注 意

本車両は，　後輪距を下表の通り調整（調整要領は，取扱説明書参照）した時以外は，道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	960

1051 8768 000

⑬ [2 柱フレーム仕様][24 型]

注 意

本車両は，　後輪距を下表の通り調整（調整要領は，取扱説明書参照）した時以外は，道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1010

1051 8756 000

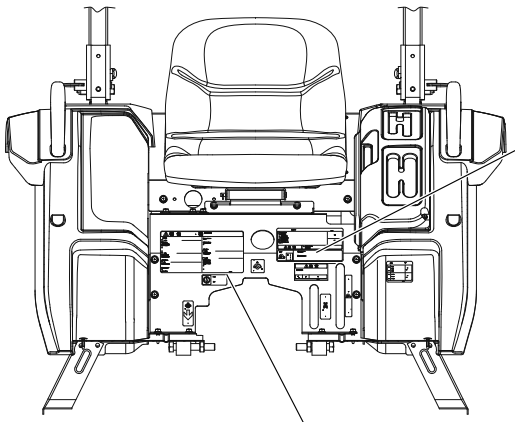
⑭ [2 柱フレーム仕様][24 型大径タイヤ仕様]
[27・30 型]

注 意

本車両は，後輪距を下表の通り調整（調整要領は，取扱説明書参照）した時以外は，道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1050

1956 2726 000



⑫ [2 柱フレーム仕様]

取扱いのポイント　1046 2731 000

■ 倍速旋回・オートブレーキ旋回を使用する時は
● 副変速が《高速》の時は、作動しません。
● 入・切時は，前輪タイヤを直進状態にしてください。
● 作動できる状態の時は，パネルの表示ランプが点灯します。
■ オートブレーキ旋回を使用すると，倍速旋回も作動します。
■ オートブレーキ旋回を使用する時は，左右のブレーキペダルの連結を外してください。

倍速

オートブレーキ

⚠ 注 意

● 道路走行、自動車への積み降ろし、ほ場への出入り、傾斜地作業，フロントローダ作業時は使用しないでください。

超低速の使い方

主変速 1 2 3 4

●超低速はロータリー深耕，ロータリー細土，プランタ，農用トレンチャ作業に使用してください。
●超低速は次の作業に使用しないでください。
湿田脱出，ドッキングローダ，牽引，土木，フロントブレード，圃場への出入，車への積おろし作業

⑮ [2 柱フレーム仕様]

⚠ 警 告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起こさないために

□ エンジンを始動する前に
○ 本機や作業機の周囲から人を遠ざけてください。
○ すべてのカバーをセットして、安全フレームをおこしてください。
○ 座席に座り、駐車ブレーキをかけ、シートベルトをしてください。
○ 変速レバー及びPTOレバーを《N》(中立)にして、クラッチペダルを踏んでください。
○ 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気をしてください。

□ 正しい操作方法で
○ 運転する時は、本機や作業機に人や物をのせないでください。
○ エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
○ 公道を走行する時は、作業機を装着しないでください。

□ 転倒防止
○ ほ場の出入り、アユミの上、道路を走行する時は、左右のブレーキペダルを連結してください。デフロックは使用しないでください。
○ 発進、旋回、坂道、傾斜地、荒地では低速で運転してください。
○ 傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。下り坂ではエンジンブレーキを使用し、クラッチ操作や変速操作はしないでください。
○ 路肩に寄りすぎないでください。軟弱な路肩、草の生い茂っている所は走行しないでください。
○ あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。
○ 自動車への積込み・積降ろし、高あぜ・溝越えは、アユミを使用し、上がる時は後進、降りる時は前進で、低速で行なってください。クラッチ操作や変速操作はしないでください。
○ けん引作業はドローバを使用してください。

□ 停止する時は
○ 平坦な場所で、駐車ブレーキをかけ、変速レバー及びPTOレバーを《N》(中立)にし、作業機を降ろした後、エンジンを停止してください。座席を離れる時はキーを抜取ってください。

□ 清掃・点検・整備
エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
○ 作業機を上げて、清掃・点検・整備をする時は、油圧をロックして、さらに作業機の下に固定脚を置いてください。
○ ラジエータキャップを開けたり、エンジン回りを清掃・点検・整備する時は、エンジンが冷えてから行なってください。
○ 火災防止のため、エンジン、マフラ、燃料タンク周囲のワラや草等を掃除してください。

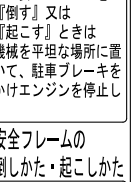
09603200032 トラクタ

⑰ [2 柱フレーム仕様]

⚠ 注 意

• 安全フレームを『倒す』又は『起こす』ときは機械を平坦な場所に置いて、駐車ブレーキをかけエンジンを停止し

安全フレームの倒しかた・起こしかた



固定状態

1. 左右のピンを外側に引き、約1／4回転させて固定を解除します。
2. ロールバーを少し倒し、ピンを元の状態に戻します。
3. ピンがカチッと固定されるまで、ロールバーをゆっくりと回動します。
4. ピンが確実に固定されているか、確認してください。

10452751000

⑯ [2 柱フレーム仕様]

⚠ 警 告

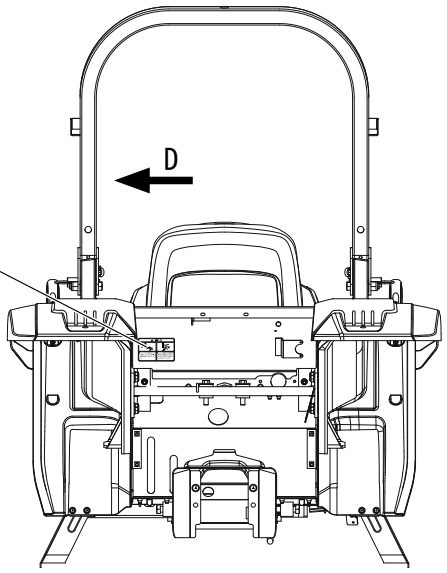


●エンジンまたは動力シャフトが回転しているときは手・足衣服等を近づけないでください。

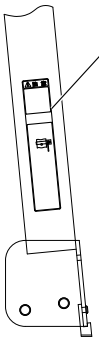


●エンジン回転中は作業機昇降装置及び作業機にはさまれ，ケガをするおそれがあるので近づかないでください。

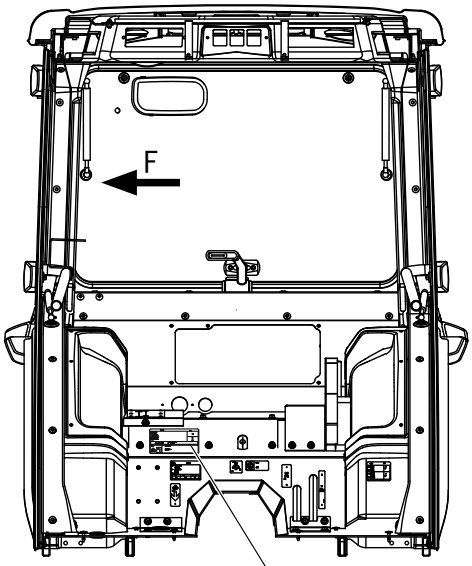
0960 3200 062

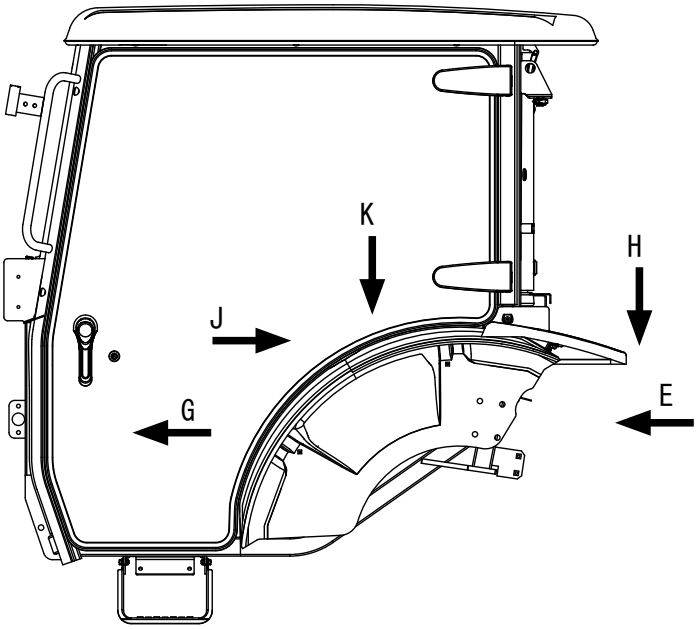


D 矢視



J 矢視





⑫ [キャビン仕様]

取扱いのポイント

1046 2731 000

■ 倍速旋回・オートブレーキ旋回を使用する時は
●副変速が《高速》の時は、作動しません。
● 入・切時は，前輪タイヤを直進状態にしてください。
● 作動できる状態の時は，パネルの表示ランプが点灯します。
■ オートブレーキ旋回を使用すると，倍速旋回も作動します。
■ オートブレーキ旋回を使用する時は，左右のブレーキペダルの連結を外してください。

倍速

オートブレーキ

⚠ 注 意

● 道路走行、自動車への積み降ろし、ほ場への出入り、傾斜地作業，フロントローダ作業時は使用しないでください。

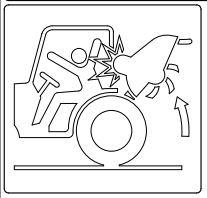
超低速の使い方

主変速 1 2 3 4

●超低速はロータリー深耕，ロータリー細土，プランタ，農用トレンチャ作業に使用してください。
●超低速は次の作業に使用しないでください。
湿田脱出，ドッキングローダ，牽引，土木，フロントブレード，圃場への出入，車への積おろし作業

⑱ [キャビン仕様]

⚠ 警 告

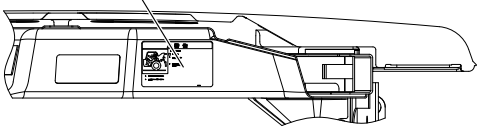


傷害事故や機械の破損を防止するために
□ 作業機を装着するときは
● ポジションコントロールレバーの上限ストッパで上げ高さを規制してください.
● 作業機の上げ高さ規制をする時はクイックアップレバーおよびバックアップスイッチ《入》，旋回アップ《入》を使用しないでください.

● 本機および作業機の取扱い説明書をよく読み正しく装着してください.
● キャビン装着機ではリヤウインドウの開放時についても当たらないようにしてください.

10518861000

F 矢視



⑯ [キャビン仕様]

⚠ 警 告



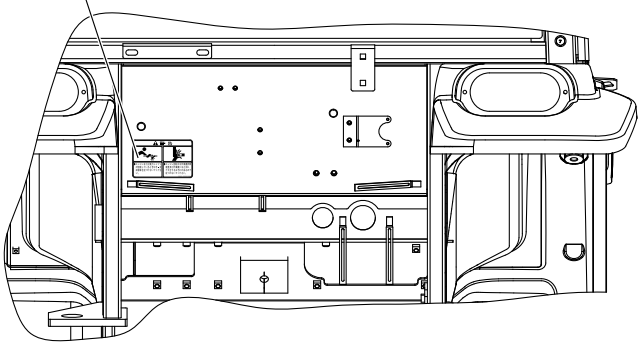


●エンジンまたは動力シャフトが回転しているときは手・足衣服等を近づけないでください。

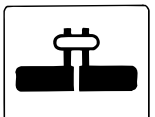
●エンジン回転中は作業機昇降装置及び作業機にはさまれ，ケガをするおそれがあるので近づかないでください。

0960 3200 062

E 矢視



⑦ [キャビン仕様]

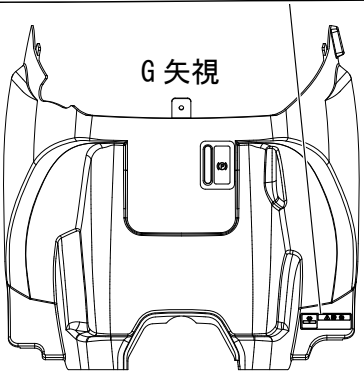


09603200016

⚠ 警 告

●駐車する時や、ほ場作業以外の走行をする時は、左右のブレーキペダルを連結してください。

G 矢視



1051A003

⑭［キャビン仕様］

⚠ 注 意

本車両は，後輪距を下表の通り調整（調整要領は，取扱説明書参照）した時以外は，道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1050

1956 2726 000

⑪［キャビン仕様］

⚠ 注 意

○ トラクタから降りる時はエンジンを停止してください。
乗り降りする時変速レバーに触れると，トラクタが動き出すことがあります。

10382764001

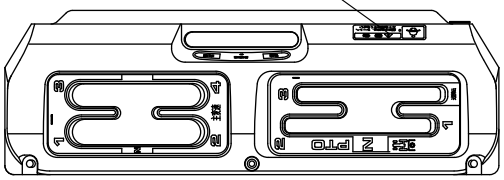
⑲［キャビン仕様］



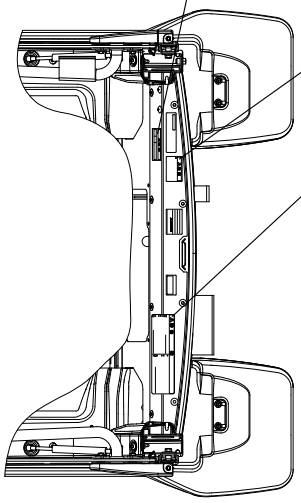
⚠ 警 告

● 運転をする時は，シートベルトを締めてください。

K 矢視



H 矢視



⑮［キャビン仕様］

⚠ 警 告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起こさないために

□ エンジンを始動する前に
- ○ 本機や作業機の周囲から人を遠ざけてください。
- ○ すべてのカバーをセットして、安全フレームをおこしてください。
- ○ 座席に座り、駐車ブレーキをかけ、シートベルトをしてください。
- ○ 変速レバー及びPTOレバーを《N》(中立)にして、クラッチペダルを踏んでください。
- ○ 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気をしてください。

□ 正しい操作方法で
- ○ 運転する時は、本機や作業機に人や物をのせないでください。
- ○ エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- ○ 公道を走行する時は、作業機を装着しないでください。

□ 転倒防止
- ○ ほ場の出入り、アユミの上、道路を走行する時は、左右のブレーキペダルを連結してください。デフロックは使用しないでください。
- ○ 発進、旋回、坂道、傾斜地、荒地では低速で運転してください。
- ○ 傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。下り坂ではエンジンブレーキを使用し、クラッチ操作や変速操作はしないでください。
- ○ 路肩に寄りすぎないでください。軟弱な路肩、草の生い茂っている所は走行しないでください。
- ○ あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。
- ○ 自動車への積込み・積降ろし、高あぜ・溝越えは、アユミを使用し、上がる時は後進、降りる時は前進で、低速で行なってください。クラッチ操作や変速操作はしないでください。
- ○ けん引作業はドローバを使用してください。

□ 停止する時は
- ○ 平坦な場所で、駐車ブレーキをかけ、変速レバー及びPTOレバーを《N》(中立)にし、作業機を降ろした後、エンジンを停止してください。座席を離れる時はキーを抜取ってください。

□ 清掃・点検・整備
エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- ○ 作業機を上げて、清掃・点検・整備をする時は、油圧をロックして、さらに作業機の下に固定脚を置いてください。
- ○ ラジエータキャップを開けたり、エンジン回りを清掃・点検・整備する時は、エンジンが冷えてから行なってください。
- ○ 火災防止のため、エンジン、マフラ、燃料タンク周囲のワラや草等を掃除してください。

09603200032 トラクタ

警告ラベル一覧表

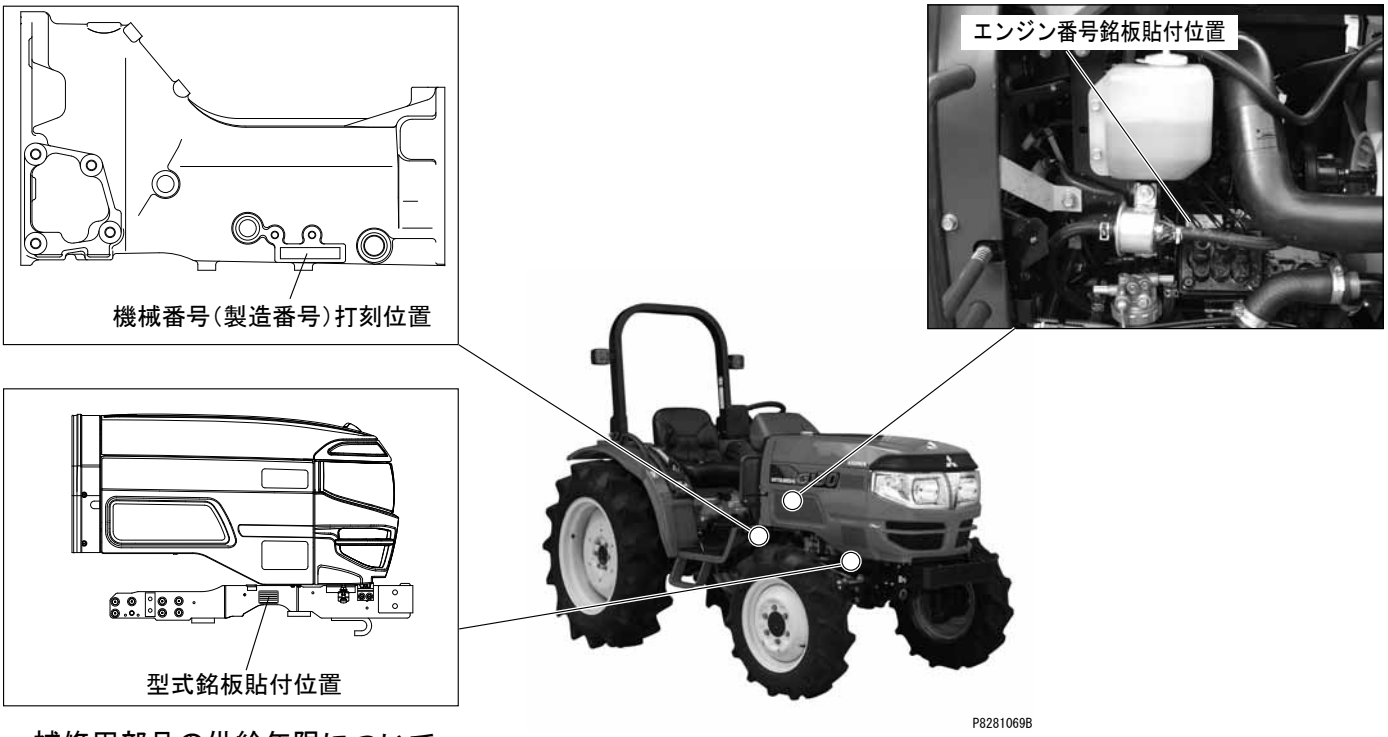
No	部品番号	品名
1	0960 3200 013	LABEL WARNING
2	0960 3200 017	LABEL C COVER
3	0960 3200 041	LABEL LABEL W FAN
4	0960 3200 023	LABEL W MUFFLER
5	1046 2735 000	LABEL C PTO
6	0960 3000 020	LAVEL BATTERY
7	0960 3200 016	LABEL WARNING
8	0960 3200 054	LABEL DANGER
9	0960 3200 021	LABEL W FRAME
10	1968 2747 000	LABEL C PTO
11	1038 2764 001	LABEL MARK
12	1046 2731 000	LABEL CAUTION
13	1051 8756 000	LABEL REAR TREAD
14	1956 2726 000	LABEL REAR TREAD
15	0960 3200 032	LABEL WARNING
16	0960 3200 062	LABEL W S&L
17	1045 2751 000	LABEL ROPS
18	1051 8861 000	LABEL WARNING
19	1208 6266 001	LABEL
20	1051 8768 000	LABEL REAR TREAD

ご使用まえに

1. 保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。

・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは**「お買いあげ先」**にご相談ください。その際**「型式」・「機械番号（製造番号）」**と**「エンジン番号」**をお知らせください。



補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

機械の使用目的について

・機械は，**ほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。**使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。

・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。詳細は保証書をご覧ください。

⚠警告 **機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。**
機械を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

主な仕様（装備）は次のようになっています。

仕様（装備）の異なった製品については，異なる点のみ追加説明していますので，お買いあげの製品の仕様（装備）をお確かめのうえ，まちがいのないように活用してください。

品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行うことがあります。その際には，本書の内容および写真・イラストなどの一部が，本製品と一致しない場合がありますので，ご了承ください。

仕様														
型式名	区分	エンジン		ステアリング		逆転PTO	クイックアップ	制御システムJAC	2柱フレーム	キャビン	タイヤ			
											ハイラグ		畑用	
		エンジン型式	エンジン出力 KW {PS}	倍速旋回	オートブレーキ						前輪	後輪	前輪	後輪
三菱GJ24	D	S3L3-11A	17.7 {24}	○	○	○	○	○	○	－	6-14	9.5-22	－	－
	DN			○	○	○	○	○	○	－	7-14	9.5-24	－	－
	DL			○	○	○	○	○	○	－	7-14	9.5-24	－	－
三菱GJ27	D	S3L3-12A	19.9 {27}	○	○	○	○	○	○	－	7-14	9.5-24	－	－
	DN			○	○	○	○	○	○	－	7-14	9.5-24	－	－
	DL			○	○	○	○	○	○	－	7-16	11.2-24	－	－
	DX			○	○	○	○	○	－	○	7-14	9.5-24	－	－
	DXL			○	○	○	○	○	－	○	7-16	11.2-24	－	－
三菱GJ30	D	S3L3-13A	22.1 {30}	○	○	○	○	○	○	－	7-16	11.2-24	－	－
	DN			○	○	○	○	○	○	－	7-14	9.5-24	－	－
	DX			○	○	○	○	○	－	○	7-16	11.2-24	－	－
	DA			○	○	○	○	○	○	－	－	－	7-16	11.2-24
	DXA			○	○	○	○	○	－	○	－	－	7-16	11.2-24

型式記号の説明

D：マイクロコンピュータ装備機（JAC：傾き自動）

L：大径タイヤ仕様

X：キャビン装備仕様

A：畑用タイヤ（並ラグ）

N：ナロートレッド仕様

3. 用語について

❶ この取扱説明書に使用している**「前後・左右・右回り・左回り」**などの用語は図示のように決めています。



この取扱説明書はGJ30を基本に説明してあります。GJ30と異なる場合は,そのつど［24型］……［27型］及び［キャビン仕様］［2柱フレーム仕様］で記載し，追加説明しています。

区分	本文表示
GJ24	[24型]
GJ27	[27型]
GJ30	[30型]
GJ30X等	[キャビン仕様][キャビン装備機]
GJ30X等以外	[2柱フレーム仕様][2柱フレーム装備機]
GJ24N, GJ27N, GJ30N等	[ナロートレッド仕様]
GJ24L, GJ27L等	[大径タイヤ仕様]
GJ30DA等	[畑用タイヤ仕様]

❷ **マークの説明**

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

- ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意……安全上重要な事項を 3 段階に分けて説明していますので必ず読んでください。
- 取扱いのポイント ……機械の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

4. 小型特殊自動車について

このトラクタは，道路交通法，道路運送車両法の**「小型特殊自動車」**に該当します。

1. 小型特殊自動車の届出

❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出て，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・ 手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは**「市（町・村）役所」**または**「お買いあげ先」**にご相談ください。

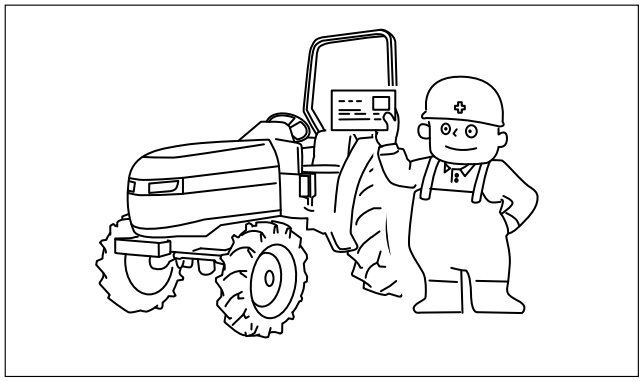
小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（**「お買いあげ先」**で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出て，ナンバープレートの交付を受けてください。

ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2. 運転免許

❶ 公道走行する時は，小型特殊免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷ 「小型特殊自動車」の運転免許で運転できる自動車の基準

車体の大きさ	全長	4.7 m以下
	全幅	1.7 m以下
	全高	2.0 m以下（注１）
最高速度		15Km/h 以下
原動機の総排気量		制限なし

（注１）ただし，安全キャブ，安全フレーム，その他これらに類する装置（キャノピ）を除いた部分の高さが2.0m以下のものは2.8m以下。

3. 公道を走行する時

公道を走行する時は，道路交通法等関係法規を守り次の注意事項に従って，**「安全速度」**で走行してください。

❶ 作業機を取付けた状態では走行しない。

❷ 指定輪距以外での走行はしない。

2 柱フレーム仕様はシート下のカバーに指定輪距表を貼付しています。(37 ページ参照)



キャビン仕様はシート後部に指定輪距表を貼付しています。(37 ページ参照)



❸ 任意保険のお勧め

万一の交通事故にそなえ，任意保険に加入されるようお勧めします。

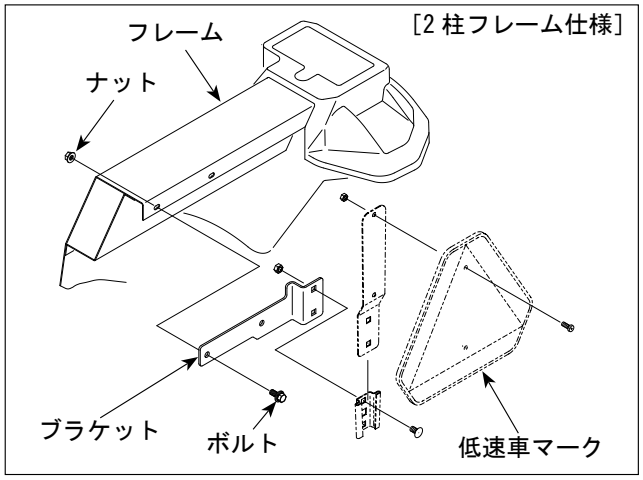
❹ 公道走行中は作業灯を点灯しない。

❺ 低速車マーク装着のお勧め

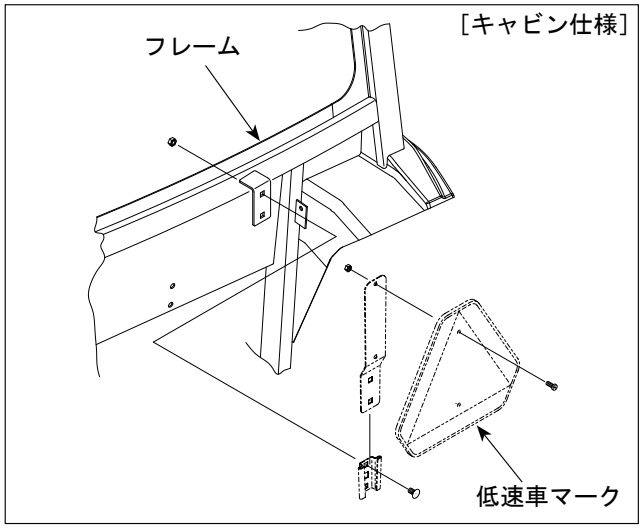
公道を走行する時は後部に**“低速車マーク”**を装着されることをお勧めします。

・低速度で走っていることを早めに後方に知らせるためのマークです。

・**“低速車マーク”**の購入，取付けについては**「お買いあげ先」**に相談してください。



“低速車マーク”を本体に取付けるためのブラケットは部品袋に入っています。



取扱いのポイント

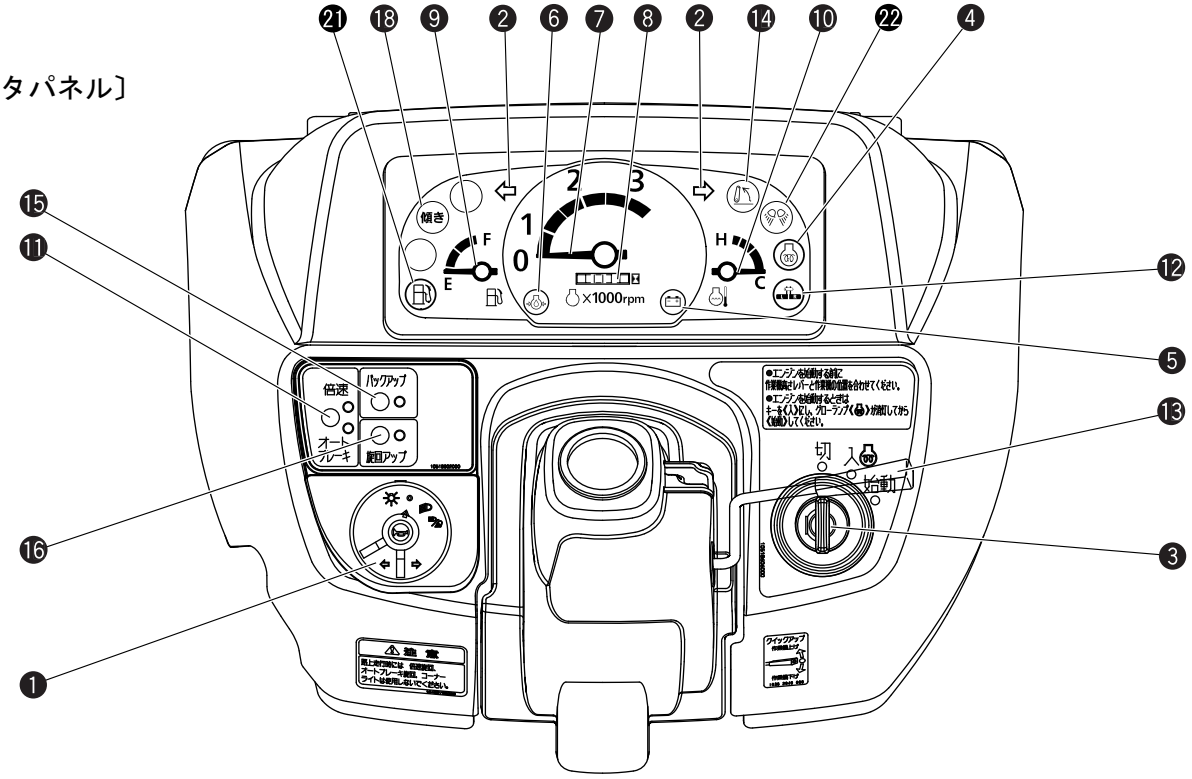
・キャビン仕様車のリヤガラスの開閉時には“低速車マーク”を抜いてください。

各部の名称

1. 運転装置の名称

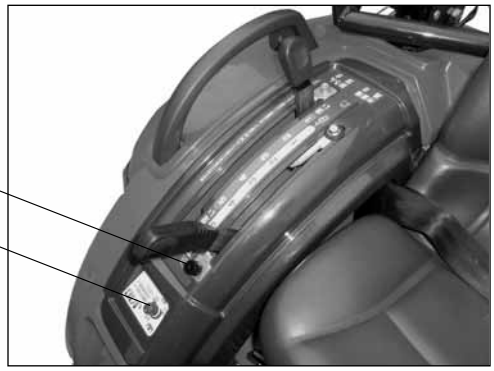
1. スイッチ，計器関係

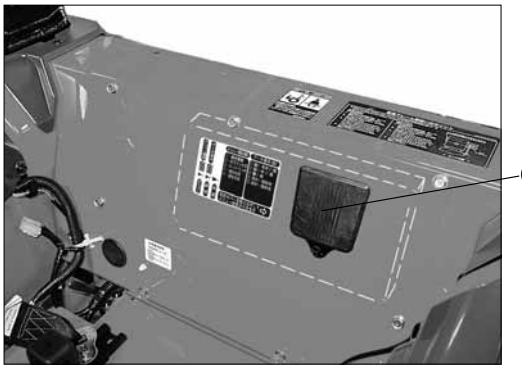
〔メータパネル〕



1051A001B

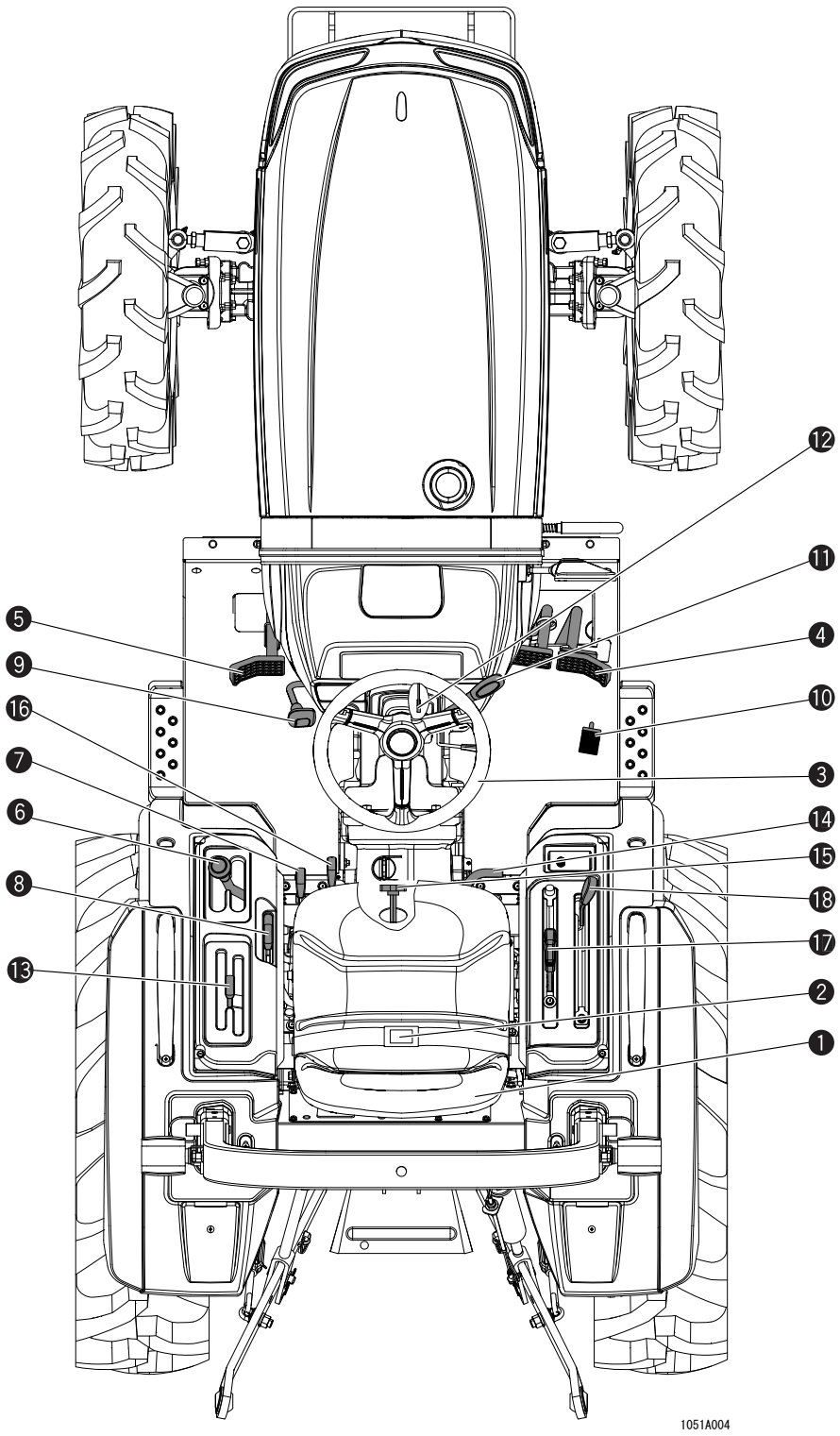
〔サイドパネル〕





No.	名　　称	参照ページ	No.	名　　称	参照ページ	No.	名　　称	参照ページ
❶	コンビネーションスイッチ	11	❾	燃料計	14	⓱	傾き自動スイッチ	31
❷	ウインカーパイロットランプ	11	❿	水温計	14	⓲	傾き自動ランプ	31
❸	スタータスイッチ	13	⓫	倍速旋回/オートブレーキ旋回スイッチ	26, 27	⓳	下げ位置規制ノブ	28
❹	グローランプ	13	⓬	ブレーキ連結ランプ	12, 15	⓴	マイコン操作部	31
❺	チャージランプ	13	⓭	クイックアップレバー	29	㉑	燃料ランプ	14, 59
❻	エンジンオイルランプ	13	⓮	リフトアップランプ	29, 30	㉒	コーナーライトランプ	11
❼	タコメータ	13	⓯	バックアップスイッチ	29			
❽	アワメータ	13	⓰	旋回アップスイッチ	30			

2. レバー，ペダル，シート関係



No.	名　　称	参照ページ
❶	シート	9
❷	シートベルト	9
❸	ハンドル	19
❹	ブレーキペダル	15
❺	クラッチペダル	16
❻	主変速レバー	17
❼	超低速レバー	17
❽	副変速レバー	17
❾	シャトルレバー	17
❿	フートアクセルペダル	19
⓫	エンジンコントロールレバー	19
⓬	駐車ブレーキレバー	12
⓭	ＰＴＯ変速レバー	34
⓮	デフロックペダル	35
⓯	作業機降下速度調節グリップ	36
⓰	４ＷＤレバー	35
⓱	ポジションコントロール	28
⓲	ＰＡＣレバー	28

運転のしかた

1. 運転まえの点検

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆点検や整備または給油・給水・注油する時には，トラクタを平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止してから行なってください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は燃料補給をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行なってください。

1. 点検項目

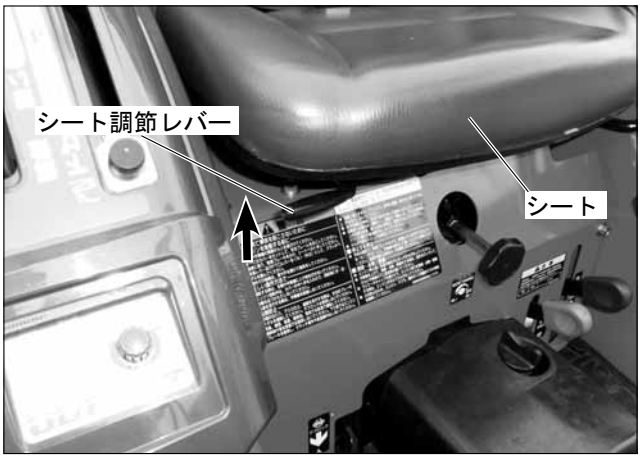
・点検は**「定期点検整備表」**(52 ～ 53 ページ) を参照して作業前に欠かさず行なってください。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは**「お買いあげ先」**に相談し点検を受けてください。

	点検個所		処置
運転まえに	エンジンオイル(エンジンクランクケース)	・レベルゲージの上下限線の間に油量があれば良い。	・不足時は油面がレベルゲージの刻み線**「上限」**になるまで補給する。(57 ページ参照)
	冷却水(ラジエータ)	・リザーブタンクに適量あるか。(給水レベルの上限と下限の間にあること)	・不足していれば冷却水をリザーブタンクに適量補給する。(61 ～ 62 ページ参照)
	ラジエータスクリーン ラジエータフィン	・ラジエータスクリーンの目詰まりはないか。 ・ラジエータフィンの目詰まりはないか。	・スクリーンを抜取り掃除してください。 ・圧縮空気で掃除してください。 (67 ページ参照)
	エアクリーナ	・エアクリーナエレメントの汚れ目詰まりはないか。	・エレメントを取外し掃除してください。(67 ページ参照)
	タイヤ	・空気圧は適正か。 ・ボルト，ナットのゆるみはないか。	・前輪 150kPa(1.5kgf/cm²), 後輪 100kPa (1.0kgf/cm²) (73 ページ参照)
	ホース	・燃料ホース，油圧ホースの損傷，外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料，油もれがないか。	・もれている場合，ホースの交換。 (74 ページ参照)
スタータスイッチを《ON》にして	燃料計	・作業に必要な燃料があるか。	・ディーゼル軽油を補給する。 (58 ～ 59 ページ参照)
	ホーン	・ホーンスイッチを押せば鳴るか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ処置する。(75 ～ 78 ページ参照)
	方向指示灯等の保安部品	・正常に作動するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。 (75 ～ 78 ページ参照)
エンジンを始動して	インジケータランプ	・グロー，チャージ，エンジンオイルランプは消灯するか。	・エンジンオイルを補給する。・充電する。 ・異常個所を調べ，処置する。 (13, 57, 82 ページ参照)
	回転計(タコメータ)	・正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。 (13 ページ参照)
	ステアリング及び各レバー類	・ハンドルを回し正常に作動するか。 ・各レバーを操作し正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。 (12 ～ 20，90 ページ参照)
	ブレーキペダル クラッチペダル	・低速で走行してペダル操作時に正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。 (66, 70, 72 ページ参照)

2. 運転まえの準備

❶ シート

シートの前後位置がシート調節レバーを矢印方向に回すことにより，調節できます。



❷ シートベルト

⚠警告 傷害事故防止のために

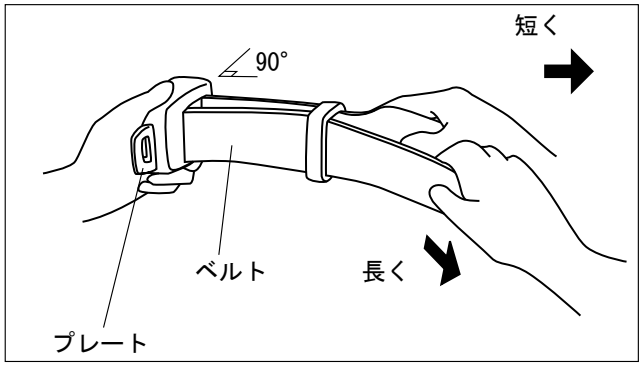
◆安全フレームをおこして使用する時は，シートベルトをしてください。

◆安全フレームをたおして使用する時は，シートベルトはしないでください。

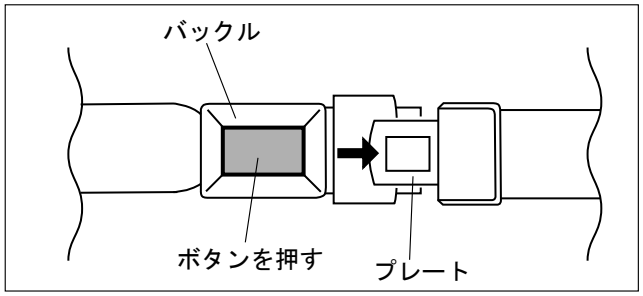


(1) シートベルトがねじれないようにして，プレートをバックルに“カチッ”と音がするまではめ込みます。

(2) 長さの調整は，ベルトをプレートと直角にして行います。ベルトを着けた時に腰部とベルトの間に手のひらが入る程度に長さを調整します。



(3) シートベルトを外す時はバックルのボタン（中央の赤い部分）を押すと外れます。外したベルトはバックルとプレートをはめておきます。



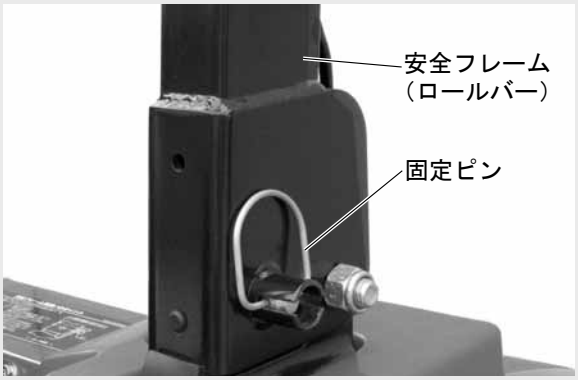
3. 安全フレームの取扱い

安全で快適な農作業をしていただくために，下記のことを守って行います。あわせて**「安全作業をするために」**の項をよく読み正しい取扱いをします。



⚠警告 傷害事故防止のために

◆安全フレームは，トラクタが転倒した時に身を守るものですから，安全フレームを「おこして」固定ピンをセットして使用してください。



◆安全フレームを「おこして」使用する場合はシートベルトをしてください。

◆安全フレームを「たおす」または「おこす」時は機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止してから行なってください。

◆高さ制限のある屋内，果樹園等での作業は安全フレームを後方にたおして行うことができますが，この位置では身体を保護することはできませんのでシートベルトはしないでください。

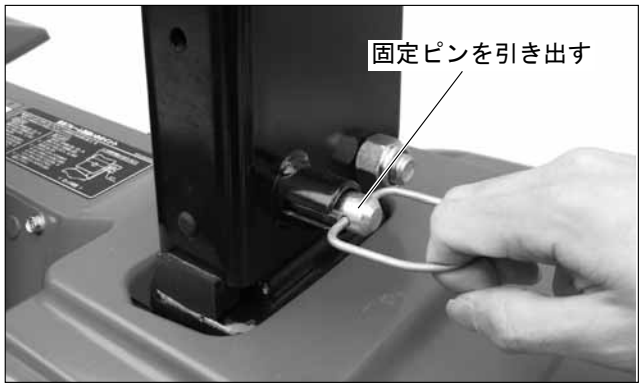
◆たおして使用する時は，フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくり上げて当たらないことを確認してください。

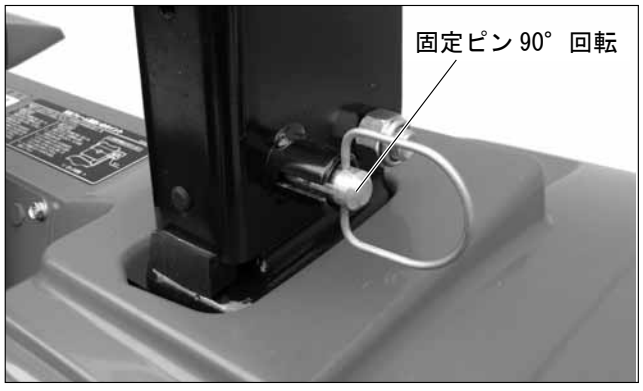
◆安全フレームに別部品を溶接したり，穴をあける等の改造はしないでください。
万一，事故により安全フレームが変形した場合は，新しい部品と交換してください。

◆交換部品は，純正部品を使用してください。

❶ たおしかた

(1) ロールバーが倒れないように手で支えながら固定ピンを引き出し，約 90° 回転させます（左右共)。これでロールバーの固定が外れ，倒すことができます。

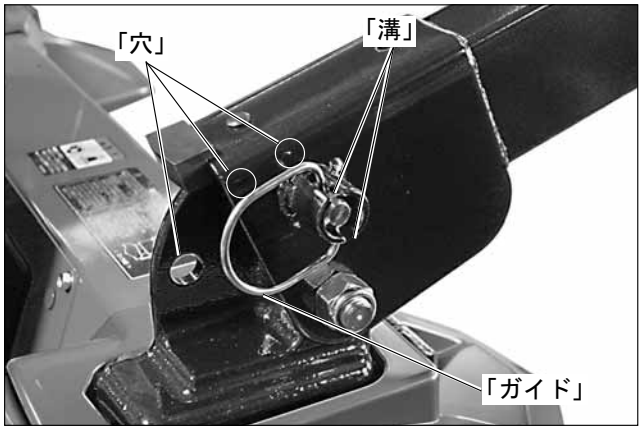




(2) ロールバーを支えながら，ゆっくりと倒します。



(3) 固定ピンを回して「溝」に「ガイド」がはまる状態にしておきます。この状態でロールバーを上下に動かすと，固定ピンが「穴」にセットされ，固定されます。（ロールバーが固定される位置は起した状態，倒した状態と，その中間位置の３個所です。）



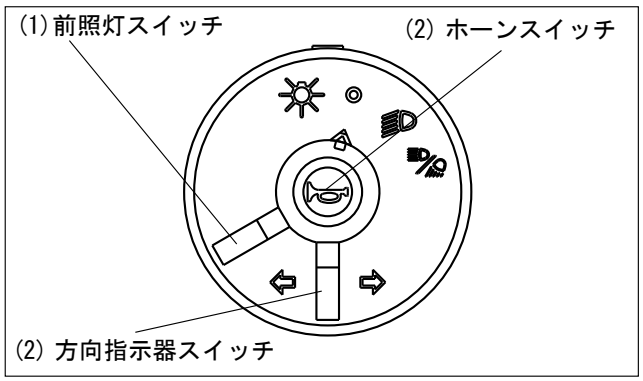
❷ おこしかた

ロールバーを倒す手順と逆の手順で起すことができます。

ロールバーを起した時，左右の固定ピンが確実にセットされていることを確認してください。セットされていないと，作業中，走行中にロールバーが倒れたり，事故が起きた際に安全装置としての機能を果たしません。

4. 灯火類の操作

❶ コンビネーションスイッチ



(1) 前照灯スイッチ

《 ◎ 》……消灯

《 》……メータ類ランプ及び前照灯点灯

《 》……メータ類ランプ，前照灯及びコーナーライト点灯

(2) ホーンスイッチ

ホーンスイッチを押すと警報がなります。

(3) 方向指示器スイッチ

右折，左折のとき使用します。

……（左折）

……（右折）

取扱いのポイント

●公道走行中は，《 》にしないでください。（コーナーライトは作業灯ですので公道では使用できません。）

2. 運転操作のしかた

各項目の操作手順に従って行なってください。

1. エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

◆安全フレームをおこしてください。
◆ステップの左側から乗降してください。
◆点検などで取外したカバー類は全て取付けてください。カバーがないと衣服が巻込まれたりしてけがをすることがあります。
◆トラクタに乗車する前に，トラクタの外周を見て回り，異常がないことを確認してください。
◆主変速,PTO 変速レバーを「《N》(中立)」にし，駐車ブレーキをかけてから，エンジンを始動してください。
◆エンジンの始動，発進する時は，周囲の人に合図をしトラクタや作業機のまわりから人を遠ざけてください。
◆エンジンの始動はシートに座って，シートベルトをしめてから行なってください。
◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆トラクタや作業機に子供等，人や物を乗せないでください。
◆暖機運転は主変速，PTO 変速レバーを「《N》(中立)」にし，駐車ブレーキをかけてから行なってください。
◆エンジンを始動する前に
①ポジションコントロールレバーと作業機の位置を合わせてください。
・作業機が下がっていたらポジションコントロールレバーを下げ位置，作業機が上がっていたらポジションコントロールレバーを上げ位置にしてください。
②エンジンを始動するまで，クイックアップレバーを操作しないでください。
守らないと，作業機が思わぬ方向に動く場合があります。

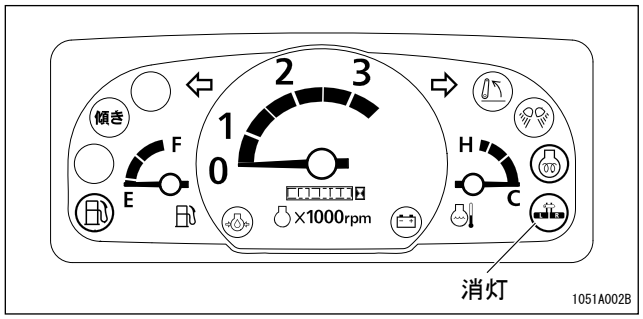
⚠注意

◆点検などで取外したカバー類は全て取付けてください。カバーがないと衣服が巻込まれたりしてけがをすることがあります。

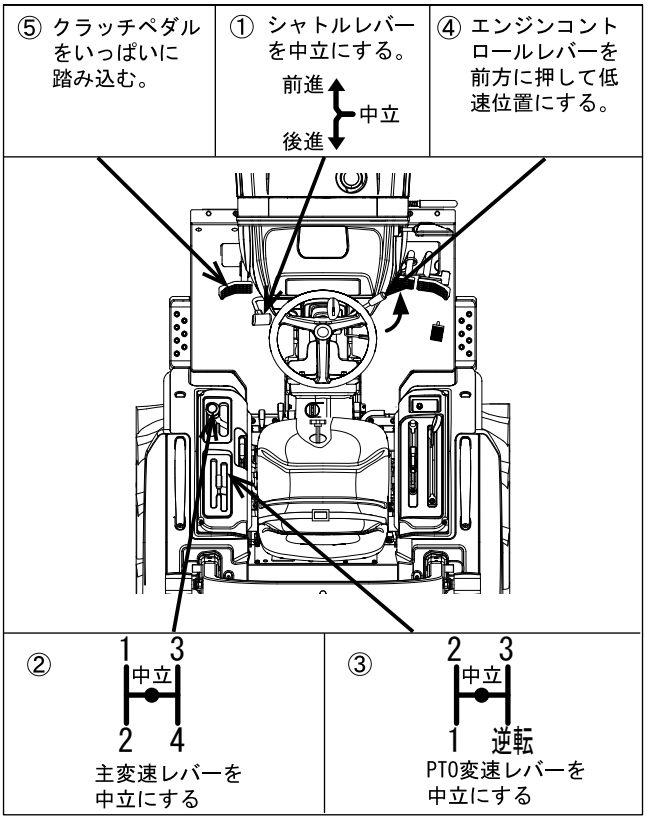
❶ エンジンの始動のしかた

(1) 左右のブレーキペダルを連結し，ブレーキペダルを強く踏込み駐車ブレーキレバーを上方に押し上げてブレーキをかけます。
・駐車ブレーキを解除する時は，ブレーキペダルを強く踏込めば外れます。





(2)

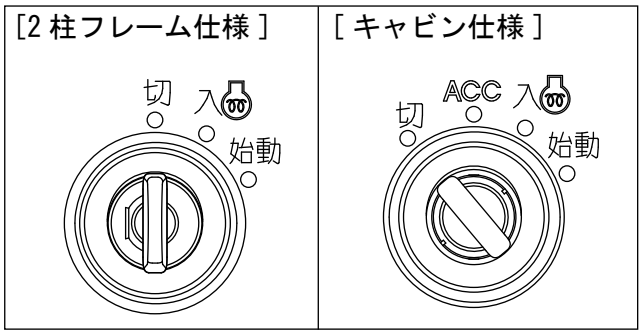


取扱いのポイント

●始動安全スイッチが装備されており，シャトルレバー，PTO 変速レバーが《N》（中立）位置にないと始動できないようになっています。

(3) スタータスイッチを《 入》にすると ランプ， ランプ， ランプが点灯します。

●スタータスイッチ



・《切》(停止)

キーをこの位置にすると電源が切れエンジンが停止します。

キーの着脱ができます。

・《ACC》(アクセサリ)

[キャビン仕様] はカーステレオが使用できます。

・《 入》(予熱)

キーをこの位置にするとメータ内のグローランプが点灯し，エンジンが予熱されます。

予熱が完了するとグローランプが消灯しますので始動操作をします。

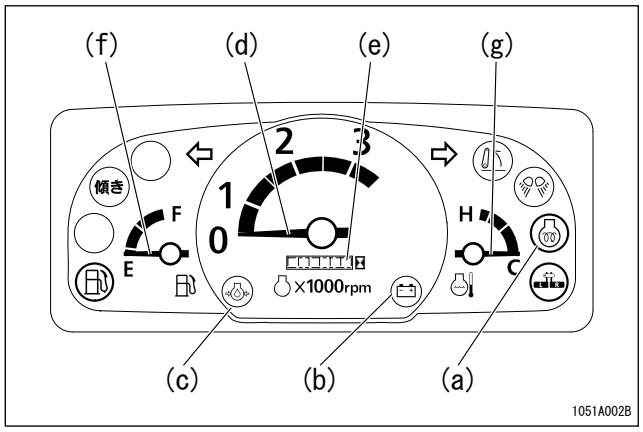
グローランプ点灯時間…６秒

・《始動》

キーをこの位置にするとエンジンが始動します。

エンジン始動後手を放せば自動的に《 入》にもどりエンジンが運転状態になります。

●表示器



(a) グローランプ（ ランプ）

キーを《 入》にすると，点灯してエンジンが予熱状態であることを示します。

(b) チャージランプ（ ランプ）

エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯して警告します。

エンジンを停止している時，キーを《 入》にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

(C) エンジンオイルランプ（ ランプ）

エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があると点灯します。

エンジンが停止している時，キーを《 入》にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

(d) タコメータ

エンジン回転数を示します。

(e) アワメータ

エンジンの稼働時間を表示し，たとえば

0	0	1	9	1

は定格回転で 19.1 時間（19 時間６分）使用したことを示します。

(f) 燃料計

キーを《入》にすると燃料の残量を示します。

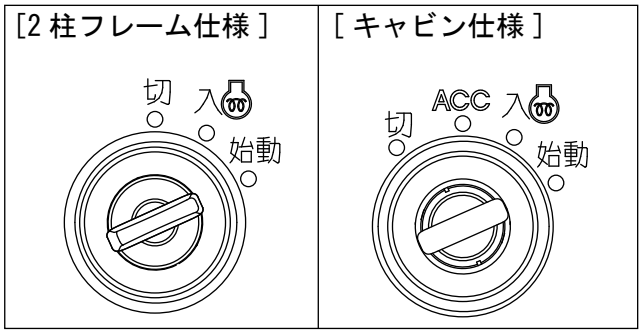
針が《E》近くになったら ⛽ ランプが点灯しますので早めに補給してください。

(g) 水温計

キーを《 入》にするとエンジン冷却水温度を示します。

(4) ランプが消灯してから，キーを《始動》にします。

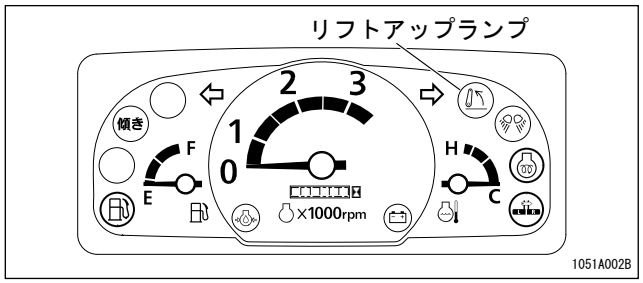
始動したら,ただちにキーより手を離します。キーは自動的に《 入》の位置に戻ります。



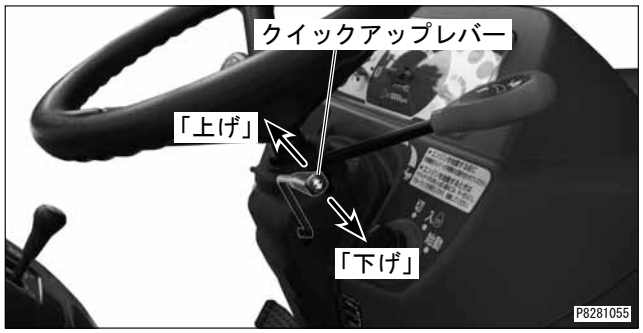
(5) ランプ, ランプが消えれば正常です。消えないときは，すぐエンジンを停止して点検します。

(6) ポジションコントロールレバーが上げ側のストッパにある時〝ピー〟と１回ブザーが鳴ります。ポジションコントロールレバーが上げ側のストッパにない時,〝ピーピピ〟とブザーが断続的に鳴りメーターパネルの《 》ランプが点滅します。以下の操作を行うとブザー音は消え《 》ランプは消灯します。





①ポジションコントロールレバーを上げ側のストッパまで上げる、又はクイックアップレバーを《上げ》操作する。



②クイックアップレバーを《下げ》操作する。

(7) エンジン回転を約 1,500 回転にして暖機運転します。(約５分間)

取扱いのポイント

- エンジンの運転中に ランプが連続点灯する時は，エンジンを停止し，ファンベルトを点検してください。(70 ページ参照)
  ファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。
- 運転中に ランプが点灯した時は，エンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。(57 ページ参照)
  オイル量が正規であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。
- 水温計の針または液晶画面の表示が《H》を示した場合は，オーバーヒート状態です。作業を中断しエンジンを低回転にし冷えてから停止してください。その後冷却水の量，ラジエータの目詰まり，ファンベルトの張りを点検してください。冷却水量，ラジエータの目詰まり，ファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。

●エンジンが少しでも回転している時はキーを《始動》にしないでください。
故障の原因となります。
●始動操作を繰返した場合，ランプは点灯しません。またエンジン停止後，すぐにエンジンを再始動する場合にも点灯しないか，点灯時間が短いことがありますが，保護回路が作動するためで，故障ではありません。
●暖機運転は，寒冷時に限らず行なってください。エンジンが暖まらないうちに走行すると，エンジンの寿命を短くします。
●寒冷時の始動
・下表を参照し気温にあったエンジンオイル，燃料を使用してエンジンを始動し易くします。

気温(℃)	－20	－10	0	10	20
エンジンオイル	SAE10W－30		SAE20		SAE 30
燃料（軽油）	JIS 特3号	JIS 3号	JIS2号		

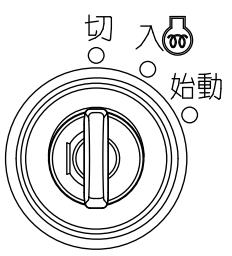
❷ エンジン停止のしかた

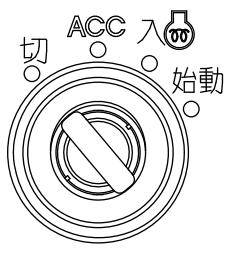
⚠警告 傷害事故防止のために

◆トラクタを使用しない時はキーを抜いておいてください。

(1) エンジンコントロールレバーを前方に押して，エンジンを低速回転にします。
(2) スタータスイッチを《切》にすると，エンジンが停止します。

[2柱フレーム仕様] [キャビン仕様]





2. 発進・走行のしかた

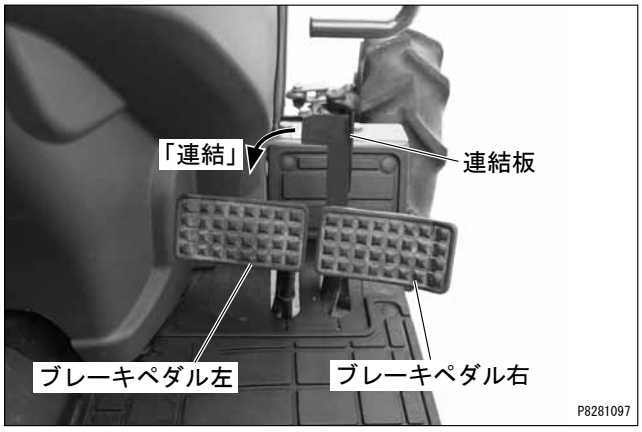
❶ 発進のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

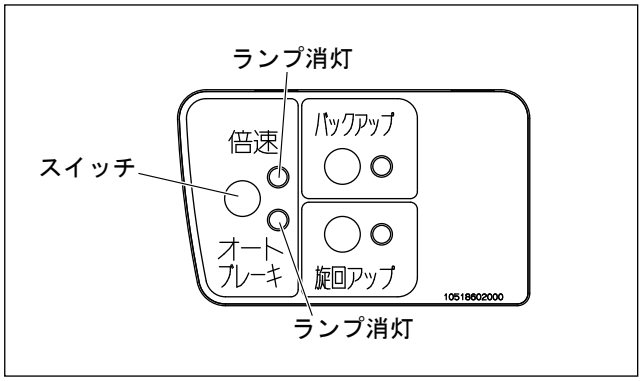
◆道路走行，ほ場への出入り，あぜ越え，アユミ使用，傾斜地作業，フロントローダ装着時等は連結板で左右のブレーキペダルを連結してください。片ブレーキでは横転，衝突，転落等の事故になることがあります。
◆発進する時はクラッチペダルをゆっくり離してください。急に離すと急発進して事故の原因になります。
◆倍速旋回／オートブレーキ旋回スイッチを《切》にしてください。《入》になっていると，急旋回して，事故の原因となります。
◆作業機を装着している時は，周囲を確認し，ゆっくりと旋回してください。
◆高速で急旋回しないでください。エンジン回転を下げて旋回してください。

(1) ほ場作業以外では，左右のブレーキペダルを連結します。
・ブレーキペダルは左右のペダルに分かれており．連結板を解除して左のペダルを踏むと左後輪に，右のペダルを踏むと右後輪にブレーキがかかります。
　左右のブレーキペダルを連結してブレーキペダルを踏むと，左右の後輪にブレーキがかかります。

連結状態 (連結金具)	ブレーキ連結ランプ 凸凸	走行状態
連　結	消　灯	路上走行
解　除	点　灯	ほ場作業



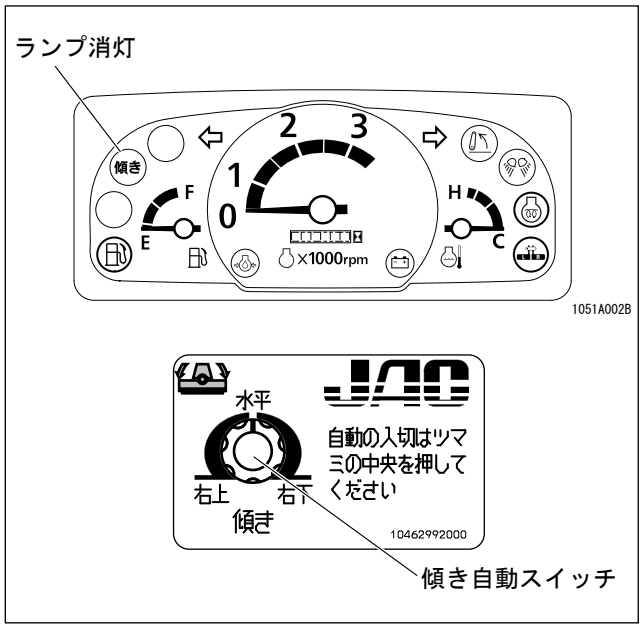
(2) 倍速旋回／オートブレーキ旋回スイッチを《切》にします。



(3) ポジションコントロールレバーを後方にゆっくり引き，作業機を持上げます。

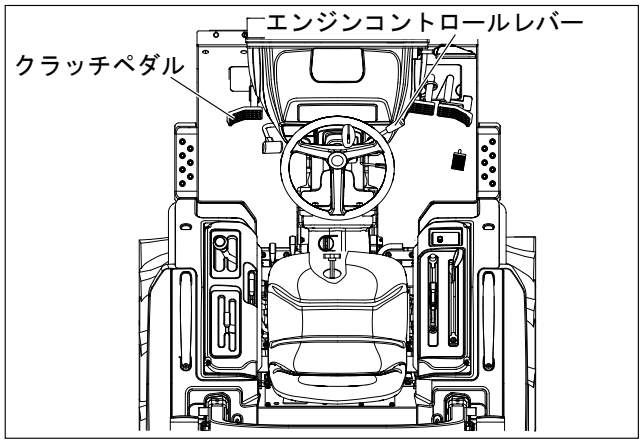


(4) 傾き自動スイッチを《切》，メータパネルの《傾き》ランプが消灯していることを確認します。



(5) エンジン回転を約 1,500 回転位にします。

(6) クラッチペダルを，いっぱい踏込みます。
クラッチペダルはエンジン始動，変速，停止のときに踏込みます。



取扱いのポイント

- 変速はクラッチペダルをいっぱい踏込んで，行なってください。
- 変速が入り難い場合は，無理な操作をせず，もう一度クラッチペダルを踏み直してから変速操作を行なってください。

(7) 主変速レバー・副変速レバー・シャトルレバーを所要変速位置に入れます。

(a) 主変速レバー

4 段の変速位置があります。副変速レバー，超低速レバーと併せて，12 段の変速ができます。

(b) 副変速レバー

《高速》，**《低速》**の 2 段の切替えできます。



(c) 超低速レバー

超低速レバーを上方に引上げると**《切》**になり，下方を押すと**《入》**になります。



(d) シャトルレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆後進は，エンジンの回転を下げて，後方を確認してから行ってください。

前進，後進の切換えができます。レバー位置は前側が**《前進》**，後側が**《後進》**となっています。



(8) ブレーキペダルを強く踏込み，駐車ブレーキを外します。

(9) クラッチペダルをゆっくり離して発進します。



❷ 走行のしかた

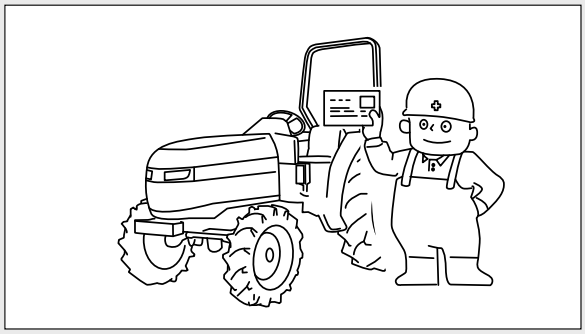
⚠警告 傷害事故防止のために

◆公道を走行するときは，運転免許証を携帯し，交通法規を守り，安全のため安全フレームを起こし，シートベルトをして，ヘルメットを着用してください。

●作業機を装着しない

●補助車輪はつけない。

●公道では低速車線を走行する。



◆運転者の他に子供等，人や物をのせないでください。

◆道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを連結してください。左右のブレーキペダルを連結しておかないとブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。

◆移動走行時には，傾きスイッチを《切》にしてください。また，リンクを水平または最上げに作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。

◆倍速旋回スイッチ，オートブレーキ旋回スイッチを《切》にしてください。これらのスイッチが《入》になっていると車体が急旋回して転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。

◆発進・旋回，傾斜地，荒地では低速にし，急傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。

◆走行中は，クラッチペダルに足を置いたり各変速レバー（主変速操作スイッチ）に手を置いたままにしないでください。

◆重い作業機を装着すると，ハンドル操作をしても思うように旋回できないことがあります。バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。

◆軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。

◆狭い農道や傾斜地では路肩に寄りすぎないで低速で走行してください。

◆進路変更する時は，方向指示器スイッチによって進行方向を他の車に知らせてください。

◆バックミラーで後続車を確認し，追越しの妨害にならないようにしてください。

◆夜間走行時，対向車とすれ違うときは，前照灯を下向きにし，対向車の妨害にならないようにしてください。

◆自動車への積込み・積降ろしおよび道路走行する時は，デフロックを使用しないでください。

(1) デフロックが解除されていることを確認します。

(2) 作業機降下速度調節グリップを《**固定**》にして作業機の落下を防止します。



(3) 走行スピードはフートアクセルペダルで調整します。

(a) フートアクセルペダル

ペダルを踏込むと高速となり，離すと低速になります。この時，エンジンコントロールレバーは低速にしておきます。主に路上走行時に使用します。

(b) エンジンコントロールレバー

レバーを手前に引けば《 》（**高速**）となり，前方へ押せば《 》（**低速**）となります。

主にほ場作業時に使用します。



❸ パワーステアリングの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

- **坂道，傾斜地ではエンジンを停止しないでください。作業中，走行中にエンジンが停止したときは，すみやかにエンジンを再スタートします。エンジンが停止するとパワーステアリング装置が働かなくなり，ハンドルが重くなり，衝突・転落等の事故になることがあります。エンジン低回転時もハンドルが多少重くなります。**
- **高速走行時は，ハンドルが軽く感じますので，急にハンドルを切らないようにします。**
- **エンジンをかけないで他車にけん引してもらう場合はまえもって手動操舵ができることを確認してからけん引してもらってください。他車にけん引してもらう場合は速度を 5km/h 以下としてください。**
- **油圧シリンダ部のホースは「2 年ごと」に交換してください。**

このトラクタは，全油圧式パワーステアリングが装備されています。以下の内容を理解してから運転します。

(1) ハンドルから前車軸までの間にリンク機構がありませんので，いっぱいに切った後でも，力を加えることにより更にハンドルは回ります。ハンドルは軽い力でも切れるため，必要以上に力を加えてハンドルを切らないようにします。（リリーフ圧力以上の過大出力でパワーステアリング装置の寿命を縮める原因となります。）

(2) ハンドルを切った時のみ車輪が切れますので，旋回から直進に移る時も，ハンドルを回して直進に戻します。

(3) エンジンが停止するとハンドルが非常に重くなります。

取扱いのポイント

- フロントローダ作業ですえ切り（走行しないでハンドルを切ること）ができないときには荷を軽くするか，前後に動くと操舵できます。
- 寒冷地等で始動時異音が発生し，使用しているうちに止まるのは油がかたいためです。暖機運転をしてから走行してください。
- 操舵時，油圧系から異音がする場合，油圧回路に空気が入っていることがあります。５秒程度左右一杯にハンドルを切ったままにすると空気が抜けますので，異音はしなくなります。これでも音が止まらないときは「お買いあげ先」にご相談ください。

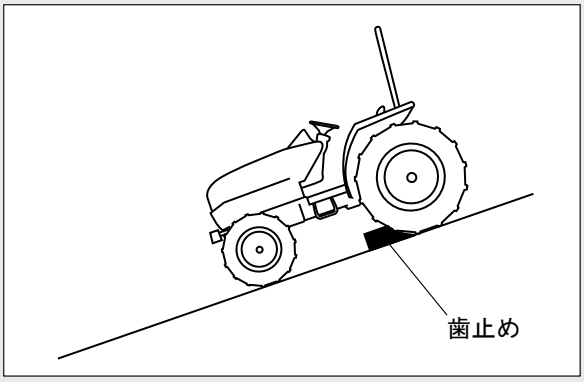
3. 停車・駐車のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆駐車する場合は平坦な場所を選んでください。

◆駐車・停車時には駐車ブレーキをかけてください。

◆傾斜地では駐車しないでください。やむをえず駐車する時は，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し変速レバーを低速位置に入れると共に後輪に歯止めをしてください。



◆作業機をおろす時はトラクタ，作業機の周囲に子供等，人を近づけないでください。

◆トラクタを離れる場合は，キーを抜取ってください。

⚠警告 火災防止のために

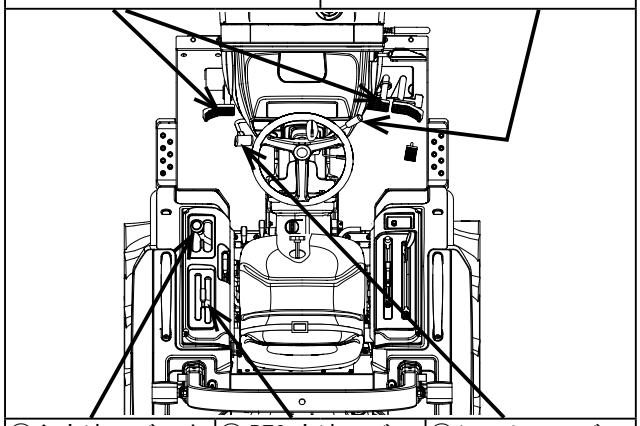
◆トラクタを停止するときは，乾いた草やワラの近くに止めないでください。マフラ排気口に草やワラが触れると，火災のおそれがあります。

◆停車時，エンジンを空吹かししたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火することがあります。

❶ 停止のしかた

(1)

②ブレーキペダルとクラッチペダルを踏み込み駐車ブレーキをかける	①エンジンコントロールレバーを前方に押して低速回転にする。



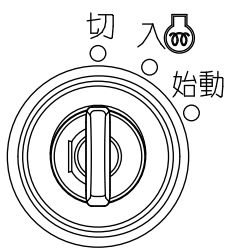
④主変速レバーを中立にする	⑤ PTO 変速レバーを中立にする。	③シャトルレバーを中立にする。

(2) 作業機降下速度調節グリップを《**速い**》方向に回します。



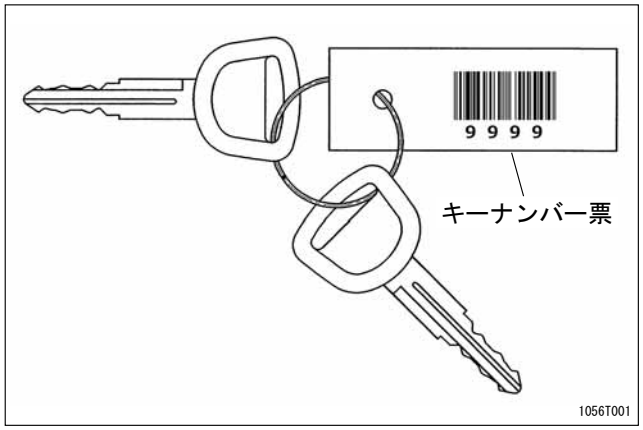
(3) ポジションコントロールレバーをゆっくり《**下げ**》にして作業機をおろします。

(4) キーを《**切**》にします。

[2 柱フレーム仕様]	[キャビン仕様]
	

取扱いのポイント

- 作業が終わってもエンジンをすぐ停止させず，アイドリング回転で５分間ほど回転させてください。
  すぐ停止させますと，エンジンの冷却が悪くなり，寿命を縮めます。
- ［キャビン仕様］は，キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため，必ずキーは抜いてください。
- [キャビン仕様] の場合キーリングに付属しているキーナンバー票は，キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙に記入し控えておくか，キーナンバー票を大切に保管してください。



4. 自動車への積込み・積降ろし

⚠警告 傷害事故防止のために

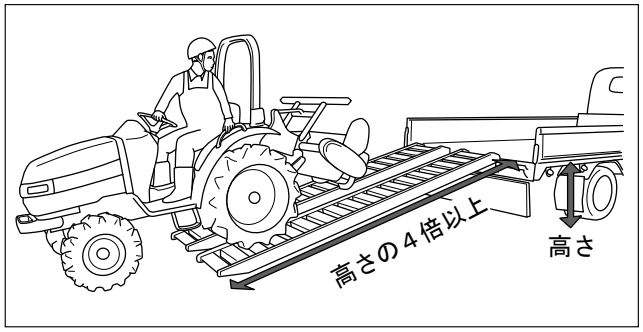
- ◆補助者の立会い，誘導のもとに行います。
- ◆トラクタの周囲に子供等，人を近づけないでください。
- ◆アユミは，充分な強度，幅（前後輪が外れない幅），長さ（荷台高さの 4 倍以上）のあるすべり止め，フック付きのものを使用してください。
- ◆トラクタの重量で，アユミが傾いたりしない平坦な場所を選んで行なってください。
- ◆アユミのフックは，荷台に段差のないように，また，ずれないように荷台に対して真っ直ぐに掛けてください。
- ◆アユミの上でのクラッチ操作，変速操作をしなくてもいいように，前後輪のタイヤをアユミに，真っ直ぐにのせてください。
- ◆自動車への積込み，積降ろし中は，変速レバー，クラッチペダル，デフロック，片ブレーキは使用しないでください。急に方向転換したり転落するおそれがあります。
- ◆積込みは後進，積降ろしは前進で低速で行い，必要以上のハンドル操作はしないでください。
- ◆ロータリの爪がアユミに引っかからないようにしてください。
- ◆トラックで輸送する時は駐車ブレーキをかけロープで固定してください。

(1) 積載重量を超えない自動車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用します。自動車はエンジンを停止し変速を**「１速」**か**「バック」**に入れて駐車ブレーキをかけ，歯止めをします。

(2) アユミは，充分な強度，幅（前後輪のタイヤが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め，フック付きのものを使用し，トラクタのタイヤの間隔に合わせ荷台に対し真っ直ぐにかけます。

アユミの基準

長さ	自動車の荷台高さの４倍以上
幅	60cm 以上
数量	２枚
強度	１枚が1,200kg以上の重量にたえるもの

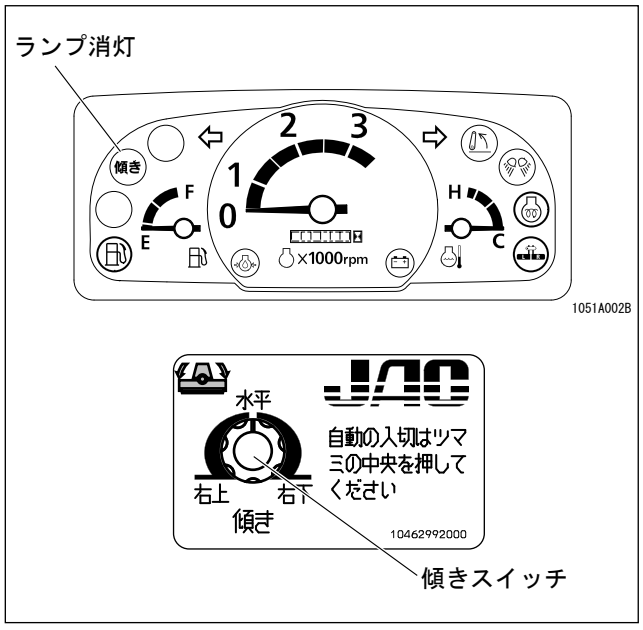


(3) 左右のブレーキペダルを連結します。

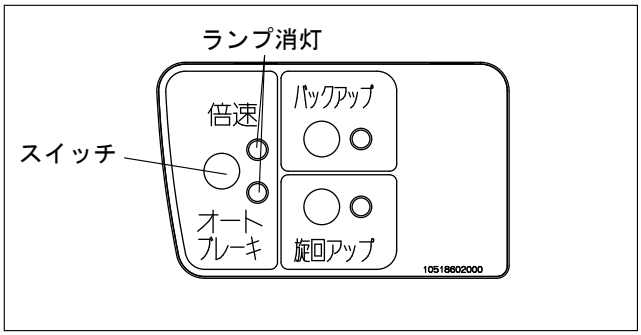
(4) デフロックが解除されていることを確認します。

(5) PTO 変速レバーを**《中立》**にします。

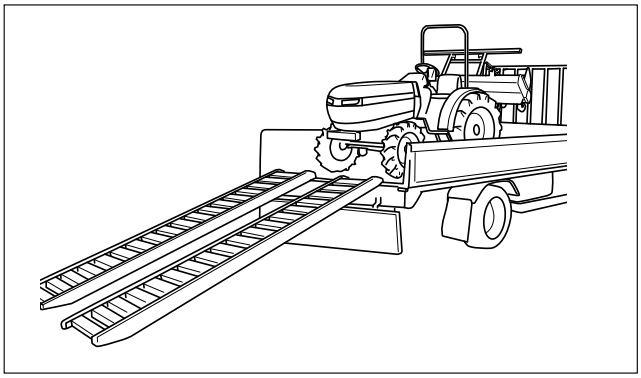
(6) 傾きスイッチを**「切」**り，メータパネルの**《傾き》**ランプが消灯していることを確認します。



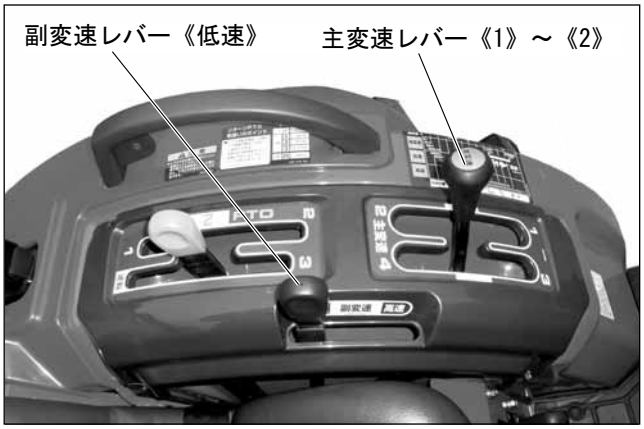
(7) 倍速オートブレーキスイッチを**《切》**にします。



(8) トラクタのタイヤとアユミを一直線上に合わせ，作業機をいっぱいに上げます。



(9) 変速は低速位置（下図に示す以下の速度）にします。



(10) 4WD レバーを上げて 4 駆にします。



(11) シャトルレバーを**《後進》**（積込み時）又は**《前進》**（積降ろし時）の位置にします。

(12) 途中でエンジンが停止した場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，徐々にブレーキをゆるめ，いったん下まで降りてエンジンを再び始動します。

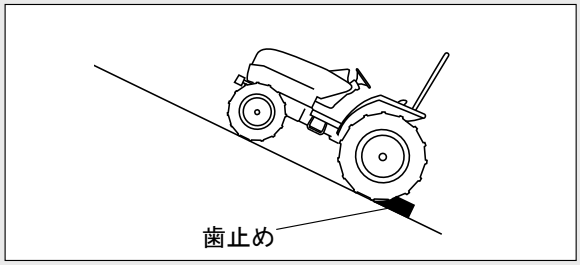
(13) ハンドル操作は脱輪しないように慎重に行います。

(14) 積込み後は，駐車ブレーキをかけて作業機を降ろし，エンジンを停止し，変速を低速位置に入れロープでトラクタを固定します。

5. 坂道での運転のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道を走行するとき，左右のブレーキペダルの連結およびデフロックの解除を確認してください。
◆下り坂では，エンジンブレーキを使用し，クラッチペダルは踏込まないでください。
◆下り坂では主変速，副変速，シャトルレバーを「《N》(中立)」にしたり，クラッチを切ったままで走行しないでください。
◆坂道では変速をしないでください。あらかじめ変速を低速位置にしてから走行してください。高速位置で急発進すると前輪がはね上がったり，トラクタがすべりおちたりして傷害事故を引起こすことがあります。
◆坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは，駐車ブレーキをかけ，変速を登りでは前進側に，下りでは後進側に入れさらに後輪に歯止めをしてください。



❶ 坂道では，速度を落として走行します。
❷ 坂の途中ではクラッチペダルを踏まないようにします。
❸ 変速は坂を登りきってから，適切な変速位置に入れます。
❹ 上り坂で発進する場合は，変速を低速位置に入れ，エンジン回転を落としてゆっくりと発進します。
❺ 急な下り坂ではエンジンブレーキを使用します。変速を低速位置にするとエンジンブレーキがよくききます。

6. ほ場への出入りのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場への出入りや，あぜ越えは左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認してください。
◆ほ場への出入りや，あぜ越えはＰＴＯ変速レバーを中立にしてください。
◆ほ場への出入りや，あぜ越えは低速で，あぜに直角に行なってください。
◆ほ場への出入りは，途中で変速しないでください。
◆高あぜ，急傾斜，溝越えは，アユミを使用してください。
◆アユミの上では必要以上のハンドル操作や変速はしないでください。
◆あぜがくずれないようにゆっくり行なってください。

(1) 左右のブレーキペダルを連結します。



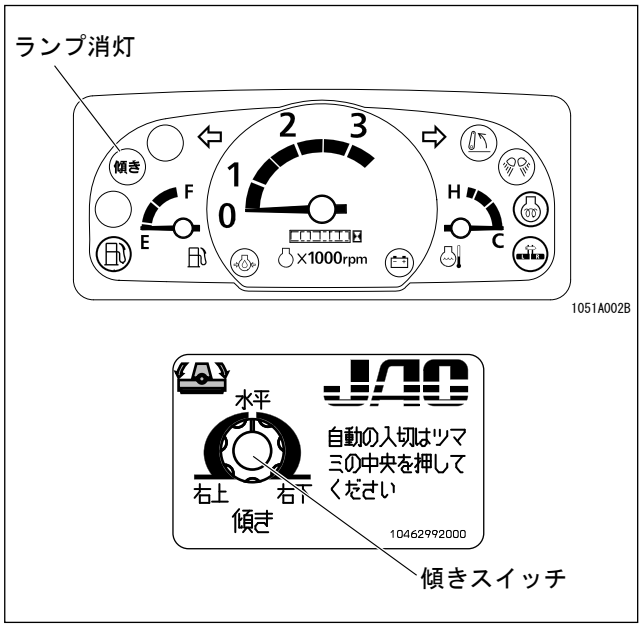
(2) デフロックが解除されていることを確認します。



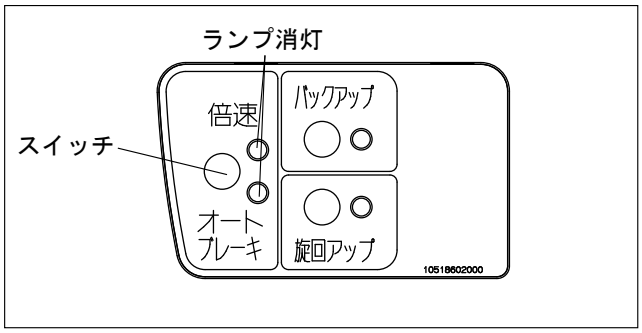
(3) PTO 変速レバーを《**中立**》にします。



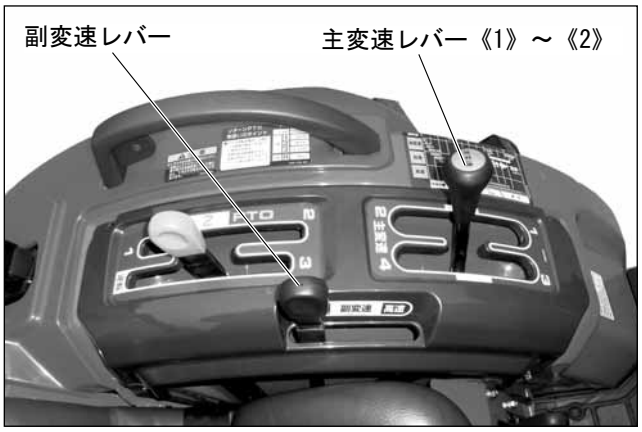
(4) 傾きスイッチを「**切**」り,メータパネルの《**傾き**》ランプが消灯していることを確認します。



(5) 倍速オートブレーキスイッチを《**切**》にします。



(6) 変速は低速位置（下図に示す以下の速度）にします。



(7) 4WD レバーを上げて 4 駆にします。



(8) ゆるい傾斜を前進で登る時は，登り始めは，作業機を下げて行うと前輪の浮き上がり防止になります。トラクタの後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。

常に前・後輪のバランスを考えながら，操作します。

(9) 4 輪駆動の特色を生かして，後進で上がると上がる能力が増します。その時は，作業機をいっぱい上げて行います。

作業のしかた

1. ほ場作業のしかた

1. ほ場での旋回のしかた

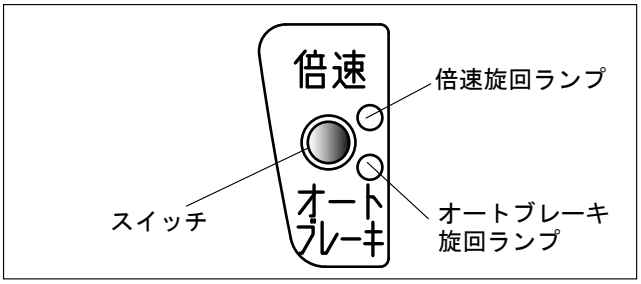
⚠警告 傷害事故防止のために

◆急傾斜地では作業をしないでください。
急傾斜地で旋回すると，転倒による傷害事故を起こすことがあります。

❶ ほ場では，ブレーキペダルの連結板を外し，左右独立して使用すれば小さく旋回できます。その時は旋回する側のブレーキを踏込みます。

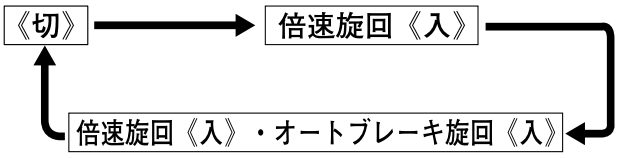
❷ 倍速旋回・オートブレーキ旋回

倍速旋回 / オートブレーキ旋回スイッチ(ランプ)



・1つのスイッチで倍速旋回とオートブレーキ旋回の切替えができます。

・スイッチを押すと，次の順で切替えができ，それぞれ**《入》**の時,ランプが点灯して作動します。



(1) 倍速旋回

⚠警告 傷害事故防止のために

◆倍速旋回は，小さく旋回でき，旋回速度も速くなり，作業能率が上がりますが，ほ場作業以外では使用しないでください。使い方を誤ると横転することがあります。

◆道路走行,ほ場への出入り，あぜ越え，アユミ使用,傾斜地作業の時は倍速旋回を《切》にしてください《入》になっているとトラクタが急旋回して転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。

◆倍速旋回は，フロントローダ作業等，前輪に重荷重のかかる作業に使用しないでください。
バランスがくずれ横転や傷害事故のおそれがあります。

① 4WD レバーを**《入》**，副変速レバーを**《低速》**にします。

② 倍速旋回スイッチを押すと倍速旋回ランプが点灯し，倍速旋回ができる状態になります。

③ 旋回時に，前輪が高速で回転し，通常の旋回より小回りします。

取扱いのポイント

●倍速旋回スイッチを《入》れたり,《切》ったりするときは前輪タイヤを直進状態にしてください。

● 4WD レバーが《切》，副変速レバーが《高速》のときは倍速旋回は作動しません。

(2) オートブレーキ旋回

⚠警告 傷害事故防止のために

◆オートブレーキ旋回は旋回時にハンドルを回すとブレーキが自動的に働き旋回が楽に行えますが，ほ場作業以外では使用しないでください。使い方を誤ると横転することがあります。

◆オートブレーキ旋回は，道路走行，ほ場への出入り・自動車への積降ろし・傾斜地作業・フロントローダ作業では使用しないでください。横転や傷害事故の原因になることがあります。ほ場から出る時はオートブレーキ旋回を《切》にして左右のブレーキペダルを連結してください。
オートブレーキ旋回ランプが消灯していることを確認してください。

① 4WD レバーを《入》副変速レバーを《低速》にします。

② スイッチを倍速旋回《入》位置から更に押すと，オートブレーキ旋回ランプが点灯し，オートブレーキ旋回ができる状態になります。

③ 倍速旋回作動状態でさらに後輪の内側に自動的にブレーキをかけ，さらなる小回りを可能にします。

取扱いのポイント

- オートブレーキ旋回スイッチを《入》れたり，《切》ったりするときは，前輪タイヤを直進状態にしてください。
- 4WD レバーが《切》，副変速レバーが《高速》のときはオートブレーキ旋回は作動しません。

(3) 副変速・4WD と倍速旋回／オートブレーキ旋回の動作関係

レバー操作		倍速 / オートブレーキスイッチ	倍速旋回動作	オートブレーキ旋回動作
副変速レバー	4WD レバー			
《低速》	《入》	倍速 / オートブレーキ	×	×
		スイッチ押す → 倍速 / オートブレーキ	○（ランプ点灯）	×
		スイッチ押す → 倍速 / オートブレーキ	○（ランプ点灯）	○（ランプ点灯）
《高速》	《切》	倍速 / オートブレーキ	×	×
	《入》	スイッチ押す → 倍速 / オートブレーキ	×（ランプ点滅）	×
	《切》	スイッチ押す → 倍速 / オートブレーキ	×（ランプ点滅）	×（ランプ点滅）

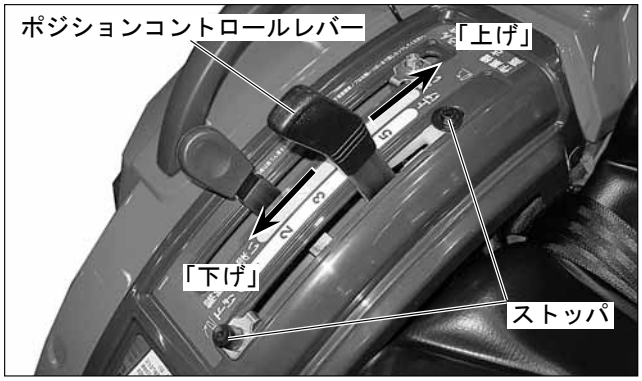
2. ポジションコントロールレバーの取扱い

❶ ポジションコントロールレバー

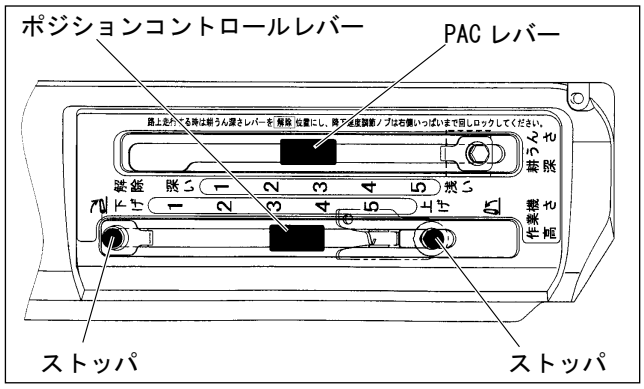
⚠警告 傷害事故防止のために

◆ポジションコントロールレバーを操作する時は，ストッパで作業機の上げ高さを規制してください。
規制しないと作業機の種類によって上げた時にトラクタを破損し，傷害事故になることがあります。

◆エンジンを始動する前に
ポジションコントロールレバーと作業機の位置を合わせてください。
作業機が下がっていたらポジションコントロールレバーを下げ位置，作業機が上がっていたらポジションコントロールレバーを上げ位置にしてください。



ポジションコントロールレバーは作業機の位置が自由に決められ一定に保たれます。ポジションコントロールレバーを使用する場合は次のように操作します。



(1) ポジションコントロールレバーを前方に押せば作業機は自重で下がります。

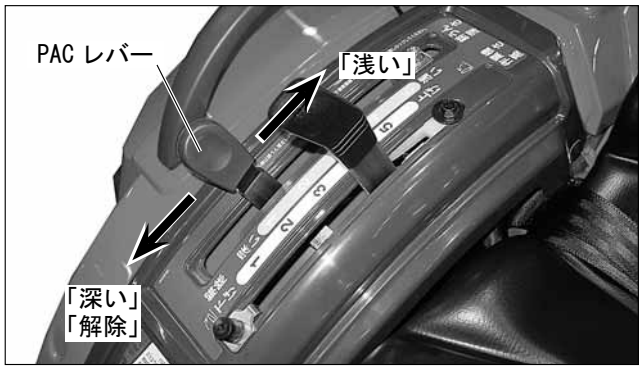
(2) ポジションコントロールレバーを任意の位置にすると，作業機はそのレバー位置に対応した高さまで上下した位置で止まります。

(3) 作業機を一定の高さに保ちたい場合は，**「ストッパ」**を任意の位置に固定し，ポジションコントロールレバーの位置を決めることにより，作業機の**《上げ》**,**《下げ》**の位置を設定することができます。

❷ PAC レバー（深さ自動調節）

ポジションコントロールレバーで作業機の下げ位置を一定に規制することができます。

・作業機の下げ位置をポジションコントロールレバーで決め，下げ位置規制ノブをゆるめて前方向の止まる位置までズラして締めます。



PAC レバーは，ロータリ耕うん作業において深さを自動調節します。

ロータリの耕深をレベラで検知して，自動的に油圧を作動させ，深さを一定に保持します。PAC レバーを使用する場合は，次のように操作します。

(1) ポジションコントロールレバーを**《下げ》**位置にします。ロータリは自重で下がります。

(2) PAC レバーを操作して任意の位置にセットすると，ロータリの深さを一定に保つことができます。PAC レバーを前方にするほど深さは**《深》**く，後方にするほど**《浅》**くなります。

(3) ポジションコントロールレバーでロータリを上げ,下げします。ポジションコントロールレバーを**《下げる》**にして耕うんすると，PAC レバーでセットしている深さが維持できます。

(4) PAC レバーを**《解除》**位置にすると深さ自動が解除されます。

取扱いのポイント

●移動走行するときはロータリを上げてPACレバーを《解除》位置にしてください。

❸　クイックアップレバー

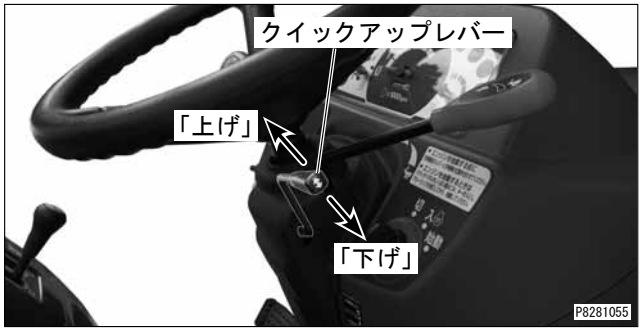
⚠警告　傷害事故防止のために

◆ほ場以外や果樹園，ハウス内などでクイックアップレバーを使用しないでください。またバックアップスイッチは《切》にしてください。（バックアップランプが消灯します。）作業機が支柱や樹木に接触して思わぬ事故の原因になったり，作業機に人をひっかけて傷害事故を引起こす恐れがあります。

◆クイックアップ機能で作業機を上げると，最上げ位置まで作業機が上がります。作業機の種類によっては，トラクタと接触する恐れがありますので，「お買い上げ先」にて確認してください。

クイックアップレバーを**「上げ方向」**に操作すると作業機が上昇し，**「下げ方向」**に操作すると作業機が下降します。尚操作時には“ピッ”とブザー音がします。

クイックアップレバーを**「上げ方向」**に操作するとメータパネルのリフトアップランプ(⇧)が点灯します。



取扱いのポイント

●クイックアップレバーでの作業機操作ができない時は，一度，ポジションコントロールレバー操作で作業機をいっぱい《上げ》《下げ》してからクイックアップレバーを操作してください。

●クイックアップレバーの操作は上げ，下げ方向に軽く行なってください。

●クイックアップレバーで作業機を下げる場合，ポジションコントロールレバーの位置で下げ位置を規制することができます。

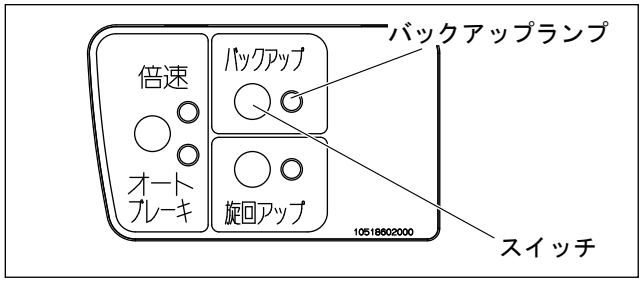
❹　バックアップスイッチ

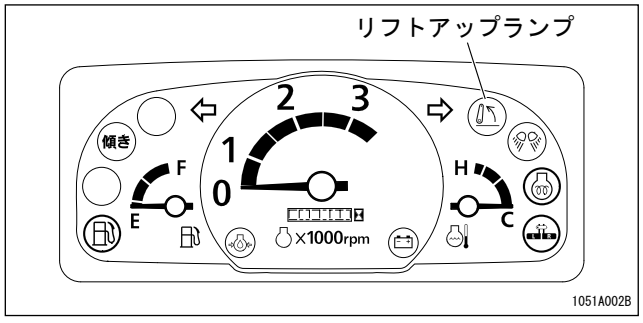
⚠警告　傷害事故防止のために

◆以下の作業時はバックアップスイッチを《切》にしてください。（バックアップランプが消灯します。）
・作業機の着脱時
・ほ場以外や果樹園での作業
機械を《後進》に入れたとき，作業機が上昇し，作業機の種類によってはトラクタを破損したり，また周囲の支柱や樹木に接触して思わぬ事故や，作業機に人をひっかけて傷害事故を引起こす恐れがあります。

◆バックアップスイッチ機能で作業機を上げると，最上げ位置まで作業機が上がります。作業機の種類によっては，トラクタと接触する恐れがありますので，「お買い上げ先」にて確認してください。

バックアップ機能はスイッチを押すたびに《入》⟷《切》を繰り返します。バックアップ機能が《入》の時はバックアップランプが点灯し，《切》の時は消灯します。





(1) バックアップ機能が《**入**》の時（バックアップランプ点灯）シャトルレバーを《**後進**》に入れるとリフトアップランプ (⇧) が「**点灯**」し作業機が自動的に上昇します。

(2) 作業機を下げるときは，クイックアップレバーを軽く下げ方向に操作します。リフトアップランプ (⇧) が「**消灯**」となり作業機が下がります。

ポジションコントロールレバーで下げる場合は，レバーを一度最上げにし，その後レバーを下げることにより，作業機が下がります。

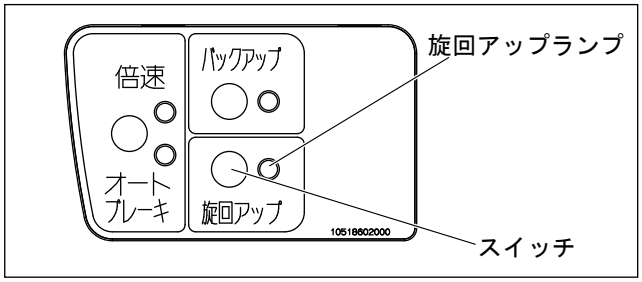
❺ 旋回アップスイッチ

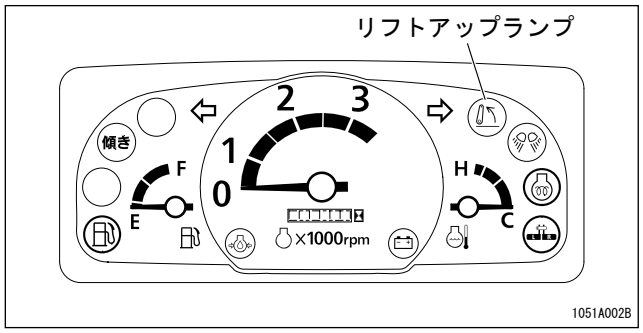
⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場以外や果樹園，ハウス内などで旋回アップ機能を使用しないでください。また旋回アップスイッチは《切》にしてください。（旋回アップランプが消灯します。）作業機が支柱や樹木に接触して思わぬ事故の原因になったり，作業機に人をひっかけて傷害事故を引起こす恐れがあります。

◆旋回アップ機能で作業機を上げると，最上げ位置まで作業機が上がります。作業機の種類によっては，トラクタと接触する恐れがありますので，「お買い上げ先」にて確認してください。

旋回アップ機能はスイッチを押すたびに《**入**》⟷《**切**》を繰り返します。旋回アップ機能が《**入**》の時は旋回アップランプが点灯します。《**切**》の時は消灯します。





・旋回アップ機能

(1) 旋回アップ機能が《**入**》の時（旋回アップランプ点灯）ハンドルを一定以上回すとリフトアップランプ (⇧) が「**点灯**」し作業機が自動的に上昇します。

(2) 作業機を下げる時は，クイックアップレバーを軽く下げ方向に操作します。

ポジションコントロールレバーで下げる場合は，レバーを一度最上げにし，その後レバーを下げることにより，作業機が下がります。

3. 傾き自動の取扱い

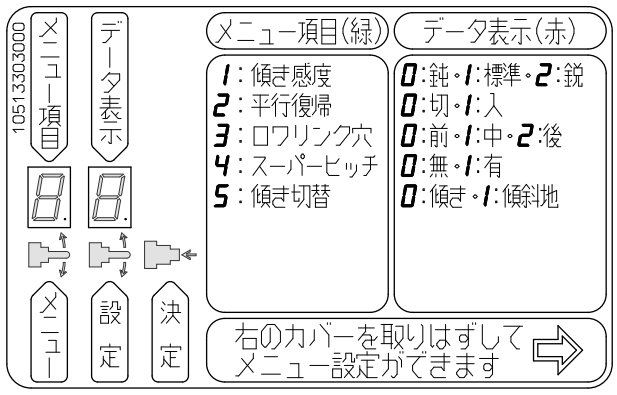
① 操作部名称

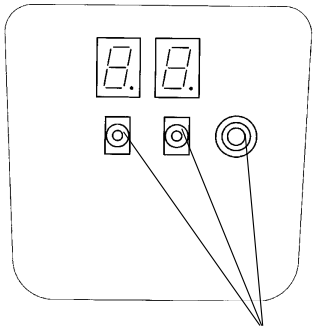
［サイドパネル］



❶ 傾き自動ボリューム

［マイコン操作部］





マイコン操作部
[1] 傾き感度調整機能
[2] 平行復帰機能
[3] ロワリンク穴切替機能
[4] スーパヒッチ有無切替機能
[5] 傾きモード切替機能

② 取扱い方法

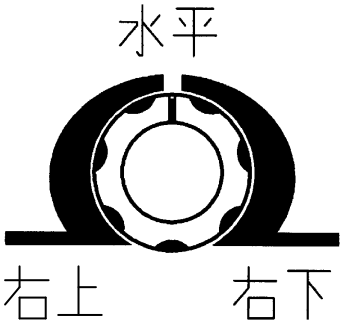
⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場以外では傾き自動が《切》（傾き自動ランプ消灯）になるように傾き自動ボリュームを押してください。守らないと，作業機が自動的に作動し傷害事故になることがあります。

❶ 傾き自動ボリューム

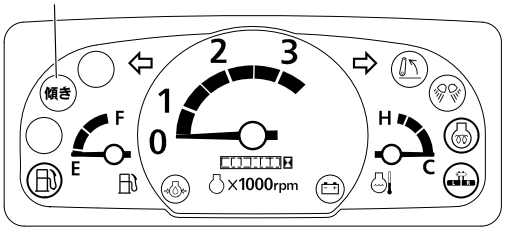
このボリュームはスイッチの機能もあり，(1)自動切替機能，(2)傾き設定機能があります。

❶ 傾き自動ボリューム



(1) **自動切替機能**：ボリュームの中央を押すたびに傾き自動が《**入**》⟷《**切**》を繰り返します。自動《**入**》の時はパネルの傾き自動ランプが点灯します。

傾き自動ランプ



(2) **傾き設定機能**：ボリュームを左右に回すことにより作業機の傾きを設定することができます。

・傾き自動《入》の場合

傾き自動ボリュームによって作業機の傾きを調整します。

・《水平》……作業機は常に水平となるよう自動的にコントロールされます。

・《右下》……常に右下がりで保たれます。

・《右上》……常に右上がりで保たれます。

・傾き自動《切》の場合

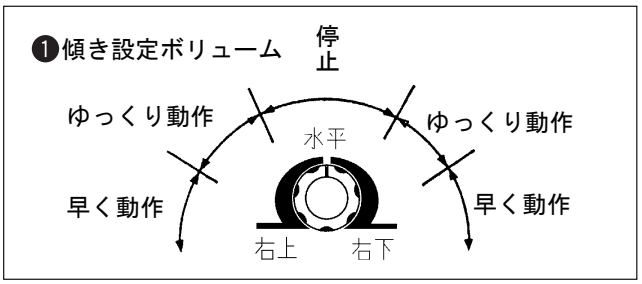
リフトロッドシリンダの長さを変えたい時は，傾きボリュームの操作でシリンダを動作させてください。

・《水平》……リフトロッドシリンダは停止します。

・《右下》……リフトロッドシリンダは伸びます。

・《右上》……リフトロッドシリンダは縮みます。

動作させたい位置までシリンダが動いたら傾き設定ボリュームを**《水平》**にして停止させます。



取扱いのポイント

・作業機着脱時の右リフトロッドシリンダの長さ調整は傾き自動を《入》にし，傾き自動ボリュームの操作により行なってください。

❷ マイコン設定のしかた

[1] 傾き感度調整機能

シート後方の黒いカバーを外すとマイコン操作部（スイッチ３個，表示器２個）があります。このスイッチを操作して表示器の数値を変えることで傾き自動（リフトロッドシリンダの動き）感度を作業に応じて調整することができます。

データ表示（赤色の表示器）

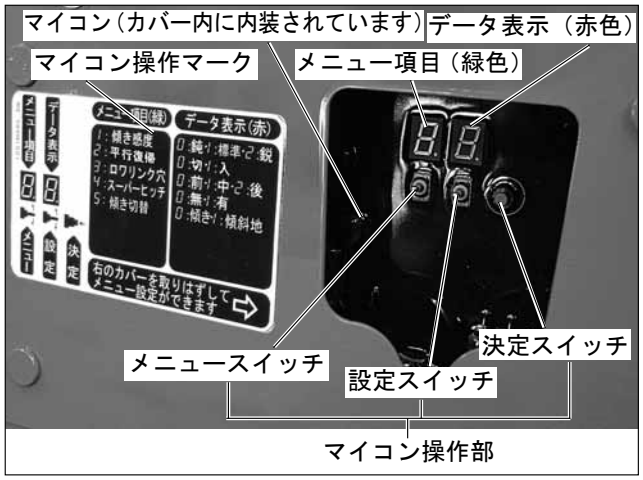
《0》……低速での作業に適しています。**《鈍》**

《1》……通常の作業に適しています。**《標準》**

《2》……代かき作業等に適しています。**《鋭》**

仕上がりを確認しながら，ほ場条件によって設定します。

・出荷時はデータ表示が**《1》**に設定されています。

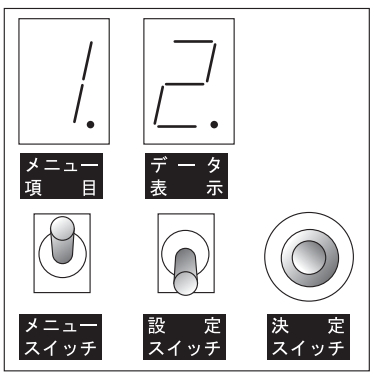


[設定]

(1) メニュースイッチを上，又は下に押して［**メニュー項目**］を《1》にします。

(2) 設定スイッチを上，又は下に押して［**データ表示**］を《0》《1》《2》の任意の数値にセットします。

(3) 決定スイッチを押すと設定完了です。



[2] 平行復帰機能

作業機を**「最上げ」**にすると自動的に本機と平行になる機能があります。(平行復帰機能)

(1) 傾き自動が**《入》(傾き自動ランプ点灯)**の時は，平行復帰切替機能の**《入》,《切》**に関係なく作業機を**「最上げ」**にすると，自動的に本機と平行になります。

(2) 傾き自動が**《切》(傾き自動ランプ消灯)**の時は，平行復帰切替機能の**《入》,《切》**操作により平行復帰切替機能を切替えることができます。

・平行復帰切替機能が**《入》**の時は,作業機を**「最上げ」**にすると,自動的に本機と平行になります。

平行復帰切替機能が**《切》**の時は,作業機を**「最上げ」**にしても平行復帰せずにそのまま上昇します。

データ表示（赤色の表示器）

《0》……平行復帰**《切》**

《1》……平行復帰**《入》**

作業条件によって設定します。

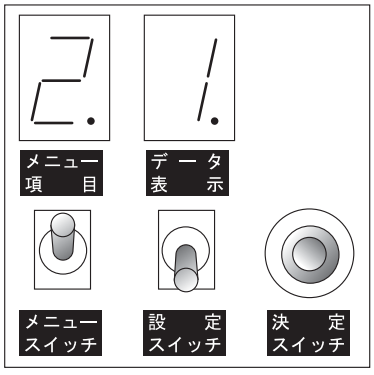
・出荷時はデータ表示が《1》にセットされています。

[設定]

(1) メニュースイッチを上，又は下に押して［**メニュー項目**］を《2》にします。

(2) 設定スイッチを上，又は下に押して［**データ表示**］を《0》,《1》の任意の数値にセットします。

(3) 決定スイッチを押すと設定完了です。



[3] ロワリンク穴切替機能

表示器の数値をロワリンクと作業機の取り付け穴位置**《前穴》,《中穴》,《後穴》**に応じて切替てください。

・出荷時はデータ表示が**《1》(中穴)**に設定してあります。

データ表示（赤色の表示器）

《0》……取り付け穴位置**《前穴》**

《1》……取り付け穴位置**《中穴》**

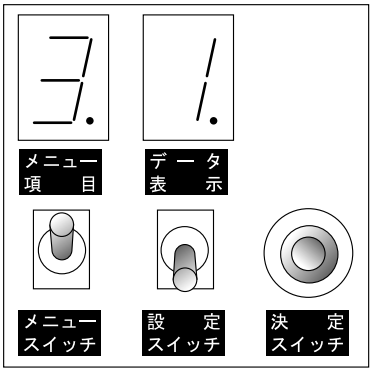
《2》……取り付け穴位置**《後穴》**

[設定]

(1) メニュースイッチを上，又は下に押して［**メニュー項目**］を《3》にします。

(2) 設定スイッチを上，又は下に押して［**データ表示**］を《0》,《1》,《2》の任意の数値にセットします。

(3) 決定スイッチを押すと設定完了です。



[4] スーパーヒッチ有無切替機能

表示器の数値をスーパーヒッチ装着**《有》《無》**に応じて切替てください。

データ表示（赤色の表示器）

《0》……スーパーヒッチ**《無》**

《1》……スーパーヒッチ**《有》**

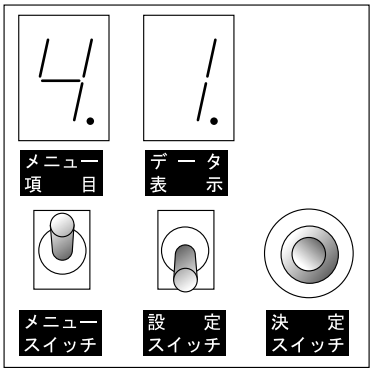
・出荷時はデータ表示が《0》に設定してあります。

[設定]

(1) メニュースイッチを上，又は下に押して［**メニュー項目**］を《4》にします。

(2) 設定スイッチを上，又は下に押して［**データ表示**］を《0》,《1》の任意の数値にセットします。

(3) 決定スイッチを押すと設定完了です。



[5] 傾き切替機能

傾き切替モードは傾斜地で**「傾き自動」**を使うときに使用します。

データ表示（赤色の表示器）

《0》……傾きモード

《1》……傾斜地モード

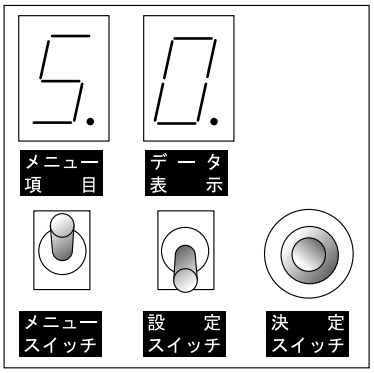
・出荷時はデータ表示が《0》に設定してあります。

[設定]

(1) メニュースイッチを上，又は下に押して［**メニュー項目**］を《5》にします。

(2) 設定スイッチを上，又は下に押して［**データ表示**］を《0》,《1》の任意の数値にセットします。

(3) 決定スイッチを押すと設定完了です。



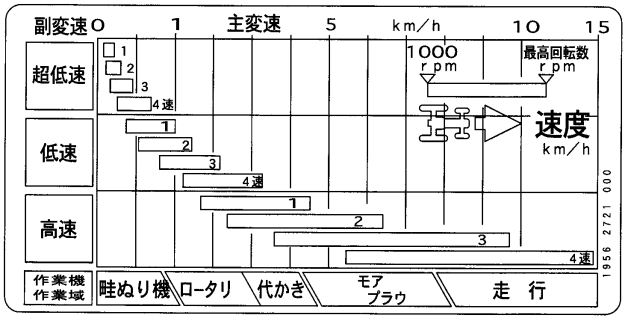
4. 作業に適した速度の選びかた

トラクタの走行速度及びPTO回転速度は作業内容，ほ場の条件によって異なります。

安全で最適な速度で運転します。

❶ 〔車速度〕

前進12段，後進12段の変速ができます。下表が各変速時の速度域と速度別作業域の一覧表です。



〔PTO回転速度表〕

正転３段，逆転１段の変速ができます。下表が各変速時の速度別作業域の一覧表です。

リターンPTO取扱いのポイント

● PTO逆転作業は，土寄せ，ワラ草等の巻きつきほぐしに使用できます。
未耕地を逆転耕耘すると，故障の原因となりますのでPTO逆転は使用しないでください。

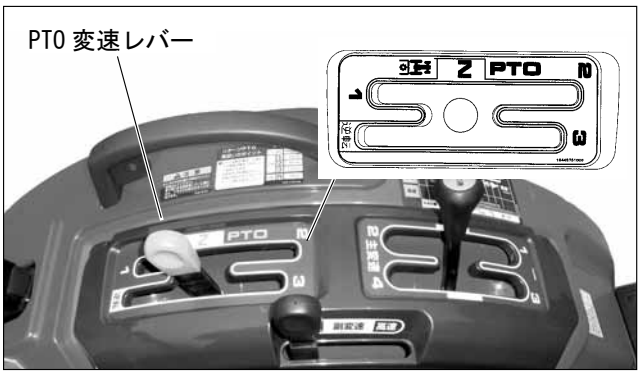
PTO速度

PTO変速		エンジン定格時	作業機・作業域
正転	1	591	ロータリ耕うん・うね立て
正転	2	845	ロータリ耕うん・うね立て
正転	3	1362	代かき・砕土
逆転	R	991	土寄せ・ワラ草等の巻付きほぐし

1051 8751 000

❷ PTO変速レバー

PTO軸の回転速度を変速できます。



取扱いのポイント

- **逆転は純正ロータリで使用できます。ロータリの取扱説明書をお読みください。**
- **純正ロータリ以外で逆転させる場合は「お買い上げ先」にご相談ください。**
- **一般作業機のPTO回転速度は，作業機の取扱説明書に従ってください。**

5. 4輪駆動とデフロックの使いかた

❶ 4輪駆動

4輪駆動にすると，次のような場合に威力を発揮します。

・傾斜地，湿田，トレーラ，フロントローダ，プラウ作業時でけん引力を必要とする場合。

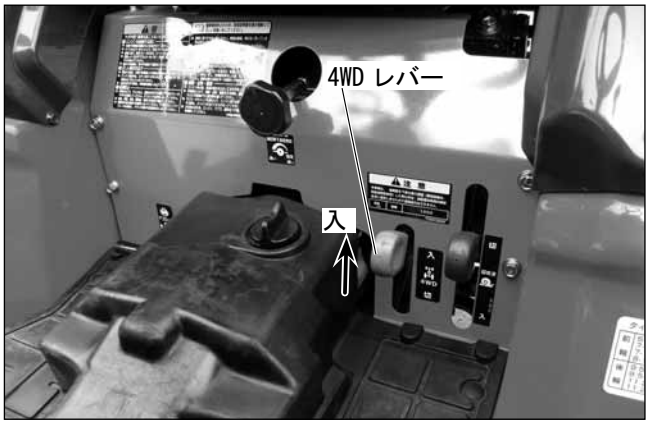
・砂地で作業をする場合。

・固いほ場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

・固いほ場への出入りやあぜ越えおよび自動車への積降ろしを行う場合。

(1) 4WD レバー

4WD レバーを引き上げると前輪駆動が入ります。



取扱いのポイント

- **トラクタ単体で，平坦な道路走行時は，タイヤ摩耗防止のため，4WD レバーを《切》の位置にしてご使用ください。**
- **4WD レバーを操作する時は前輪タイヤを直進状態にしてください。**

❷ デフロック

⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車への積込み・積降ろしおよび道路走行する時は，デフロックを使用しないでください。またデフロックが解除されていることを確認してください。デフロックを使用すると，ハンドルを切っても直進しかできなくなり思うように旋回できません。デフロックを入れたままで旋回しようとすると，思わぬ事故になることがあります。

片側の車輪がスリップし前後進しない場合はデフロックペダルを踏込みます。デフロックペダルを踏込むと，差動装置がロックされ，左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。

次のような場合に効果がでます。

・軟らかいほ場

・プラウ作業



ペダルから足を離すとデフロックが自動的に解除されます。

湿田地やぬかるみからの脱出など，片車輪がスリップして走行がしにくい時に使用すると効果があります。

上手に使用すると効果がありますが，使い方を誤ると事故や故障の原因となります。

取扱いのポイント

- デフロックを《入》にする時は，エンジン回転を下げてから行なってください。
- 両輪の回転差が大きい場合は，一度クラッチペダルを踏込んでから行なってください。
- 解除しにくい時は，クラッチを切るか，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏込んでください。
- 超低速でのデフロックは使用しないでください。

6. 作業機降下速度の調節

⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業機を上げて，整備・点検・掃除を行う時は，エンジンを停止し作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。ポジションコントロールレバーを《下る》の方向にゆっくり動かして，作業機が落下しないか確認してください。さらに作業機の下に「固定脚」を入れてください。

◆移動時は作業機を上げて作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。



・作業機降下速度調節グリップを回すことにより作業機の降下速度を調節できます。

降下速度調節グリップ	降下速度
右に回す**《遅い》**	遅くなる
左に回す**《速い》**	速くなる
右に軽く締込む**《固定》**	固定される



・作業機の種類，作業状況によって降下速度を調節してください。

ロータリ作業…降下速度を遅く

プラウ作業……降下速度を速く

2. 作業に必要な装置の使いかた

1. トレッドの調節のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は，輪距を広くして使用してください。
怠ると転倒による傷害事故を起こすことがあります。

◆公道は指定輪距で走行してください。



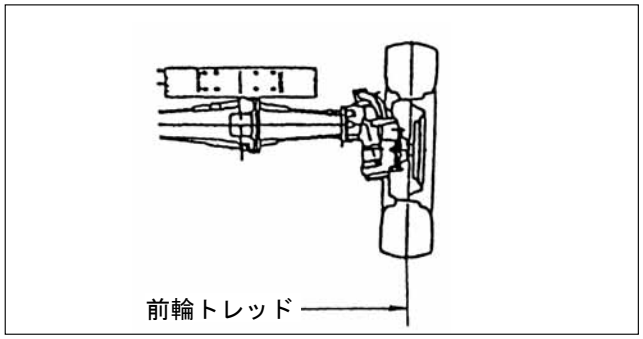


後輪トレッドは左右タイヤの入替えにより行います。但し，前輪のトレッド調節はできません。公道を走行するときは，指定輪距（※ 印）にします。

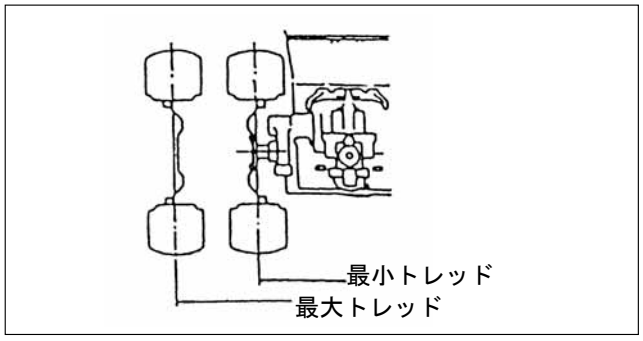
型式		24 型	24 型大径タイヤ仕様 27 型	27 型大径タイヤ仕様 30 型	30 型畑用タイヤ仕様	ナロートレッド仕様
タイヤサイズ	前輪	6-14	7-14	7-16	7-16	7-14
	後輪	9.5-22	9.5-24	11.2-24	11.2-24	9.5-24
駆動方式		4 輪駆動				
調節段数	前輪	1	1	1	1	1
	後輪	2	2	2	5	2
前輪トレッド		1,100	1,100	1,070	1,070	975
後輪トレッド	最小	※1,010	※1,050	※1,050	※1,050	※960
	最大	1,165	1,125	1,125	1,350	1,225

※指定輪距

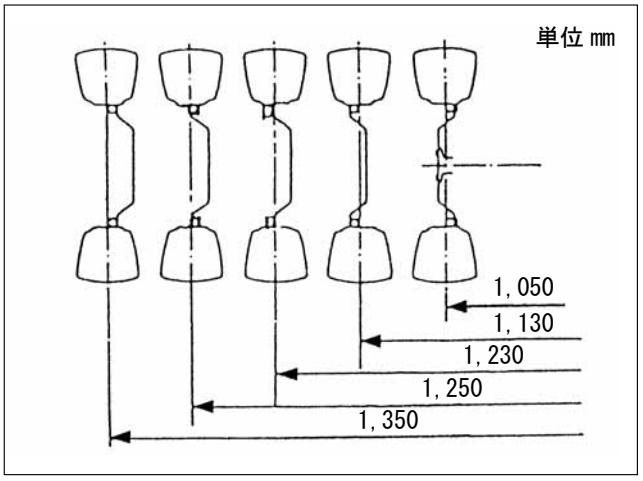
・前輪



・後輪



・後輪［30 型畑用タイヤ仕様］



・左右のタイヤを入れ替えることで後輪トレッドを２段階に調節できます。前ページの図では，右側が最大トレッド，左側が最小トレッドの取り付け状態を示しています。
・実際のトレッド調整は左右対称に組替えてください。

取扱いのポイント

・トレッド調節する時はタイヤラグの方向を間違えぬようにしてください。
（後方より見て「ハ」の字になるように）



・トレッド調節後は適正な工具を使用して確実にボルト・ナットを締付けてください。
・タイヤホイル締付トルク

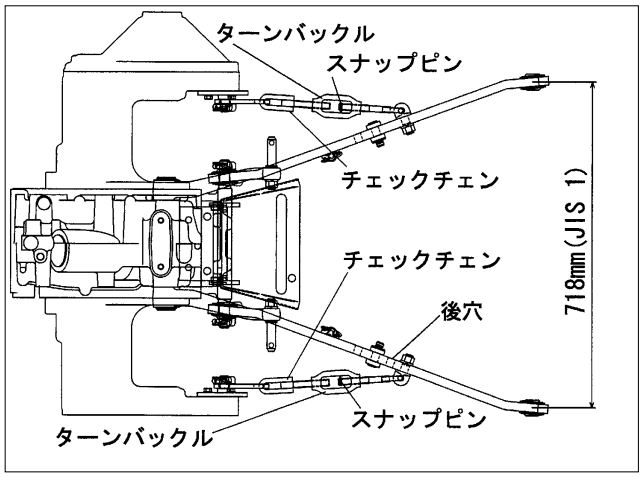
型式 / タイヤホイル	全型式
前輪	147～166N･m{15～17kgf･m}
後輪	

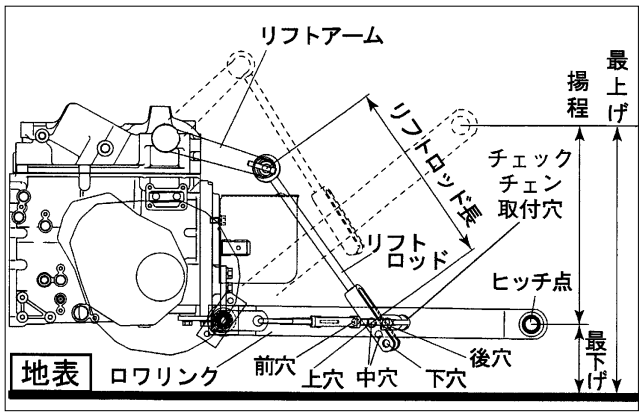
2. 3点リンクの取付け寸法の設定のしかた

3点リンクに作業機を取付ける時は作業機に応じて最も適した位置に取付けます。作業機ごとに寸法を指定しておりますので**「作業機の取扱説明書」**を参照してください。

❶ リフトロッド，トップリンクの長さの調整範囲は次の通りです。

・リフトロッド右（標準機）およびトップリンクの調整は，リンチピンを外し，ターンバックルを回して調整します。調整後リンチピンを取付けます。





［リフトロッド長さ（単位mm）］		
全型式		
左		右
上穴	436	376～576
中穴	464	
下穴	516	

❷ ロワリンクヒッチ点の地上高

・ロワリンクの前穴，後穴とリフトロッドの上穴，下穴をつけかえることによりヒッチ点高さを調整します。

※純正ロータリー （単位 mm）

ロワリンクヒッチ点の地上高															
機 種	タイヤサイズ		ロワリンク状態		揚 程	前穴(一般作業機)			中穴(標準ロータリ)			後穴(重作業機)			
	前 輪	後 輪	最上げ	最下げ		上 穴	中 穴	下 穴	上 穴	中 穴	下 穴	上 穴	中 穴	下 穴	
24型	6－14	9.5－22	828	320	508	○									
			776	248	528		○								
			673	110	563			○							
			811	363	448				※○						
			765	298	467					○					
			674	172	502						○				
			801	433	368							○			
			763	377	386								○		
			687	267	420									○	
27型 24型大径タイヤ仕様 ナロートレッド仕様	7－14	9.5－24	858	351	507	○									
			806	279	527		○								
			703	141	562			○							
			841	394	447				※○						
			795	328	467					○					
			705	203	502						○				
			831	464	367							○			
			793	408	385								○		
			717	298	419									○	
30型 27型大径タイヤ仕様	7－16	11.2－24	878	371	507	○									
			826	299	527		○								
			724	161	563			○							
			861	414	447				※○						
			815	348	467					○					
			725	223	502						○				
			851	484	367							○			
			813	428	385								○		
			738	318	420									○	

❸ 3点リンクの取付け

3点リンクの取付けは作業機によって異なりますので，作業機の取扱説明書により取付けを行います。

❹ チェックチェン

作業機の横振れをナットをゆるめターンバックルで次のように調整します。調整後は確実にナットをロックします。

(1) プラウ，ハロー，サブソイラ等の作業機は，作業機取付部が左右に５～６cm動く程度に調整します。調整後，作業機が横振れしてタイヤに当たらないことを確認します。

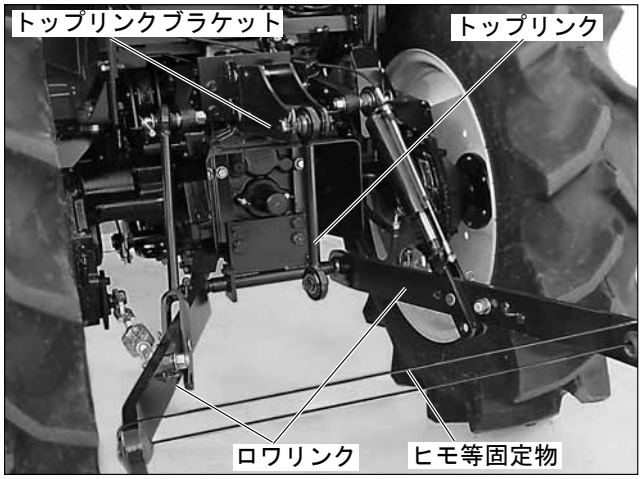
(2) ロータリ，モア等の作業機は，作業機取付部が１cm程度左右に振れる程度に調整します。

取扱いのポイント

●作業機の横振れはポジションコントロールレバーで作業機を上げた時と下げた時に異なる場合がありますので作業機を上げ下げして振れを確認し，振れの最小値を左記調整寸法に合わせます。

❺ トップリンクの着脱（オプション）

(1) トップリンクブラケットにトップリンクを取付けます。



(2) 作業機を取付けない時はトップリンクを外します。

・左右のロワリンクの振れ止めのためゴムバンド，ひも，プレート等で連結します。

❻ ドローバ（オプション）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆けん引作業をする時は，純正ドローバを使用し，ドローバ以外で引っ張らないでください。トップリンクブラケットなど車軸より高い位置でけん引すると転倒することがあります。

◆ドローバは，横方向へは引かないようにしてください。横方向では，ドローバが外れたり，フレームが曲がるおそれがあります。

◆最大積載総質量がトラクタの 1.5 倍を越えるトレーラは，けん引しないでください。ブレーキが効きにくくなり事故の原因となります。

◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は輪距を広くして使用してください。(37 ページ参照)

・けん引はこのトラクタに合った作業機を使用します。不明な点がありましたらお買いあげ先に相談し，無理なけん引は避けてください。

・けん引作業をする場合は，ドローバを使用します。他の所を使用してけん引すると転倒することがあります。
(装着の際はドローバの取扱説明書に従って行います。)

取扱いのポイント

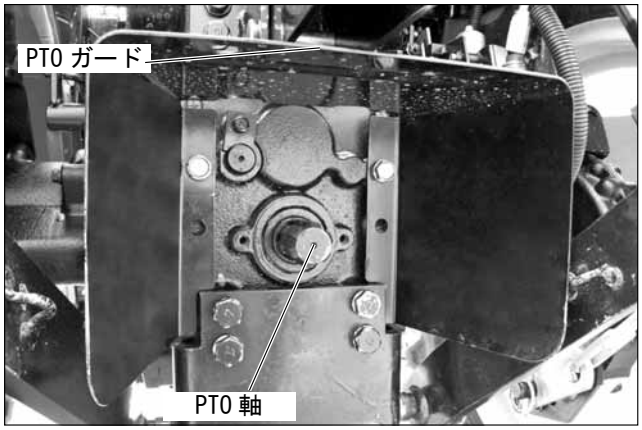
● ロータリ等でジョイントを装着の際はドローバを外してください。

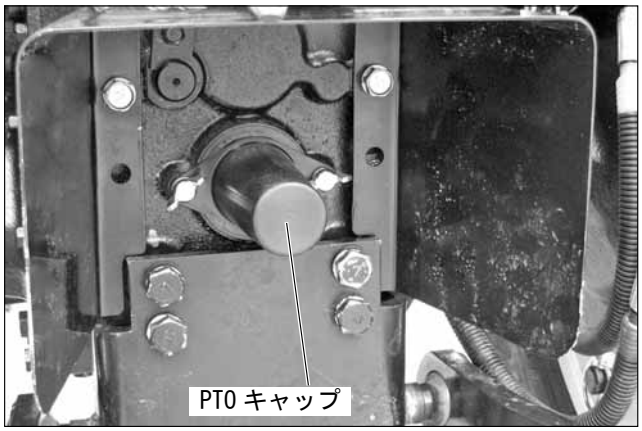
❼ PTO キャップ

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆ PTO 軸を使用しない時は，PTO キャップを取付けてください。PTO キャップを取付けないで作業をすると巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。
- ◆ PTO ガードを取外さないでください。

PTO を使わない時は，PTO 軸にグリスを塗布し，PTO キャップを取付けておきます。





❽ ロータリの取付け

ロータリの取付けは**「ロータリ取扱説明書」**をよく読んでから行います。その他の作業機についても，作業機の取扱説明書をよく読んでから行います。

3. フロントローダの取扱い

❶ フロントローダ

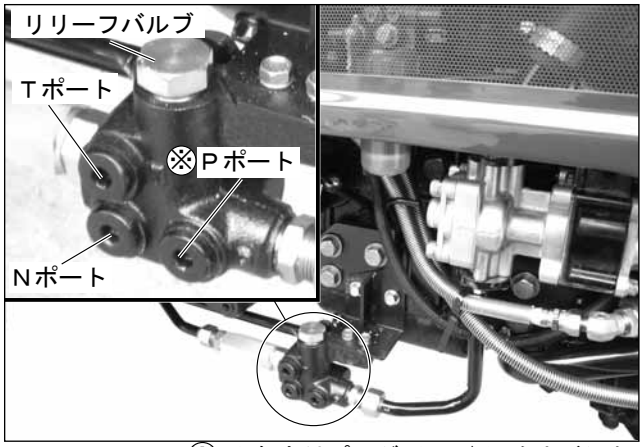
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆ フロントローダ使用の場合は，倍速旋回およびオートブレーキ旋回は使用しないでください。バランスが崩れ横転や傷害事故のおそれがあります。

フロントローダの油圧取出しは，トラクタエンジン右下にある，油圧取出しブロックのプラグ（P，N，T ポート）を外し，P ポート部に六角穴付テーパプラグ（RC1/4）をネジ込み油圧回路を変更し，コネクタとホースを取付けます。

プラグを外した時，油が洩れますので，下に油受けを置いて下さい。

油圧取出しブロックを取扱う時は，フロントローダの取扱説明書に従って行なってください。



※ 六角穴付プラグ（RC1/4）をネジ込む

取扱いのポイント

- ● フロントローダを装着する時は購入先にご相談ください。当社の規格外のフロントローダは使用しないでください。
- ● フロントローダ以外の作業機で作業機側でコントロールバルブを準備している場合はこの油圧取出口を利用してください。但し，フロントローダとの共着はできません。
- ● フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を 250kPa（2.5kgf/㎠）にしてください。

❷ 重量バランスの取り方

⚠警告 傷害事故防止のために

◆フロントローダ作業をする時は，後方に他の作業機を装着するなどして，バランスを保ってください。



作業機はいっぱい上げて作業機降下速度調節グリップを《固定》にして作業機が下がらないようにします。



4. 作業機の取扱い

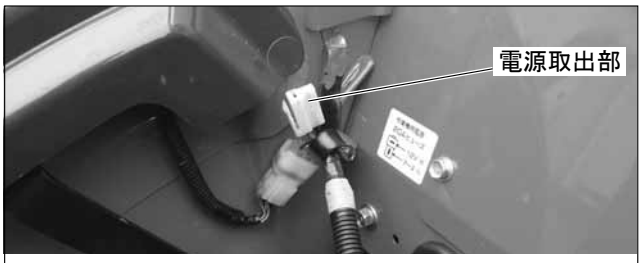
下記の事項を守って作業機の取扱いを行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

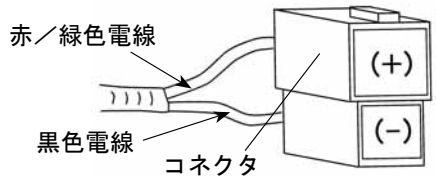
◆作業機の着脱は，平坦な場所で，作業機の取扱説明書に従って行なってください。
◆作業機を着脱調整する時は，トラクタの駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，PTO変速レバーを「《Ｎ》中立)」にして行なってください。
◆トラクタを移動して作業機を装着する場合は，トラクタと作業機の間に人が入らないようにしてください。
◆重い作業機を連結または装着した場合は，トラクタにバランスウエイトを付けて，バランスを保ってください。
◆低速回転用作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定のＰＴＯ回転速度を守ってください。
◆けん引作業，傾斜地での作業などの場合は，輪距を広くして使用してください。
◆作業機を装着すると，長さが長くなりますので，旋回時は周囲を確認して行なってください。
◆公道を走行する時は，作業機を取外し別の自動車で運搬してください。
◆作業機を装着して走行すると道路運送車輌法の違反になります。
◆最大積載総質量がトラクタの 1.5 倍を越えるトレーラは，けん引しないでください。ブレーキが効きにくくなり，事故の原因となります。

5. 作業機用電源の取扱い

・燃料ポンプ，作業灯キット，ローダ等作業機の電源として使用します。
・電源取出部は運転席右側後方にあります。



［電源取出部］



取扱いのポイント

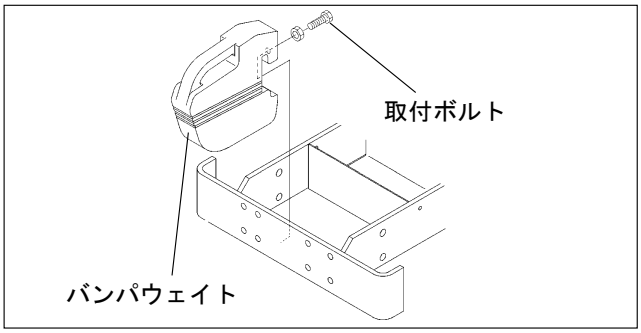
● この電源は DC12V，15A（最大）です。それ以上の負荷電流で使用するとヒューズが切れます。
● コネクタの（＋），（－）に針金等を差込まないでください。ショート（短絡）の原因になります。

6. バンパウェイト（オプション）

⚠警告　傷害事故防止のために

◆重い作業機を連結または装着した場合は，トラクタのバンパにバンパウェイトを付けて，バランスを保ってください。

・バンパウェイトは純正品を使用してください。
・バンパウェイトを取付ける時は固定ボルトで固定してください。
・バンパウェイト取付表（参考）に記載されていない作業機を装着する時は**「お買いあげ先」**へご相談ください。



（参考）

メーカー	作業機名	型　　式	トラクタ型式	バンパウェイト
松山	畦塗機	NZR302J	全機種	30kg × 4ヶ
〃	〃	DZR300EJ	〃	30kg × 5ヶ
〃	ウイングハロー	WBS2805B	GJ27/30（ナロートレッド仕様除く）	30kg × 2ヶ
〃	〃	WCS2200B	GJ24（ナロートレッド仕様除く）	不要
〃	ブロードキャスタ	MP220E	全機種	30kg × 2ヶ
〃	ロータリ	SX1810-S	GJ30	30kg × 6ヶ
小橋	畦塗機	RS750-MU	全機種	30kg × 2ヶ
〃	サイバーハロー	TX260H-MU	〃	30kg × 1ヶ
〃	ロータリ	KJL180T-4SDX	GJ30	30kg × 6ヶ
スター	ブロードキャスタ	MBC2080B	全機種	30kg × 2ヶ
〃	〃	MBC2080-4S	〃	30kg × 1ヶ
〃	〃	MBC2080	〃	30kg × 1ヶ
〃	ライムソワー	MLS1880B	〃	30kg × 6ヶ
〃	〃	MLS1880-4S	〃	30kg × 5ヶ
〃	〃	MLS1880	〃	30kg × 4ヶ
ササキ	畦塗機	KN157EX-MB	〃	30kg × 4ヶ
〃	〃	KN157EX-4S	〃	30kg × 6ヶ
〃	マックスハロー	MS240-MB	〃	不要
〃	〃	MS240-4S	〃	30kg × 1ヶ

キャビン装備機の取扱い

1. 各部の取扱い

1. ドア・リアウインドウの開閉のしかた

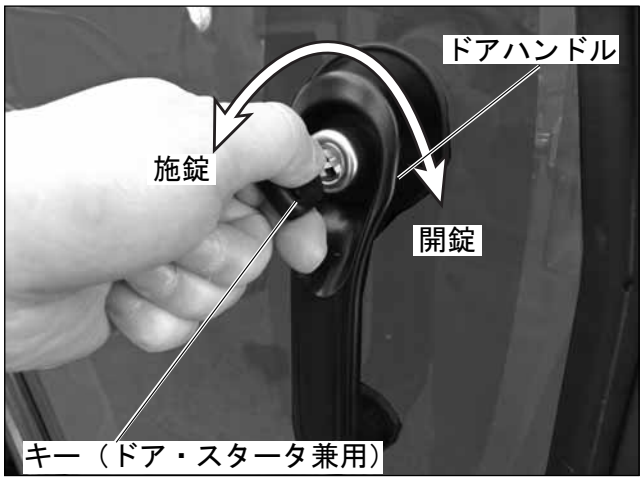
❶ ドア

⚠警告 傷害事故防止のために

◆半ドアの状態で運転すると，急にドアが開いて事故になることがあります。
走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

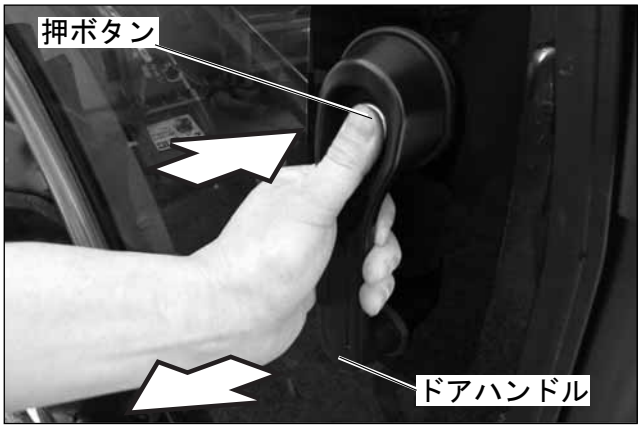
(1) ドアの施錠・解錠

キーを差込み，左方向に回すと施錠・右方向に回すと解錠となります。



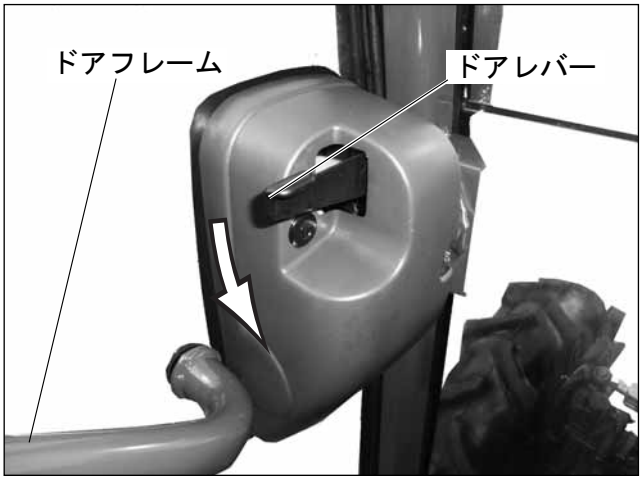
(2) 車外からの開けかた

押ボタンを押しながらドアハンドルを引くと，ドアが開きます。



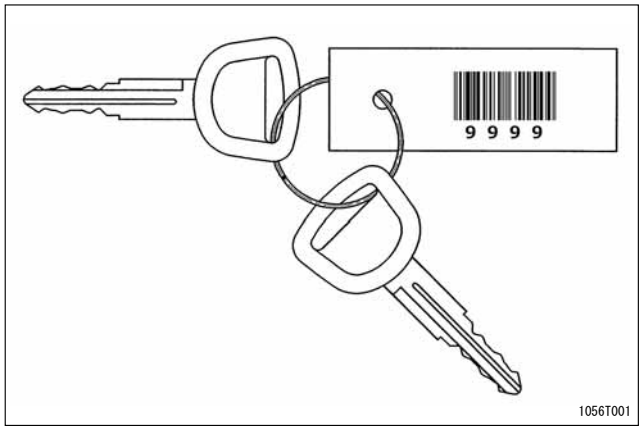
(3) 車内からの開けかた

ドアレバーを押すと，ドアが開きます。
また，閉じるときはドアフレームを引きます。



取扱いのポイント

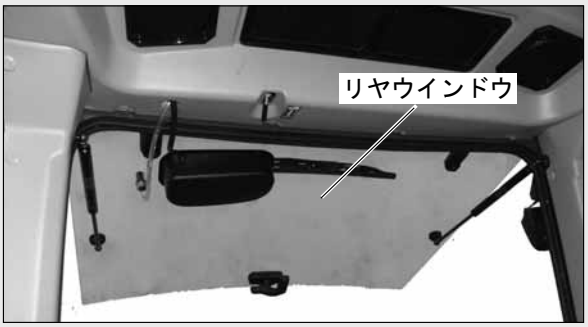
●キーリングに付属しているキーナンバー票は，キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙に記入し控えておくか，キーナンバー票を大切に保管してください。



❷ リヤウインドウ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆急に開くと傷害事故になることがあります。
◆リヤウインドウを開く時は周囲の安全を確認してください。急に開くと傷害事故になることがあります。
◆リヤウインドウ後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドウの開閉に注意してください。(開放時頭などを打つおそれがあります。)



リヤウインドウは跳ね上げ式です。

(1) 開けかた

・レバーを時計回りに回します。
・レバーを外側に押出して，リヤウインドウを開けます。

［レバー開状態］



(2) 閉じかた

・レバーを手前に引き，リヤウインドウを閉じます。
・レバーを手前に引きながら左に回し，確実に固定します。

［レバー固定状態］

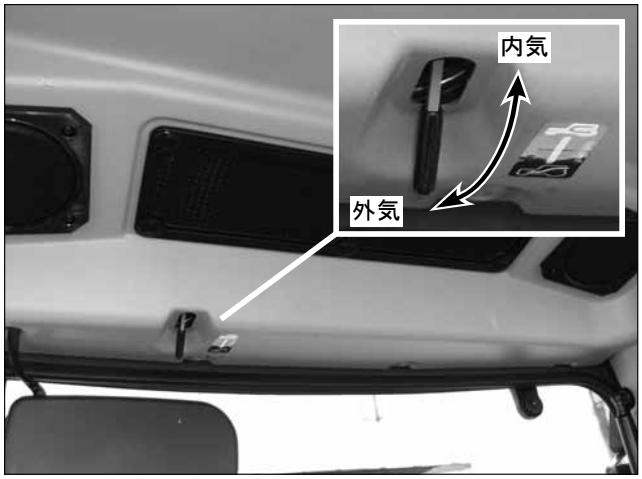


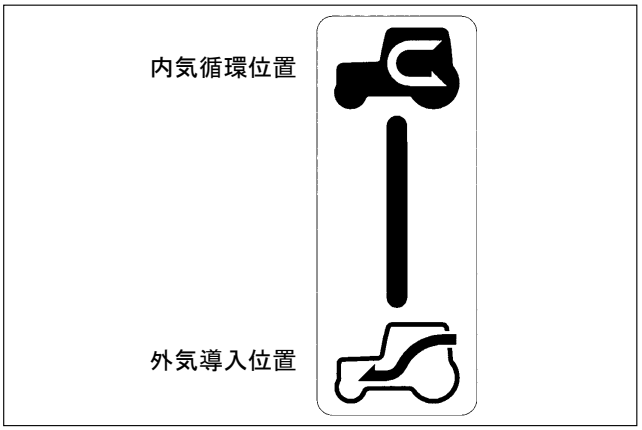
取扱いのポイント

●作業機によっては，リヤウインドウが開けられないことがありますので，事前に確認して行なってください。
●トラクタ後方での作業機の脱着，調整等の作業をするときは，リヤウインドウを閉めるか，開放位置を確認して行なってください。
●リヤウインドウを開放したままでの道路走行は行わないでください。振動でガラスが破損することがあります。リヤウインドウを閉じ，レバーを確実に固定してください。
●寒冷時にドアおよびリヤウインドウが凍結している場合は，無理に開けるとゴムがはがれたり，損傷することがあります。
ぬるま湯で解凍してから開けるようにしてください。
●ドアにぶらさがったり，作動範囲以上無理に押し開かないでください。

❸ 内気・外気切替レバー

ファンを回した時に室内の空気を循環させるか，外気を導入するかを選択します。





内気循環位置……早く冷暖房をきかせたい時や強くきかせたい場合に使用します。

外気導入位置……ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。

取扱いのポイント

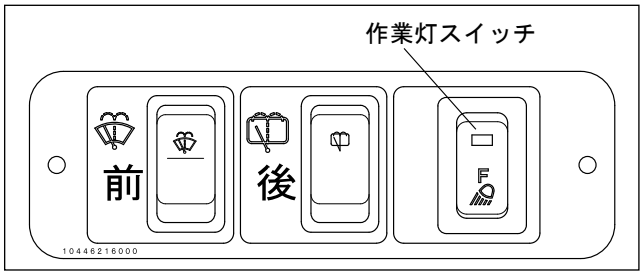
- 内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。
- ほこりが多発する作業では，外気導入で使用してください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し，安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。

2. スイッチの取扱い

1. 灯火スイッチの取扱い

❶ 作業灯スイッチ

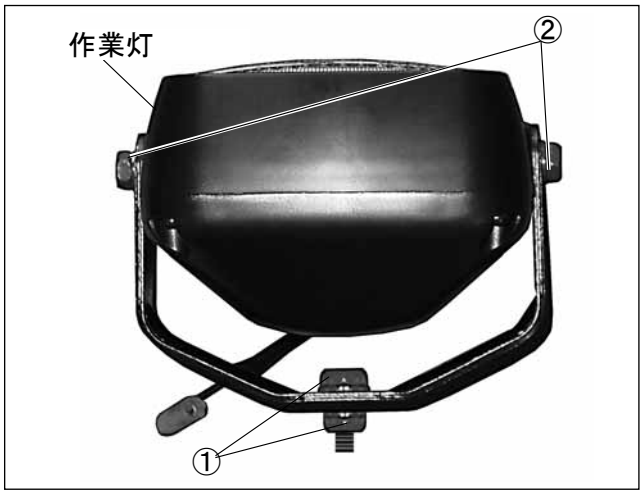




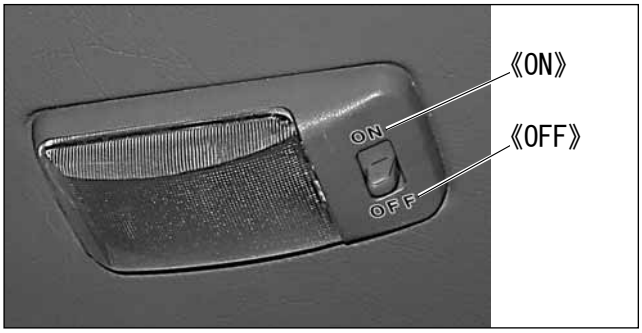
キー《 入》にし，作業灯スイッチの上側を押すと，作業灯とスイッチ内のランプが点灯します。下側を押すと消灯します。

取扱いのポイント

- 作業灯を使用する時は，バッテリがあがらないようにエンジンを始動してから使用してください。
- 道路走行時は，作業灯を消してください。
- 作業灯は，①のボルトとナットで左右方向を②のボルトで上下方向を変えることができるので適宜，調整します。（但し，前側作業灯は左右方向は変えることができません。）



❷ ルームランプ



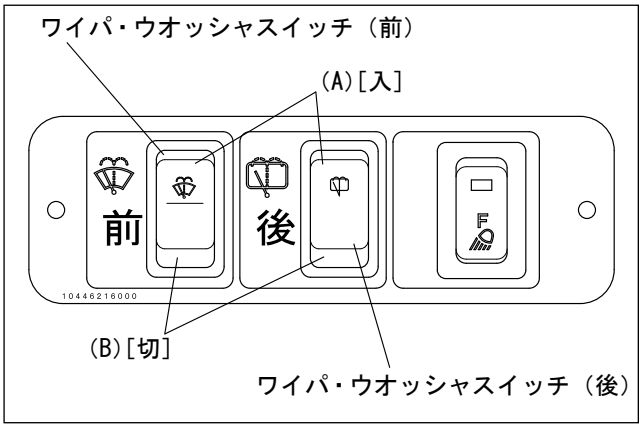
キャビン室内の照明に使用します。

・《ＯＮ》……ランプが点灯します。

・《ＯＦＦ》……ランプが消灯します。

2. 各種スイッチの取扱い

❶ ワイパ・ウオッシャスイッチ（前）（後）



(1) ワイパの操作

スイッチ（A）側を押すとワイパが作動し，スイッチ（B）側を押すとワイパが停止します。

(2) ウォッシャの操作

・ワイパ作動中……スイッチ（A）側をさらに押すと，押している間，ウォッシャ液が噴射します。

・ワイパ停止中……スイッチ（B）を押すと，押している間，ウォッシャ液が噴射します。

取扱いのポイント

●キーが《切》の時は，作動しません。
キーを《 入》またはエンジンを始動してから操作してください。

●ガラスがほこりや泥で汚れたままでワイパを使用しますとガラスに傷が付くことがあります。洗車または，ウォッシャ液を噴射してから使用してください。

●寒冷時にワイパブレードが凍結してガラスに張りついたままでワイパを使用すると，ワイパが作動できない為，内蔵のサーキットブレーカが作動します。作動した場合，ワイパブレードの凍結を融解させ，しばらく時間が経過してから使用して下さい。使用する前にワイパブレードの状態を点検してください。

●ワイパ使用中，積雪等によりワイパブレードが途中で止まった時は，ワイパスイッチを「切」にしても電気が流れておりキーを《切》にしないとヒューズが切れることがあります。トラクタを安全な場所に停止してキーを《切》にして，ワイパブレードが作動できるように積雪等を取除いてください。

●ウォッシャ液を連続で 60 秒以上噴射したり，ウォッシャ液が出ない時に 20 秒以上使用すると，ワイパモータが焼付くことがあります。

●寒冷時にウォッシャを使用する時は，ガラスに噴射したウォッシャ液が凍って視界を妨げることがありますので，先にウインドウガラスをヒーターにより暖めてから使用してください。

●ウォッシャ液は，市販のウォッシャ液を使用してください。寒冷時に清水のみで使用すると凍結し，ウォッシャタンク，ホース等を破損することがあります。

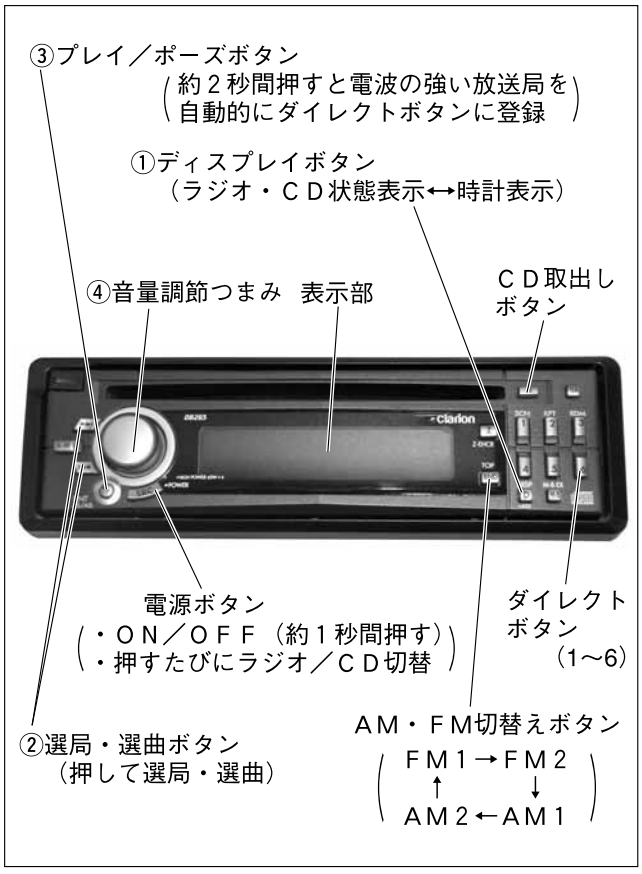
❷ カーステレオ

別添のカーステレオ用の取扱説明書を参照してください。

時刻合わせ

1．スタータスイッチを《ACC》または《入》にする。
2．①ボタンを約１秒間押す（「SCRN SVR」の表示になる）
3．②ボタンを押して表示部が「CLOCK 〈E〉」になるようにする。
4．③ボタンを押すと設定モードになる。（設定直前の時刻を表示）
5．②ボタンを押して「時」または「分」を選ぶ。（点滅部が調整できるところ）
6．④つまみで時刻（数字）を合わせる。
7．③ボタンを押して設定完了。
8．①ボタンを押して（設定）時刻表示。

※バッテリを外すと時刻もリセットされます。



3. 運転装置の取扱い

運転各種スイッチ，計器，レバー，ペダルなどの配置，操作方法は，２柱フレーム仕様と同様です。

各部の取扱いかた の項を参照して行います。

1. バックミラー

バックミラーは，運転席に座って見やすい位置に調節します。

狭い所へトラクタを格納する場合には，バックミラーが接触しないように前方へ倒すことができます。





取扱いのポイント

- バックミラーは通常作業時の位置でキャビンより側方へ張り出していますので，狭い場所でのすれ違いや，本機格納時接触しないよう注意してください。
- 道路走行時は，バックミラーを倒したままで運転しないでください。
- ［運転状態］から更に後方へバックミラーを回動しないでください。アンテナに当たり破損する恐れがあります。

4. 室内装備の取扱い

1. カップホルダ

飲料等のカップをホルダに入れて，固定することができます。



2. エアコン

⚠警告 傷害事故防止のために

◆万一，エアコンが故障した場合はスイッチを OFF にして点検を受けてください。エアコンの回路内には高圧ガスが充填されていますので，配管部分やコンプレッサ部分をゆるめると，ガスが噴出して危険です。冷媒(ガス)の補充，その他の作業には特殊な工具と計器類が必要ですので，必ず整備の整った指定サービス工場で行ってください。

◆ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

◆次のような異常を認めたとき，修理を怠るとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

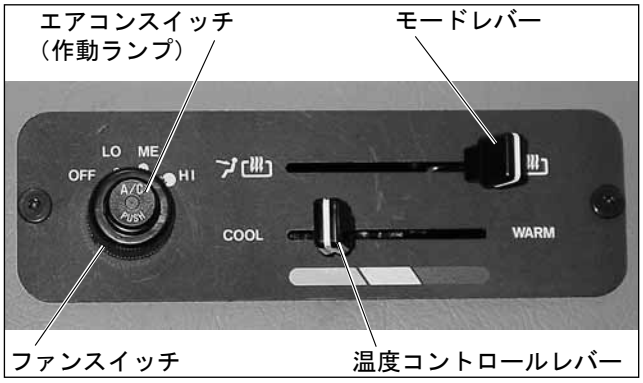
※ウォータホースの傷つき，ひびわれ，ふくらみ。

※ウォータホースジョイント部の水漏れ。

※ウォータホース保護チューブ及び縁ゴムの外れ，破損。

※本体取付ボルトの緩み，ブラケットの破損。

❶操作部



(1) エアコンスイッチ



このスイッチを押してエアコンを「入」・「切」します。エアコン作動時は，中央のランプが点灯します。

(2) モードレバー



この位置のときフロントベンチレータ・サイドベンチレータ全ての吹出口より風が吹きだします。



この位置のときフロントベンチレータの吹出口より風が吹きだします。

(3) 温度コントロールレバー

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風，左に寄せると冷風が出ます。

(4) ファンスイッチ

風量を調節します。



《OFF》:ファンが作動しません。
《LO》：微風。
《ME》:中間風。
《HI》：強風。

❷暖房

(1) モードレバーを  又は  にします。

(2) 内気･外気切換えレバーを外気導入にします。
早く室温を上げたいときは内気循環にします。

(3) ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）と温度コントロールレバーを調整し，快適な温度にします。

❸冷房・除湿暖房

(1) モードレバーを にします。

(2) 内気･外気切換えレバーを外気導入にします。

(3) エアコンスイッチを押し［入］にします。

(4) ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）を作動させます。

(5) 温度コントロールレバーをＣＯＯＬ又は中間位置に調整し，快適な温度にします。

❹頭寒足熱

冷房・除湿暖房の運転状態で，温度コントロールレバーを中間位置で使用すると，顔が涼しく足元が暖かい（頭寒足熱）快適な状態が得られます。

❺デフロスト

フロントガラスの曇り及び凍結解除するときは，

(1) フロント吹出口を開き，フロントガラスの方向に向けます。

(2) モードレバーを にします。

(3) 内外気切換えレバーを外気導入にします。

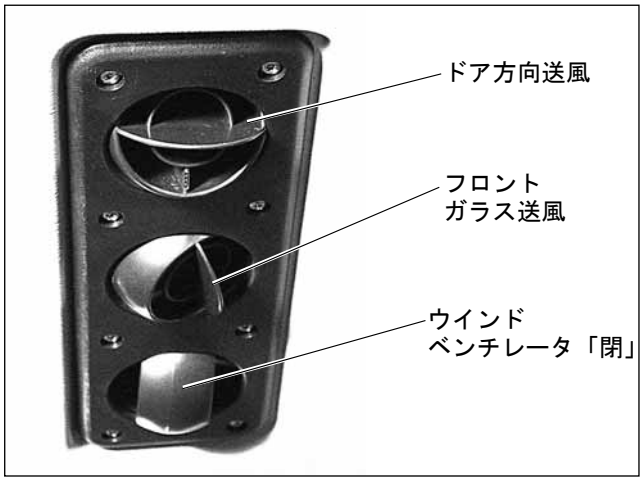
(4) ファンスイッチをHI,温度コントロールレバーをWARM（右側）にします。

取扱いのポイント

- **冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。**
  また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
- **冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。**
  （冷却水の排水のしかたは，トラクタ本機の取扱説明書を参照してください。）

- ウォータホースは２シーズンごとに交換を受けてください。
- 冷房し始めた時，一時的に吹出し口から霧が吹出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。
- エンジン冷却水温が低いときに高温側にしても温風は出ません。
- 長時間作業される時，またはタバコを吸われている時は，時々，室内の換気をしてください。
- ウインドウガラスが曇ると視界を妨げますので，やわらかい布で水気をふき取ってください。
- 夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，温度コントロールレバーを COOL（左端）に寄せてください。
- エアコンは，温度を下げるばかりでなく，湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度（外気温度との差５～６℃）に調節してください。また，冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。
- エアコンスイッチ，送風量調節スイッチは，「切」の位置にしてから格納します。
- エアコンは，シーズンオフでも１ケ月に１回，10 ～ 15 分間運転してください。
  エンジンは低回転にした状態で温度調整レバーは「冷」の位置，送風量調節スイッチは「弱」の位置で，エアコンスイッチを「入」にします。運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ，エアコンを常時最良の状態に保つことができます。

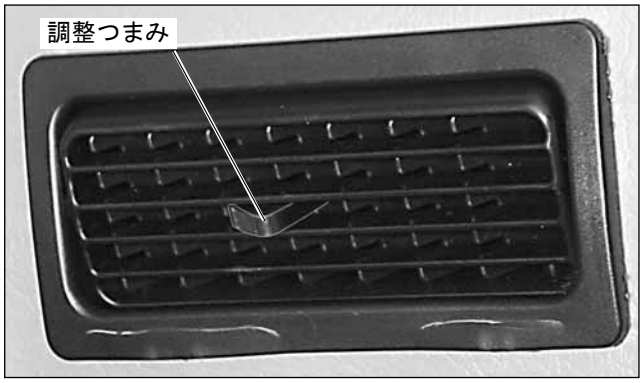
❻ フロントベンチレータ



(1) 風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。
デフロスタ（フロントガラスのくもり止め）として使用する場合，吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。

(2) サイドベンチレータからの風量を増したいときは，[閉] にしてください。

❼ サイドベンチレータ



(1) 調整つまみで任意の方向に向けてください。

手入れのしかた

・工場から出荷のときは正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じますので点検・再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告　ヤケド，火災，傷害事故防止のために

- **◆ 掃除・点検・調整・整備する時は，トラクタを平坦な広い場所に置き，駐車ブレーキをかけ，作業機を降ろし，エンジンを止め各部の動きが止まってから行なってください。**
- **◆ エンジンまわりの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。**
- **◆ 作業機を上げて，掃除・点検・調整・整備する時は，作業機降下速度調節グリップを《固定》にし，作業機が降りないことを確認し，作業機の下に固定脚を置いてください。**
- **◆ 取外したカバーは，全て取付けてからエンジンを始動してください。**
- **◆ 定期点検整備表に記載されていない部所の点検・整備は「お買いあげ先」へ申しつけてください。**

1. 定期点検整備表

・正常な機能を発揮し，いつも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**を参考に点検・整備をします。

・**「定期点検整備表」**は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度，調整をします。

・**表示記号の説明**　○……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。
◎……指定時間ごとに点検し，調整・補給・掃除などの処置をします。
●……指定時間ごとに交換します。

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔 運転前	50時間	100時間	200時間	300時間	参照ページ
エンジン関係	燃料タンク	点検・補給・タンクの掃除	○				◎	58～59
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換		◎		●		60
	燃料ホースの劣化と洩れ	点検・交換	○			●		74
	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	●（初回のみ）	●			57
	エンジンオイルフィルタ	交換		●（初回のみ）	●			58
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・掃除・交換	○					61～62
	ラジエータスクリーン	点検・掃除		◎				67
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換		◎				67
	ファンベルト	点検・調整・交換		◎				70
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○					79～84
	電気配線（配線，接続部のゆるみ，損傷）	点検・修正	○					75
	計器類	点検	○					－

○……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。
◎……指定時間ごとに点検し，調整・補給・掃除などの処置をします。
●……指定時間ごとに交換します。

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔 運転前	50時間	100時間	200時間	300時間	参照ページ
本機関係	油圧オイルフィルタ	交換			●(初回のみ)		●	64
	ミッションオイル	点検・補給・交換		◎	●(初回のみ)	●		63
	フロントアクスルオイル	点検・補給・交換		◎	●(初回のみ)	●		64～65
	タイロッド（左・右），ロッドエンド	点検・補給		◎				66
	ブレーキリンク，クラッチリンク	点検・補給		◎				66
	クラッチペダル	点検・調整	○					70
	ブレーキペダル	点検・調整	○					72～73
	各レバー類の作動	点検	○					12～20
	ボルト，ナットのゆるみ	点検	○					－
	タイヤ空気圧	点検	○					73
	トーイン	点検・調整				◎		71～72
	パワステシリンダ油圧ホース	点検・交換						74
	ハンドル	点検	○					74
キャビン	コンプレッサベルト	点検・交換			◎			85
	内気フィルタ	点検・掃除			◎			68～69
	外気フィルタ	点検・掃除			◎			68～69
	ウォータホース	点検・交換						75
	エアコン配管・ホース	点検						75
	コンデンサフィン	点検・掃除						68
	コンデンサスクリーン	点検・掃除						68
	ウォッシャ液	点検・補充						66
	冷媒量	点検・補充						85
	ﾄﾞｱﾋﾝｼﾞ，ﾘﾔｳｲﾝﾄﾞｳﾋﾝｼﾞ	点検・注油						66

取扱いのポイント

●機械または，部品等を廃棄するときは「お買いあげ先」にご相談ください。

●使用済み廃棄物の処理について

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは

(1) 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。

(2) 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

(3) 廃油，燃料，冷却水(不凍液)，冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，「お買いあげ先」，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

2. 給油・給脂・給水のしかた

・工場から出荷の時は，各給油・給脂・給水個所ともオイル・グリス・冷却水は入っていますが，使用する前に点検します。

取扱いのポイント

●各給油個所には，指定オイルを規定量給油してください。

1. 給油・給脂・給水表

種別	No.	個所	種類	分類		容量	交換	参照ページ
				APIｻｰﾋﾞｽ分類	SAE粘度番号			
全型式	①	エンジンクランクケース	エンジンオイル	CD級以上	10W-30	4.1	作業前点検・初回50時間，あとは100時間ごと交換	57
	②	燃料タンク	軽油	―	―	27	作業前点検（必要量補給）	58
	③	ラジエータ	冷却水（不凍液40～45%含む）	―	―	4.4	作業前点検（必要量補給）［2柱フレーム仕様］	61 ～ 62
			冷却水（不凍液40～45%含む）	―	―	6.4	作業前点検（必要量補給）［キャビン仕様］	61 ～ 62
	④	トランスミッションケース	ギアオイル	GL-4	80W	31	初回100時間、あとは200時間ごと交換	63
	⑤	フロントアクスルケース	ギアオイル	GL-4	80W	4 5［ナローレッド仕様］	初回100時間、あとは200時間ごと交換	64 ～ 65
	⑥	クラッチリンク	グリス	―	―	適量	初回100時間、あとは200時間ごと交換	66
	⑦	ブレーキリンク（左･右）	グリス	―	―	適量	初回100時間、あとは200時間ごと交換	66
	⑧	ロッドエンド…4か所	グリス	―	―	適量	初回100時間、あとは200時間ごと交換	66
キャビン装備機	⑨	各ヒンジ部	ギアオイル	―	―	適量	必要に応じて点検	66
	⑩	ウォッシャタンク	ウォッシャ液（市販品）	―	―	1.5	作業前点検（必要量補給）	66

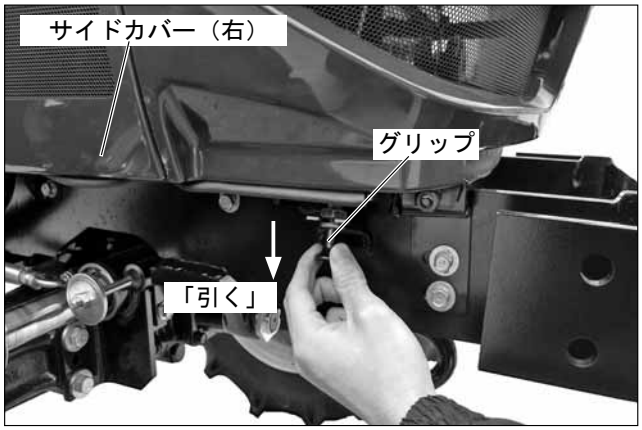
●エンジンオイル……三菱農機純正油
　またはディーゼルエンジンオイル　API分類CD級以上，SAE・10W－30
●燃　　料……ディーゼル軽油　JIS ２号（－10℃まで）
　JIS ３号（－10℃から－20℃まで）
　JIS 特３号（－20℃以下）
●ギ ヤ オ イ ル……ギヤ車：三菱農機純正油
　またはAPI分類GL －４級以上，SAE・80Wのオイルで湿式ブレーキ適正のあるもの
※使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。

2. ボンネットの開閉とカバー類の取り外しかた

❶ ボンネット

(1) ボンネットの開けかた

・グリップを下に引いて,ボンネットのロック（固定）を外します。



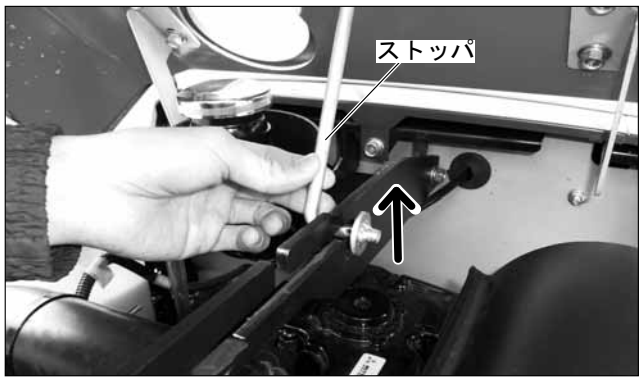
・ボンネットを持ち上げるとストッパがプレートの切欠部に入り，ボンネットは固定されます。



(2) ボンネットの閉めかた

ボンネットを少し持ち上げ，ストッパを上にあげ，固定が解除してからボンネットをゆっくりと降ろします。

ボンネットを降ろしたら，ボンネットを軽く押さえて固定します。



❷ フロントグリルの脱着

(1) フロントグリル固定用の 2 本のノブボルトをゆるめフロントグリルを前方へ傾けます。



(2) ランプ用コードのコネクタを外して，フロントグリルを取り外します。



(3) 取付けは逆の手順で行います。

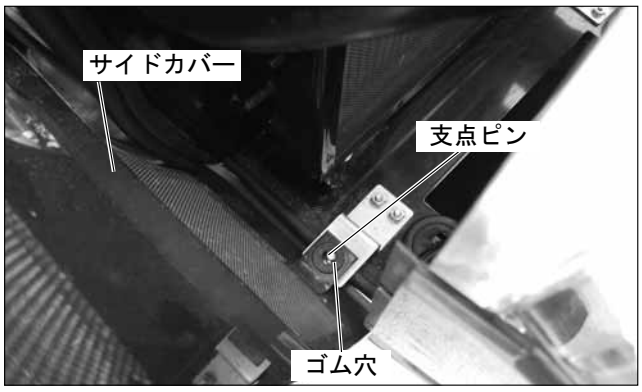


❸ サイドカバー（左・右）の脱着

(1) サイドカバー上部のノブをゆるめ，ノブを取外します。



(2) サイドカバー前方下部のゴム穴を支点ピンから外します。



(3) サイドカバー後方の支点ピンをゴム穴から外します。



・サイドカバーの取付けは逆の手順で行います。

3. エンジンオイルの点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジンオイルの点検および交換する時は平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

取扱いのポイント

- オイルの量は，エンジン始動前に調べてください。
- エンジンオイルは推奨オイルをご使用ください。
- オイルの粘度は，外気温によって下表のように使い分けてください。

気温℃	－20	－10	0	10	20	30
エンジンオイル	SAE10W－30					
		SAE20W		SAE30		

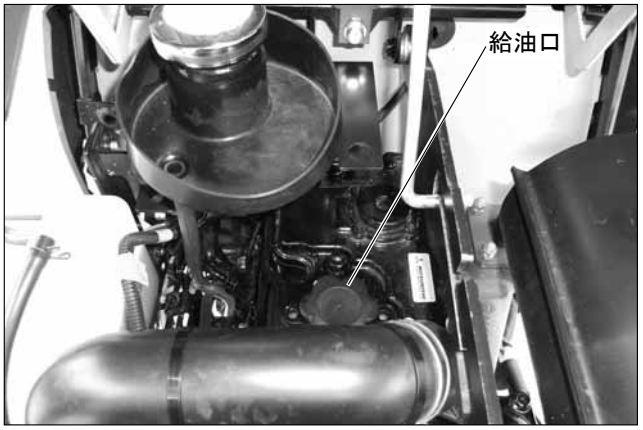
❶ エンジンオイルの点検

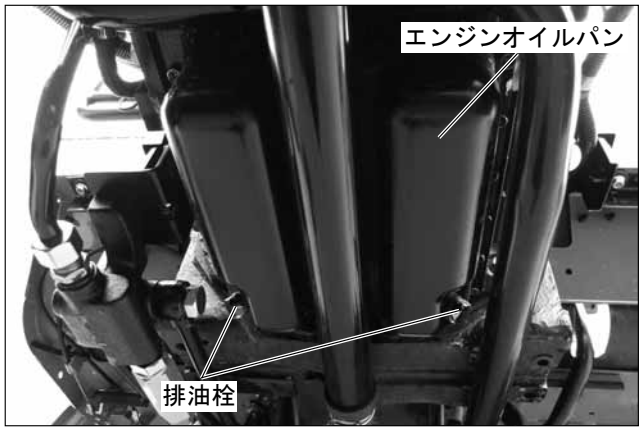
レベルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから抜出し，オイルレベルゲージの刻み線**「上限」**と**「下限」**の間（規定量）にオイルがあるか調べます。不足しているときは，給油口よりオイルレベルゲージの刻み線**「上限」**まで入れます。さらに，油もれのないことも調べます。

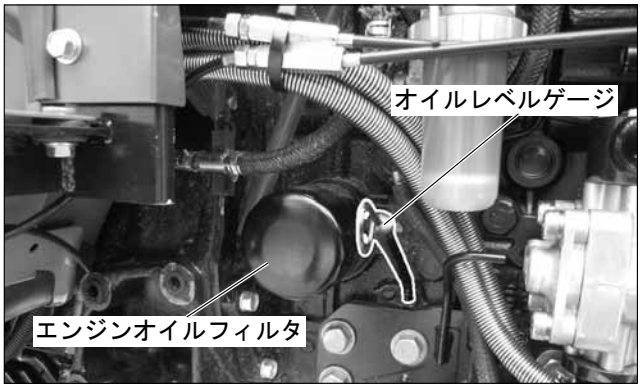
❷ エンジンオイルの交換

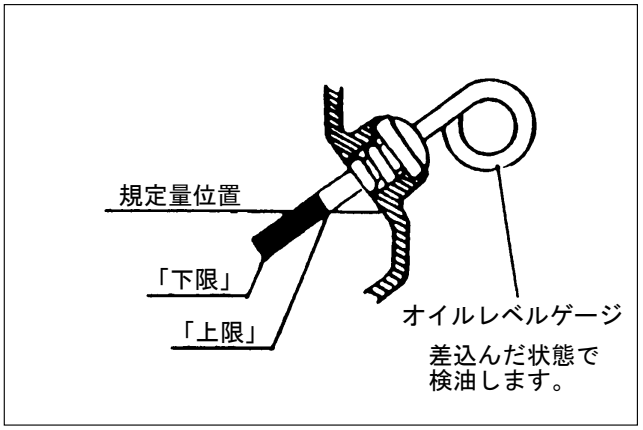
(1) オイルレベルゲージとエンジンオイルパンの排油栓（２個所）を外し，オイルを抜きます。

(2) 排油栓を締め新しいエンジンオイルを，オイルレベルゲージの刻み線**「上限」**まで給油します。









4. エンジンオイルフィルタの交換

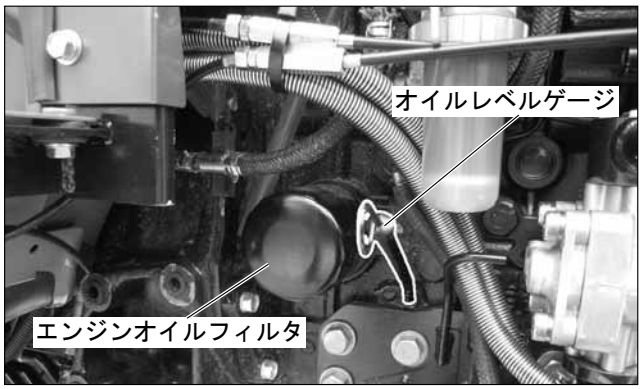
エンジンオイルフィルタは**「カートリッジタイプ」**ですので,**「お買いあげ先」**で交換します。

・第１回目……50 時間運転後に交換

・第２回目より…100 時間運転ごとに交換

❶ エンジンオイルフィルタ（カートリッジタイプ）は手でゆるまない場合は専用工具（市販品）を使用して，外します。

❷ エンジンオイルフィルタを交換した時は，オイルフィルタの容量分オイルが多く入るのでオイルレベルゲージでオイル量を確認し，不足のときはオイルレベルゲージの刻み線**「上限」**まで補給します。



取扱いのポイント

●**エンジンオイルフィルタを取付ける時は，パッキン面にオイルを塗り，エンジンオイルフィルタを手で締め，パッキンがシール面に接触してから約 2/3 回転締付けてください。**

5. 燃料の補給

⚠警告　火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因となります。

◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料もれがないか点検をし，もれている場合は交換してください。

(1) タンクのキャップを外し,**「こし網」**をとおして燃料（ディーゼル軽油 JIS2 号または 3 号・特 3 号軽油）を補給します。



(2) 燃料供給台

[2 柱フレーム仕様]

・燃料供給台を本機側へ押し込み 90° 右（時計回り）に回転させてセットします。

・燃料缶を給油台に載せて燃料を給油します。燃料給油以外に使用しないでください。



・燃料給油後は元の位置に戻します。



［キャビン仕様］

・燃料供給台を本機側へ押し込み 90° 左（反時計回り）に回転させてセットします。

・燃料缶を給油台に載せて燃料を給油します。燃料給油以外に使用しないでください。



・燃料給油後は元の位置に戻すか，または上側に収納してください。



取扱いのポイント

●軽油は，気温に合わせて，JIS ２号，３号，特３号軽油を使用してください。

－ 10℃までは JIS ２号

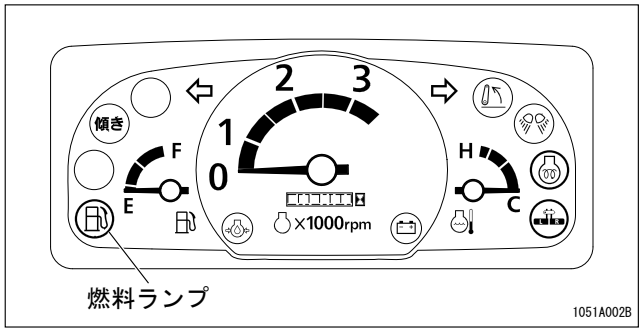
－ 10℃～－ 20℃までは JIS ３号

－ 20℃以下は JIS 特３号

(3) 燃料満タンブザー

・燃料給油を始める前にスタータスイッチ（始動キー）を《入》にしておくと満タン付近でブザーが鳴り知らせてくれる機能です。

・満タン付近になるとピッピッピッピッーというブザー音が繰り返し鳴り，ブザー音に合わせて燃料ランプが点滅します。



取扱いのポイント

●スタータスイッチ(始動キー)は《入》位置で，エンジンは始動させないでください。エンジン始動状態では燃料満タンブザー機能は働きません。

●スタータスイッチ（始動キー）を《入》位置にして約５分給油しないと，キーの切り忘れと判断してブザーが鳴り出します。いったん《切》にしてやり直してください。

6. 燃料フィルタの交換と掃除

❶ 交換

50 時間ごとに掃除し，200 時間ごとにエレメントを交換します。(95 ページ参照)

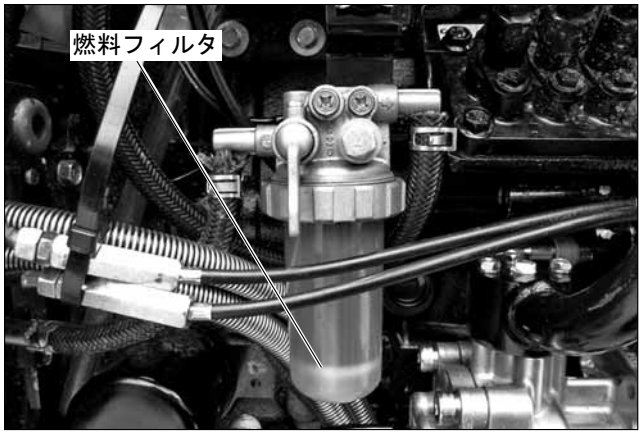
❷ 掃除

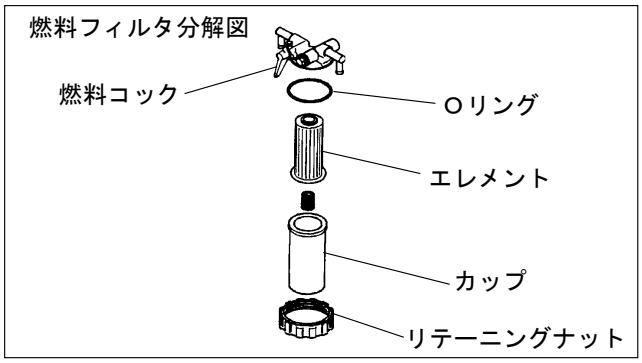
(1) カップを取外し，きれいな軽油で洗浄します。

(2) エレメントを取外し，きれいな軽油で洗浄または交換します。

(3) Oリングに注意しながらエレメントとカップを取付け，締付けます。

(4) 7. エア抜き要領 に従ってエア抜きをします。





取扱いのポイント

●カップを外すとき，ディーゼル軽油が少量こぼれる場合がありますので，燃料フィルタの下にトレーなどの油受けを置いてから行ってください。また，こぼれたオイルはきれいにふき取ってください。

7. エア抜き要領

燃料ライン内の空気は，抜いてください。

❶ 次のような場合，燃料ライン内に空気が混入します。

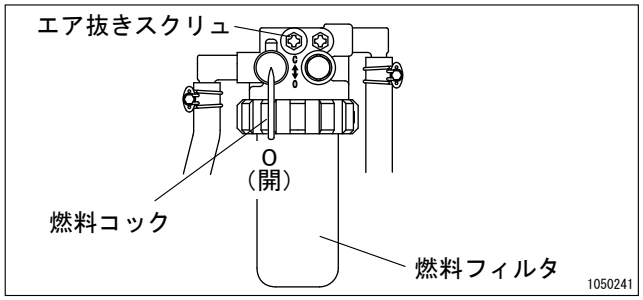
(1) 燃料切れで，エンジンが停止した場合

(2) 燃料フィルタの交換や，フィルタカップを掃除した場合

(3) 噴射ポンプと燃料タンク間の接続部分を，ゆるめたり，外した場合

(4) 長期間トラクタをご使用にならなかった場合

❷ エア抜き



(1) 燃料フィルタの燃料コックを《O》(開) 位置にします。

(2) スタータスイッチを《入》位置にすると燃料ポンプが作動します。(この時エンジンは始動しません。)

(3) エア抜きスクリュを緩め，気泡が混じらない燃料が出てきたら，エア抜きスクリュを締めます。

(4) (3) 項後の状態を約 15 秒保持すると，インジェクションポンプ内のエアが抜けます。

(5) 以上でエア抜きは完了ですのでエンジンを始動します。

(6) 始動しないときは，(2) ～ (4) 項の操作を行います。

取扱いのポイント

- トラクタの燃料切れが発生した際，燃料タンクに燃料を入れ，エア抜きをせずにエンジン始動をすると，少量の空気混入ならエンジンを始動することができます。しかし，燃料ライン内の空気混入はエンジンに負荷をかけた際，馬力が低下したり，エンジンが停止しますのでエア抜きを行なってください。
- 長時間スタータスイッチを《始動》位置にするとバッテリ上がりの原因になります。

8. 冷却水の保守管理

⚠警告 ヤケド防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。エンジンが冷えてからゆっくり開けてください。

◆キャビン装備機は冷却水の交換時期・濃度管理を確実に行なってください。キャビン装備機はヒーターが室内にあり，管理が不充分な場合ヒーターコアチューブが腐食し室内に熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。

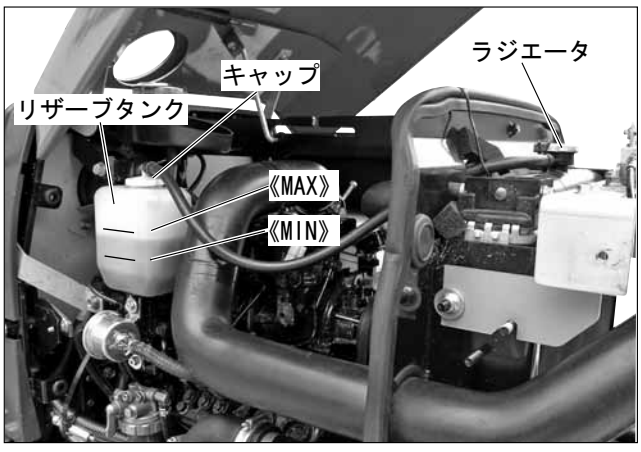
ラジエータの冷却水の取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きな影響を与えます。

❶ 冷却水の点検

(1) ラジエータにはリザーブタンクが付いていてラジエータ内の冷却水を適量にする構造になっています。運転前に点検を行い冷却水が不足している時は補給します。

(2) サイドカバー右を開いてリザーブタンク内の冷却水が《ＭＡＸ》(上限),《ＭＩＮ》(下限）の間にあることを確認します。

(3) 冷却水が不足している時はリザーブタンクに補給します。



❷ 冷却水の交換

(1) ボンネットを開きラジエータキャップを外します。



(2) 右サイドカバーを外し，ホースバンドをゆるめ冷却水ホースを外し，冷却水を排水します。
　リザーブタンクの排水はリザーブタンクを外して行います。



(3) 冷却水ホースを取付けてから水道水を入れ，エンジンを始動し，ハイアイドルで約 15 分間運転し，冷却水ホースを外して排水します。
　排水した水が濁っているときは透明になるまで水洗いをくり返します。

・キャビン仕様は温度コントロールレバーを《暖》の位置にして行います。

・市販のラジエータ洗浄剤を使用すれば効果的に洗浄できます。

(4) 排水が終わったら冷却水ホースを取付けます。ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を入れたのちラジエータキャップを閉めます。

(5) リザーブタンクに冷却水を入れます。

・キャビン仕様はヒータに冷却水が循環するため，冷却水が約１Ｌ多く必要となります。冷却水を交換した場合は，リザーブタンクの注入口まで一杯にし，温度コントロールレバーを《 WARM 》の位置にして，しばらくエンジンを回し，冷却水を暖めてから，エンジンを止めてください。冷却水が冷えると，リザーブタンクの冷却水が吸い込まれ，リザーブタンクの水量が減ります。

・エンジン，ラジエータ内部の腐食を防ぐため，冷却水は防錆剤，潤滑剤の入った不凍液**「ロングライフクーラント」**を使用します。

❸ 不凍液の注入要領

(1) 工場出荷の時は不凍液**「ロングライフクーラント」**が注入され**「外気温度－ 25℃」**まで効力がありますが，納入後１年以上経過すると効力が低下しますので，冷却水を抜き**「不凍液濃度基準」**を参考に入替えます。

不凍液濃度基準表

外気温度	℃	－ 5	－ 10	－ 15	－ 20	－ 25	－ 30
不凍液濃度	%	20 ～ 25	25 ～ 30	30 ～ 35	35 ～ 40	40 ～ 45	45 ～ 50

(2) 別容器（ポリバケツ）に不凍液を必要量（不凍液濃度基準表参照）入れます。

(3) 清水を加えよく攪拌した後にラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。

取扱いのポイント

- **冷却水には清水を使用してください。泥水や塩水を使用しないでください。**
- **冬季には冷却水が凍結し，エンジンやラジエータを破損することがあります。不凍液「ロングライフクーラント」を混合してご使用ください。**
- **ラジエータ洗浄剤を使用する際には洗浄剤の取扱説明書を熟読のうえ使用してください。**
- **２年使用ごとに，冷却水の交換と，ラジエータ内部の洗浄を行ないます。**

9. ミッションオイルの点検と交換

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ミッションオイルの点検および交換する時は平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

❶ 点検

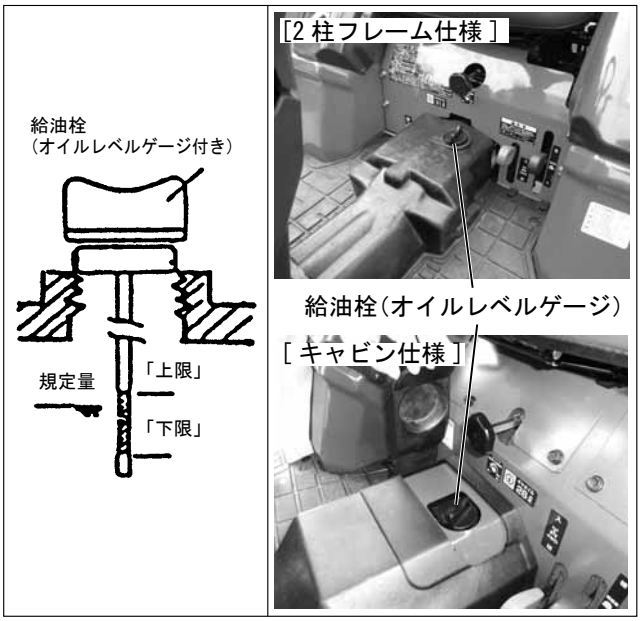
・ 給油栓を外し，オイルレベルゲージの刻み線**「上限」**から**「下限」**の間（規定量）まであれば適量です。

・エンジンを始動しているときは，オイルレベルが低下します。検油する場合はエンジンを停止して，５分以上たってから行います。

・エンジン始動前にオイルレベルを確認します。

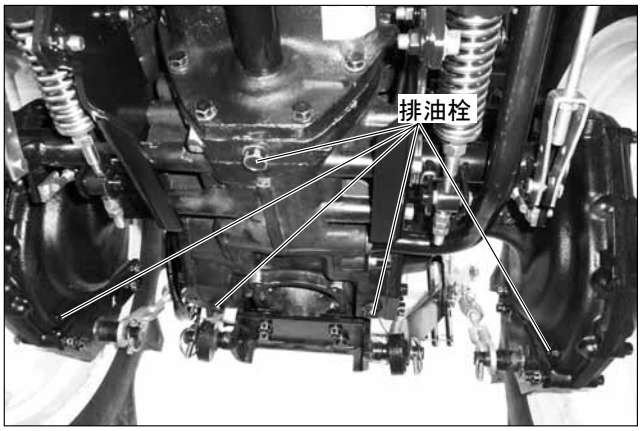
❷ 補給

・不足している場合はオイルレベルゲージの刻み線**「上限」**まで補給します。



❸ オイルの交換

(1) デファレンシャルハウジング後方下部 3 個所リアアクスル下部 2 個所の排油栓を外しオイルを抜きます。



(2) 排油栓を締め新しいギヤオイルをオイルレベルゲージの刻み線**「上限」**まで給油します。

取扱いのポイント

●オイルの量は，エンジン始動前に調べてください。

10. 油圧オイルフィルタの交換

油圧オイルフィルタは「カートリッジタイプ」ですので,「お買いあげ先」で交換します。

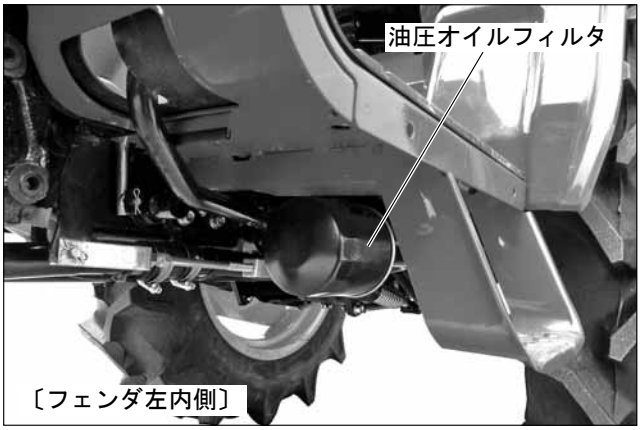
・初回……100 時間運転後に交換。

・第２回目より……300 時間運転ごとに交換。

❶ フェンダ左内側の油圧オイルフィルタの回りの土などを取除きます。

❷ 油圧オイルフィルタは手でゆるまない場合には専用工具（市販品）を使用して，外します。

❸ 油圧オイルフィルタを交換したときは，オイルフィルタの容量分オイルが多く入るので，５分間運転してエンジン停止し５分以上たってからオイルレベルゲージで確認し不足している場合は，オイルレベルゲージの刻み線「上限」まで補給します。



取扱いのポイント

●油圧オイルフィルタを取付けるときはパッキン面にオイルを塗り，油圧オイルフィルタを手で締め，パッキンがシール面に接触してから約 2/3 回転締付けてください。

11. フロントアクスルオイルの点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

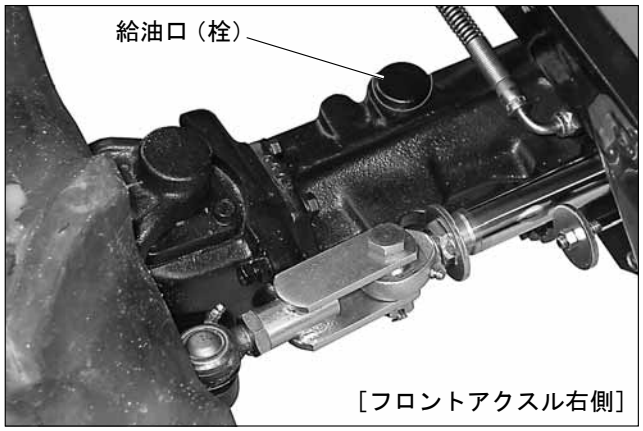
◆フロントアクスルオイルの点検および交換する時は平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

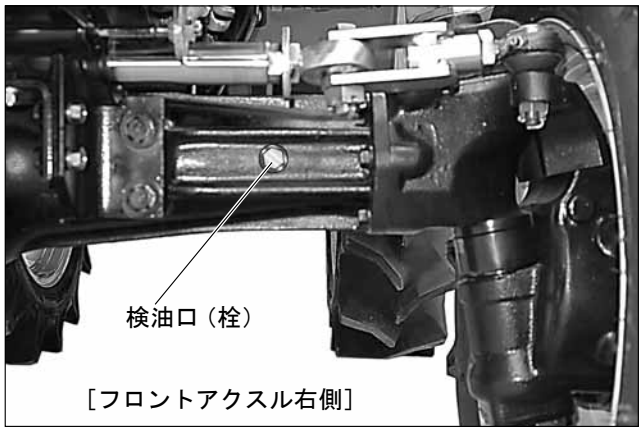
1.［ナロートレッド仕様を除く］仕様

❶ 点検・補給

(1) 検油栓を外して，オイルがあふれてきたら適量（規定量）です。

(2) 不足している場合は給油口から補給します。







❷ オイルの交換

フロントアクスルオイルの交換は，初回は 100 時間運転後に，第 2 回目からは 200 時間運転ごとに行います。

(1) 排油栓（3 個所）を外し，オイルを抜きます。オイルが暖かいうちに行うと容易に抜けます。

(2) 排油栓を締め，新しいギヤオイルを給油口より規定量給油します。

(3) 指定量を給油後，検油栓を外しオイルの流出を確認後，検油栓を締付けます。

・ギヤオイル……API・GL－4 級
SAE・80W

・オイル量……4.0L

取扱いのポイント

・給油栓を外しデフシャフトの中心から下面までの間にオイルがあるか確認してください。

・オイルの量は，エンジン始動前か冷えているときに調べてください。

2.［ナロートレッド仕様］

❶ 点検・補給

(1) 検油栓を外して，オイルがあふれてきたら適量（規定量）です。

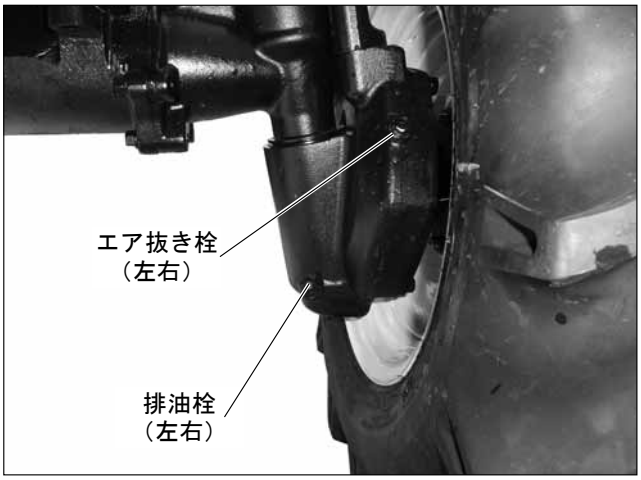
(2) 不足している場合は給油口から補給します。



［フロントアクスル右側］



［フロントアクスル左側］



❷ オイルの交換

フロントアクスルオイルの交換は，初回は 100 時間運転後に，第 2 回目からは 200 時間運転ごとに行います。

(1) 排油栓（2 個所）を外し，オイルを抜きます。オイルが暖かいうちに行うと容易に抜けます。

(2) 排油栓を締め，新しいギヤオイルを給油口より規定量給油します。

(3) 指定量を給油後，左右のエア抜き栓を外し，オイルの流出を確認後，エア抜き栓を締付けます。（エア抜き栓を外した後，20 秒間オイルが流出します。）次に検油栓を外し，オイルの流出を確認後，検油栓を締付けます。

・ギヤオイル……API・GL－4 級
SAE・80W

・オイル量……5.0L

取扱いのポイント

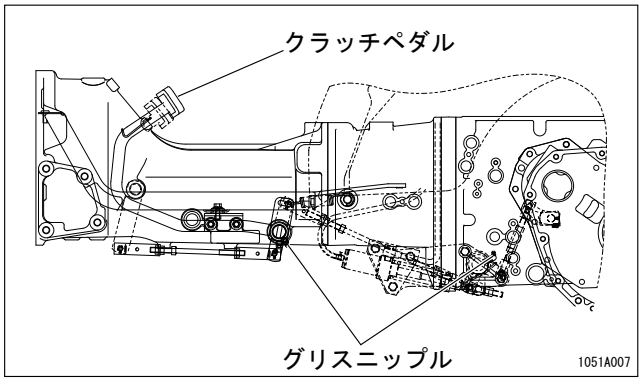
・給油栓を外しデフシャフトの中心から下面までの間にオイルがあるか確認してください。

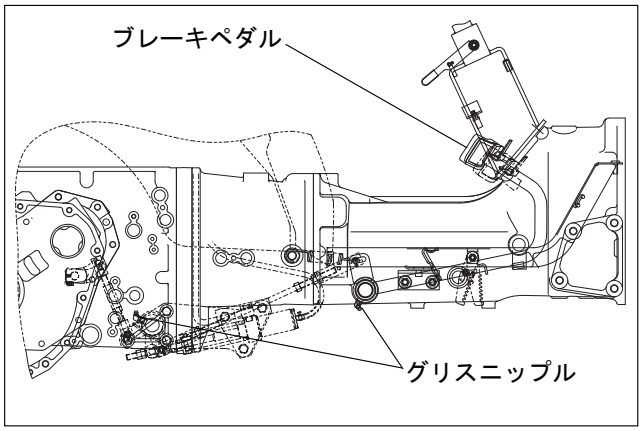
・オイルの量は，エンジン始動前か冷えているときに調べてください。

12. 各部の給脂

❶ ブレーキリンク，クラッチリンク

・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。





❷ ロッドエンド

・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。（４個所）





❸ リヤウインドウヒンジ

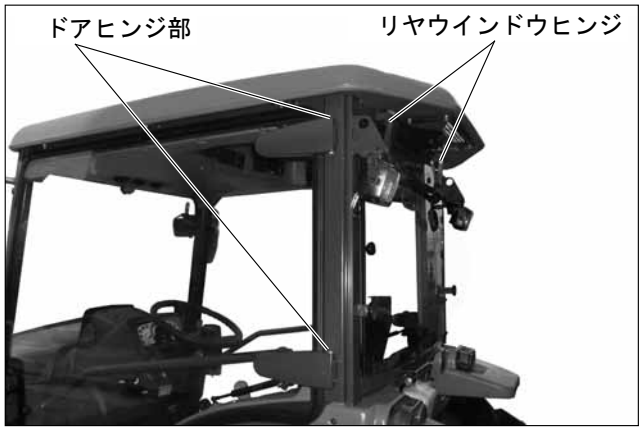
・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。（２個所）

・リヤウインドウの開閉が重い時，または開閉時に音がする場合は注油します。

❹ ドアヒンジ

・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。（片側２個所）

・ドアの開閉が重い時，または開閉時に音がする場合は注油します。

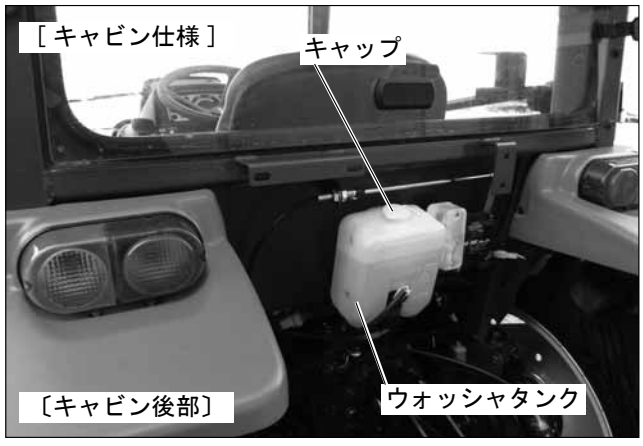


13. ウォッシャ液の給水

❶ ウォッシャタンク

・タンクキャップを外し，ウォッシャ液を給水します。

・容量……1.5 L



3. 各部の掃除のしかた

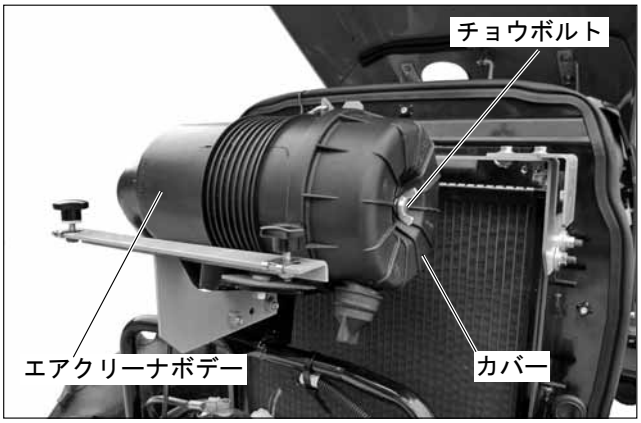
1．エアクリーナの掃除

エアクリーナエレメントを汚れたまま使用すると，エンジン内部が摩耗します。また出力が低下します。

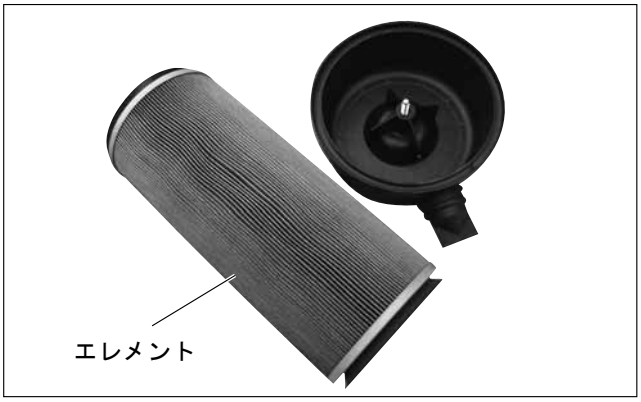
❶ ボンネットを開き，フロントグリルを外します。



❷ チョウボルトを外し，エアクリーナのカバーを取外します。



❸ エレメントを取出しエレメント・エアクリーナボデーの内部を掃除します。



取扱いのポイント

- コンプレッサで吹きつける場合は，空気圧「686 kPa｛7kgf／cm²｝以下」で行なってください。
- エレメントは１年間使用後に交換が必要です。

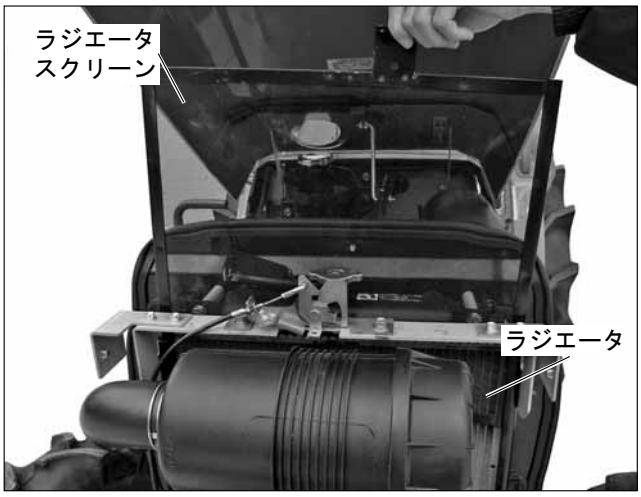
2. ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除

⚠警告 ヤケド防止のために

◆ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除をする時は，エンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。

❶ ボンネットを開きます。

❷ ラジエータスクリーンを持ち上げます。



❸ ラジエータスクリーンの**「ゴミ・ワラ」**等を取除きます。

❹ ラジエータフィンの目詰まりを点検し，詰まっている場合は，まずラジエータ前面の手で取れる大きな**「ゴミ・ワラ」**等を取除き，エアをエンジンファン側より吹きつけ**「ホコリ・ゴミ」**等を取除きます。

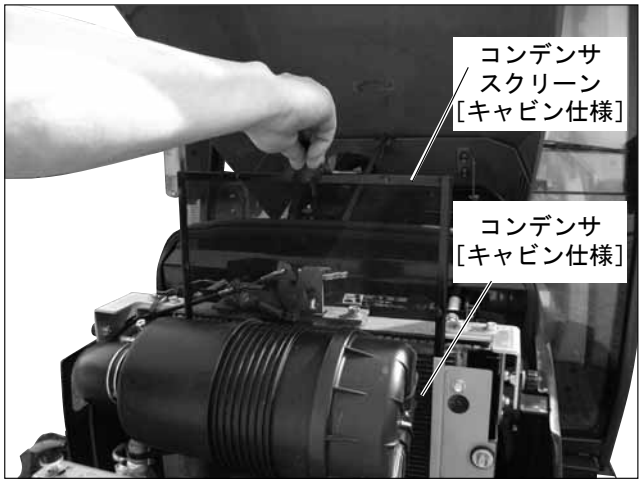
3. コンデンサフィン，コンデンサスクリーンの掃除［キャビン仕様］

⚠警告 ヤケド防止のために

◆コンデンサフィン・コンデンサスクリーンの掃除をする時は，エンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。

❶ ボンネットを開きます。

❷ コンデンサスクリーンを上方に抜取ります。



❸ コンデンサスクリーンの**「ゴミ・ワラ」**等を取除きます。

❹ コンデンサフィンの目詰まりを点検し，詰まっている場合は，まずコンデンサフィン前面の手で取れる大きな**「ゴミ・ワラ」**等を取除き，エアをエンジンファン側より吹きつけ**「ホコリ・ゴミ」**等を取除きます。

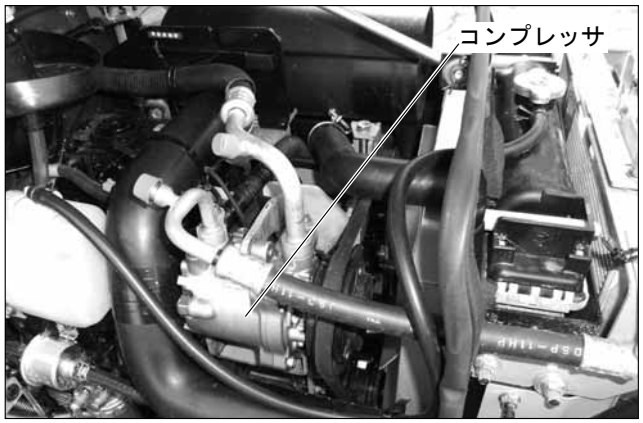
取扱いのポイント

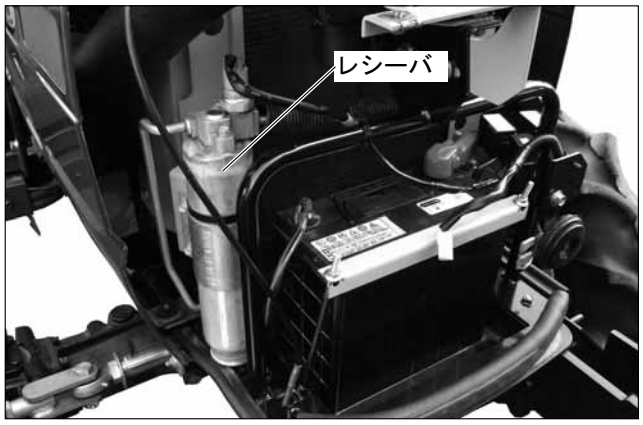
● **［キャビン仕様］はラジエータの前にコンデンサがありますので，同時に掃除してください。**

4. エアコンの掃除［キャビン仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

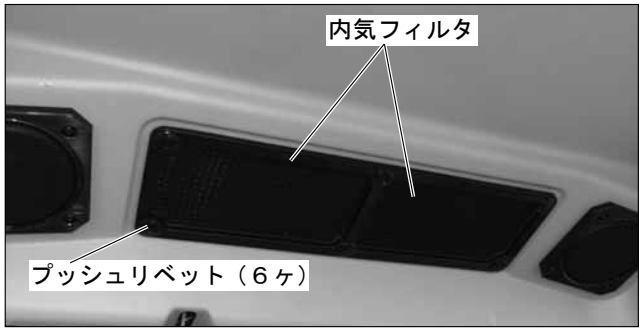
◆コンプレッサ及びレシーバへのスチーム洗浄は，冷媒ガスの圧力が上昇して破裂を引起こし，傷害事故の原因となりますのでスチーム洗浄はさけてください。





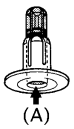
❶ 内気フィルタの掃除

フィルタが汚れて目詰まりすると，吹出し風量が少なくなりますので，水洗いまたは，圧縮エアでフィルタの網目を損傷させない様に汚れを落とします。

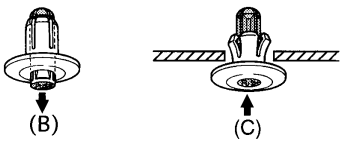


(1) 内気フィルタを取外すには，プッシュリベットの（A）部を少し押してから，抜き取ります。（6個）

プッシュリベットを抜き取ると内気フィルタは外れます。



(2) 取り付け方は，内気フィルタを元の位置に押し付け，プッシュリベットで固定します。固定の仕方は，プッシュリベットの中央（B）部を少し押出し，室内エアフィルタにプッシュリベットを差込んでから中央（C）部を押し固定します。



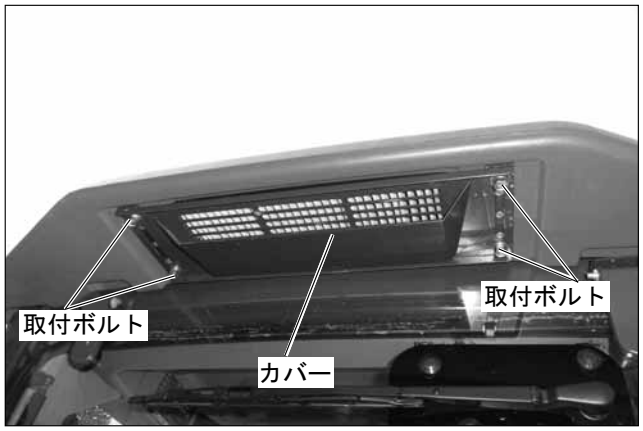
取扱いのポイント

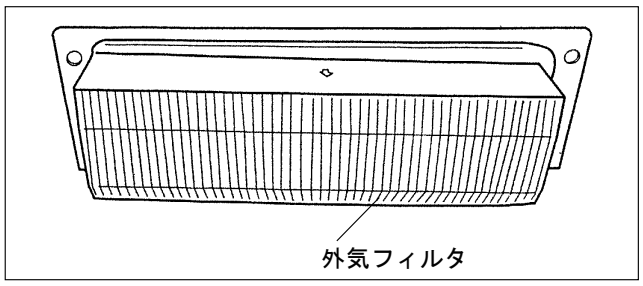
- 汚れがいちじるしい時は，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて，動かしながら洗浄し，清水でよくすすぎます。
  その後，完全に自然乾燥させてから取付けてください。
- 洗浄にガソリン，シンナー等を使用しないでください。

❷ **外気フィルタの掃除**

(1) キャビン左側後方の外気取入口の取付ボルト（4個）を外して，カバーを外します。

(2) 外気フィルタも同時に外れますので圧縮エアで汚れを落とします。





取扱いのポイント

- 汚れがいちじるしい時は，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて，動かしながら洗浄し，清水でよくすすぎます。
  その後，完全に自然乾燥させてから取付けてください。
- 洗浄にガソリン，シンナー等を使用しないでください。
- 外気フィルタをたたかないでください。
  外気フィルタが変形するとエアコンユニットにほこりが侵入し，エアコンを損傷する場合があります。

4. 各部の点検と調整のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

・各部は出荷の時に正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度を超えた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

1. ファンベルトの点検・調整

❶ 点検

ファンベルトの長い部分の中央部を指で押し，タワミ量が「10 ～ 13mm」となっていますか。

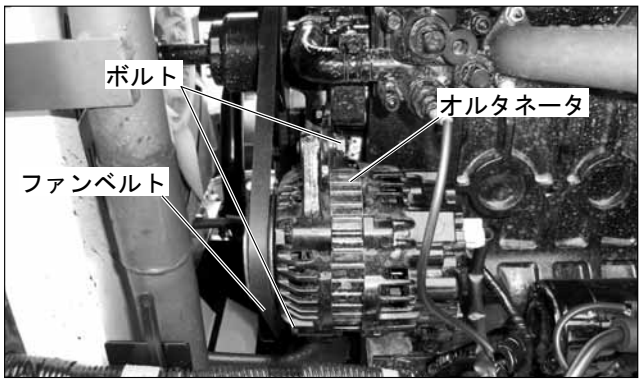
❷ 調整

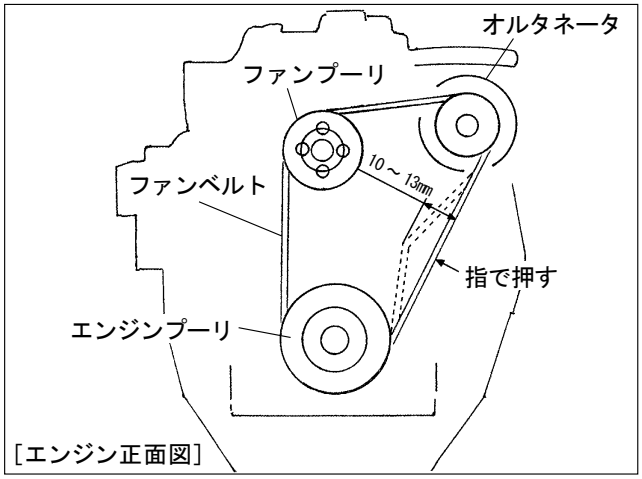
(1) オルタネータ取付ボルトをゆるめます。

1）オルタネータを外側に倒しベルトを張ります。

2）オルタネータを内側に倒すとベルトはゆるみます。

(2) 調整後は取付ボルトを確実に締付けます。





●損傷がある場合，張り調整代がなくなった場合は交換します。

2. クラッチペダルの点検・調整

⚠警告　傷害事故防止のために

◆クラッチペダルの遊び調整後，クラッチペダルを踏込んで，クラッチが確実に切れることを確認してください。

❶ 点検

クラッチペダルの遊び量が「20 ～ 30mm」となっていますか。

❷ 調整

アジャストナットを回して調整します。

(1) ロックナットをゆるめます。

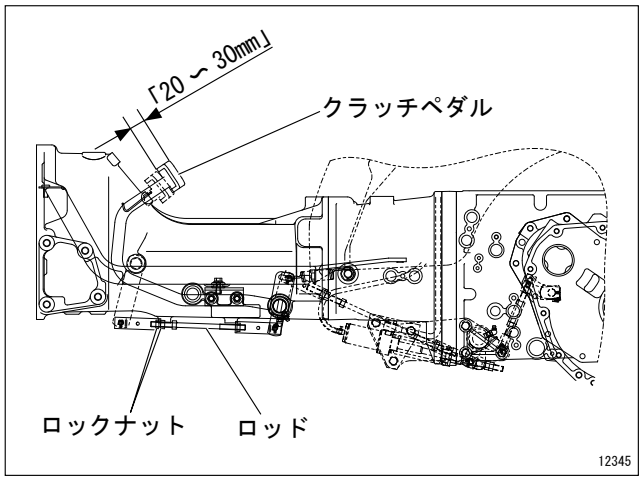
(2) ロッドを回して調整します。

ねじ込む…遊びが少なくなります。

ねじ戻す…遊びが多くなります。

(3) ロックナットを締付けます。

締付トルク…21 ～ 29 N・m（2.1 ～ 3.0kgf・m）



3. トーインの点検・調整

⚠注意

◆トーインの調整が悪いと走行が不安定になることがあります。

・トーインは車の走行安定性を左右する重要な役目を持っています。走行中にハンドルが取られやすくなった時はトーインが狂っている恐れがありますから点検調整します。
・トーインとは前輪を上から見て前部が後部より狭くなっていることを言います。

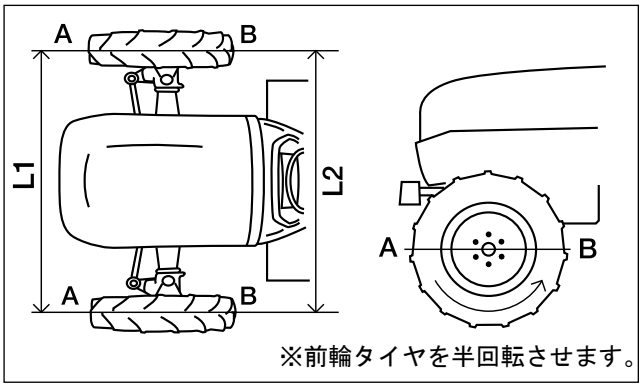
❶ 点検

(1) トーインがタイヤ中心で「０～10㎜」になっていますか。

トーイン＝L2 － L1 ＝ 0 ～ 10㎜

(2) トーインの点検は次の方法で行います。

1）トラクタを水平な場所に置き，前輪を真っ直ぐにします。
2）左右タイヤの中心線上と同一高さのタイヤの真ん中にチョークで印をつけます。（A点）
3)左右タイヤのA点間の幅(Ｌ１)を測ります。
4）トラクタを前進させ，前輪タイヤを半回転させます。
5）A点が，半回転してB点となった時の左右タイヤのB点間の幅（Ｌ２）を測ります。
6）Ｌ２からＬ１を差し引いたものがトーインです。トーインが規定値であるか確認します。規定値でない場合は次の方法で調整してください。

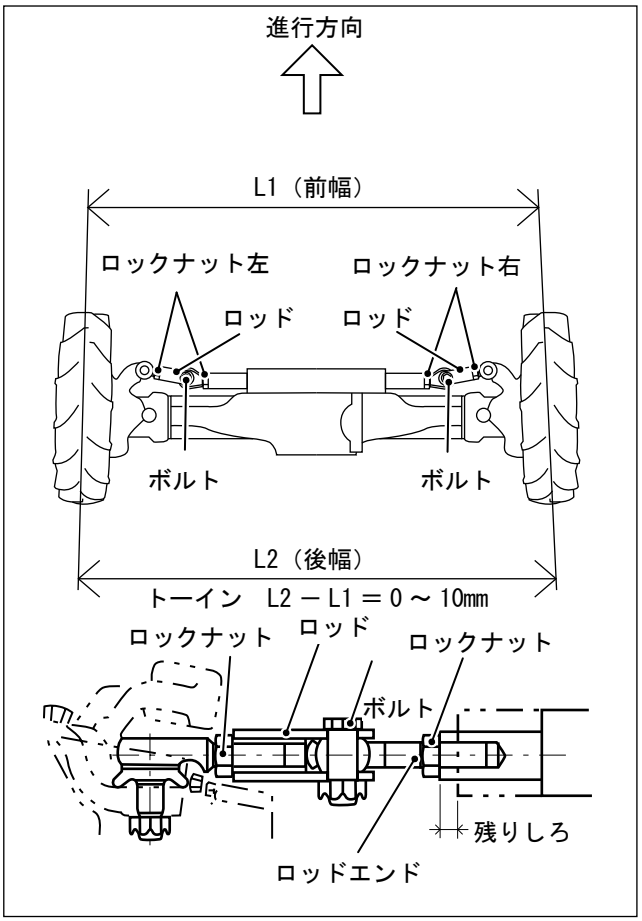


※前輪タイヤを半回転させます。

❷ 調整［ナロートレッド仕様を除く］

シリンダのストロークのエンドでのロッドの残りしろが左右同じになるように，次の要領でロッドを調整します。

(1) 前輪の遊びがないことを確かめてから調整を行います。
(2) 調整する側のロッドのロックナット(２個所)をゆるめます。
(3) ロッドを回してロッドエンドをネジこめばトーインは大きくなります。
調整は１回転単位とし，ボルトの頭は必ず上方になるよう調整します。
(4) 調整後はロックナットを確実に締付けて，フロントタイヤの前端を手で左右に振ってみて異常な遊びのないことを確かめます。
締付トルク　147 ～ 167N・m（15 ～ 17kgf・m）



❸ 調整［ナロートレッド仕様］

シリンダのストロークのエンドでのロッドの残りしろが左右同じになるように，次の要領でロッドを調整します。

(1) 前輪の遊びがないことを確かめてから調整を行います。

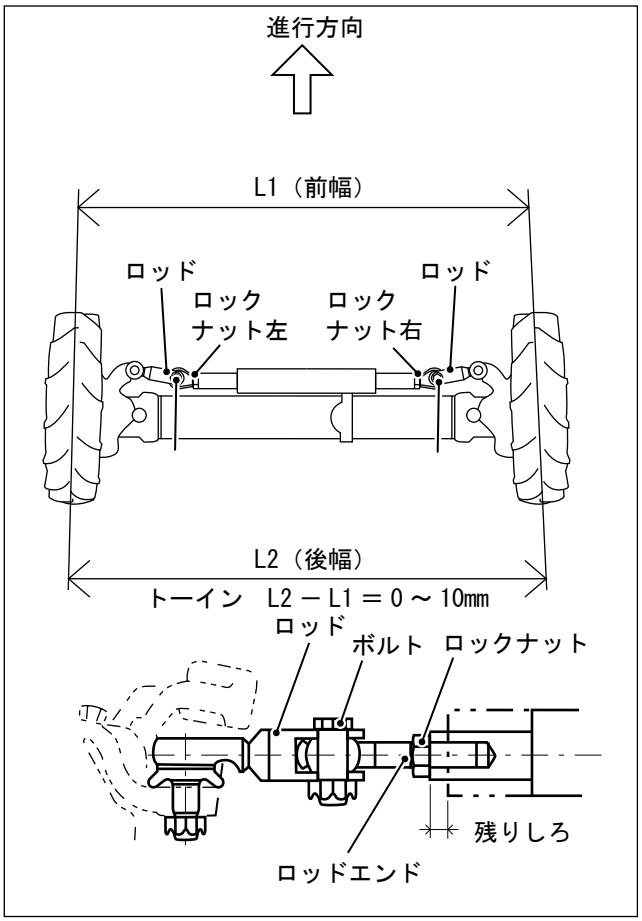
(2) 調整する側のロッドのロックナット（1 個所）をゆるめます。

(3) ロッドを回してロッドエンドをネジこめばトーインは大きくなります。

調整は１回転単位とし，ボルトの頭は必ず上方になるよう調整します。

(4) 調整後はロックナットを確実に締付けて，フロントタイヤの前端を手で左右に振ってみて異常な遊びのないことを確かめます。

締付トルク　147 ～ 167N・m（15 ～ 17kgf・m）



4. ブレーキペダルの点検・調整

⚠警告　傷害事故防止のために

◆調整時左右のブレーキペダルの踏込み量を合わせてください。
ブレーキの効きが悪かったり，片効きなどがあると転落，転倒事故の原因となります。

・ブレーキペダルの遊び調整

❶ 点検

左右のブレーキペダルの遊び量が各々「40 ～ 50mm」になっていますか。

❷ 調整

(1) ロックナットをゆるめます。

(2) ジョイントを回して調整します。

ねじ込む…遊びが少なくなります。

ねじ戻す…遊びが多くなります。

(3) ロックナットを締付けます。

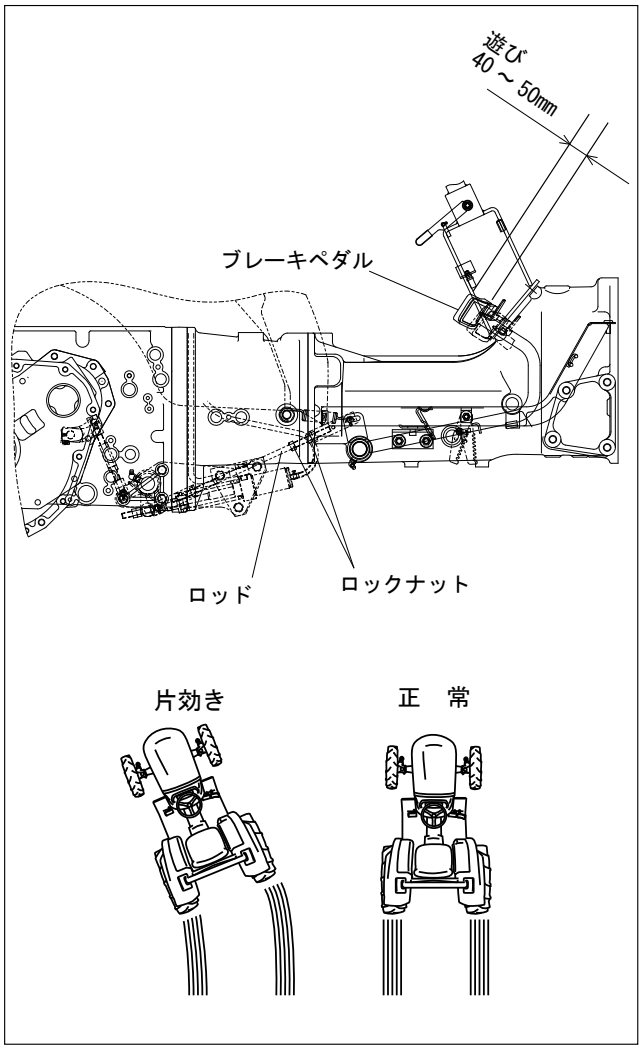
締付トルク……21 ～ 29N・m（2.1 ～ 3.0kgf・m）

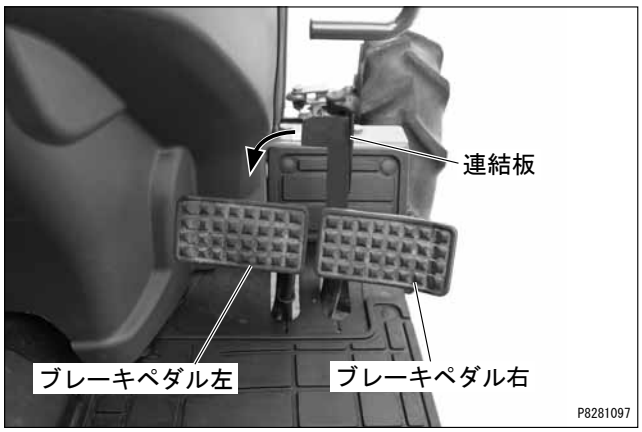
❸ 確認

左右ともに正規の寸法が出たら次の要領で確認します。

(1) 効　き…片輪制動その場旋回をしてみてブレーキの効きを確かめます。（左右）

(2) 片効き…左右ブレーキペダルを連結板で連結し，普通走行で走り，両方のブレーキペダルを一緒に踏んで，タイヤスリップ跡により片効きの有為を確かめます。トラクタが真っ直ぐ止まれば正常ですが，曲がって止まる場合は再調整します。





5. タイヤの点検

⚠警告 死傷事故防止のために

◆タイヤの空気は入れすぎないでください。空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と，タイヤが破裂し，死傷事故につながることがあります。

◆タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，タイヤが破裂するおそれがありますので，使用しないでください。

◆タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。

❶ 点検

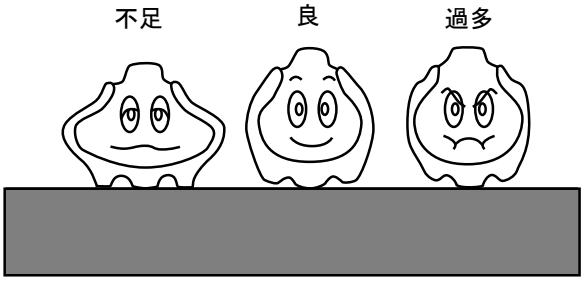
(1) タイヤにキレツ等損傷がないか点検します。パンク等損傷のひどい場合は，タイヤを交換します。

(2) タイヤの空気圧を作業前に点検します。

空気圧が［前輪 150kPa（1.5kgf ／ cm²）後輪 100kPa（1.0kgf ／ cm²）］になるようにします。（［　］内は標準空気圧です。）

❷ 調整

標準空気圧になるよう調整します。



取扱いのポイント

● フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を 250 kPa（2.5kgf ／ cm²）にしてください。

6. ハンドルの点検

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハンドルに著しいガタや遊びがないか点検してください。著しいガタや遊びがあると思わぬ事故になることがあります。

❶ 点検

ハンドルの遊び量が適正でないと，ハンドルが重くなったり直進性が悪くなります。遊び量を点検します。

エンジンを始動させ，ハンドルを軽く左右に動かして遊び量がハンドルの外側で 20 ～ 30mm であれば適正です。

❷ 遊び量が適正値でない場合

遊び量が適正でない場合はただちに**「お買いあげ先」**で点検を受けます。



7. ホース類の点検

⚠危険 火災防止のために

燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれていないか確認し，もれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出します。
パワーステアリングホースの継ぎ部のゆるみや，油もれがないか点検してください。油がもれるとパワーステアリングがきかなくなり事故を引起こす原因になります。

❶ 点検

燃料ホース，ラジエータホース，パワーステアリングホースなど老化や傷による燃料もれ水もれ油もれがないか，また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

❷ 処置

燃料もれ，水もれ，油もれ，締付バンドのゆるみがある場合はただちに**「お買いあげ先」**で点検を受けます。

取扱いのポイント

- **燃料ホース，パワーステアリングホースは定期交換部品ですので２年ごとに交換してください。**
- **燃料ホースを交換した時は，エア抜きをしてください。****（60 ～ 61 ページ参照）**

❸ パワーステアリングホースを交換したら

パワーステアリングホースを交換した時は，左右一杯にハンドルを切って，油圧回路中のエア抜きをしてください。

8. ウォータホース エアコン配管点検

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆ウォータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ウォータホースが外れると，熱湯が吹き出します。

❶ 点検

ウォータホース，エアコン配管に老化や傷によるガスもれ，水もれ油もれがないか，また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

❷ 処置

ガスもれ，水もれ，油もれ，締付バンドのゆるみがある場合はただちに**「お買いあげ先」**で点検を受けます。

9. 電気配線の点検と掃除

⚠警告 火災防止のために

◆電気配線の点検時には，キーを《切》にし，バッテリコードのアース側㊀端子を外してください。

◆ワイヤハーネスおよびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電または焼損などで火災や損傷の原因となりますので交換してください。

◆エンジン，バッテリ，電気配線まわりのワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

(1) 配線の端子部の**「ゆるみ」**や**「接続不良」**または配線が**「損傷」**していると電気部品の性能を損なうだけでなく，**「ショート（短絡）」**等をすることがあります。

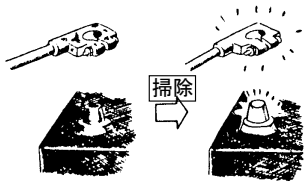
(2) 傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部にたまっている**「ワラやゴミ」**などは**「火災」**の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が**「腐食」**することがあります。バッテリ端子が腐食すると，**「接触抵抗」**が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，**「定期的」**に汚れや腐食をサンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。

「端子のチェック」



取扱いのポイント

●エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。
エンジン始動不良の原因となります。

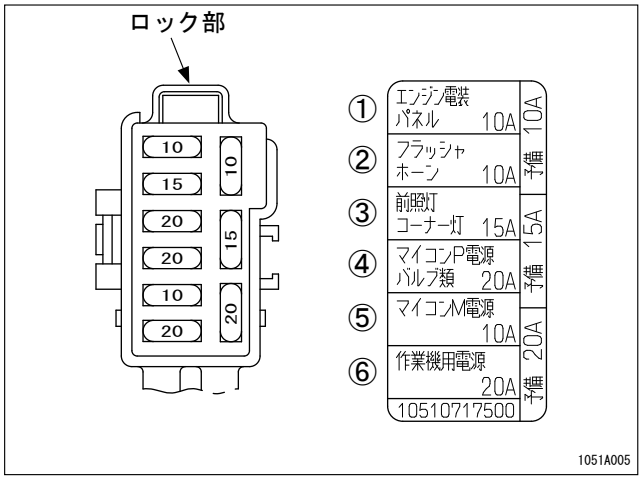
10. ヒューズの交換

配線の回路に異常を生じた時，事故を未然に防止するためにヒューズを設けています。

運転中，電気系統に異常を確認した時は，ヒューズが切れていないかチェックします。

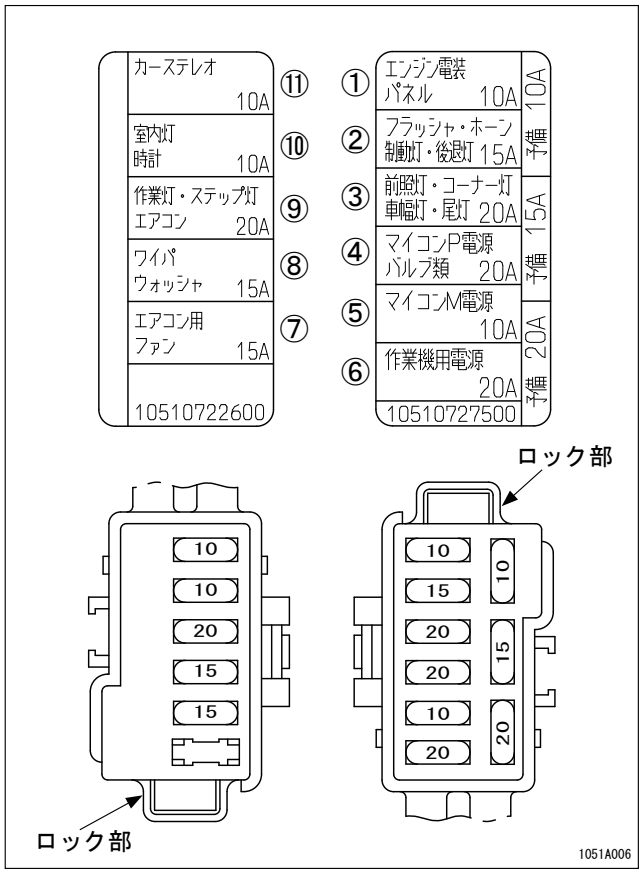
❶ ヒューズボックス〔2 柱フレーム仕様〕





❷ ヒューズボックス〔キャビン仕様〕





❸ ヒューズの交換

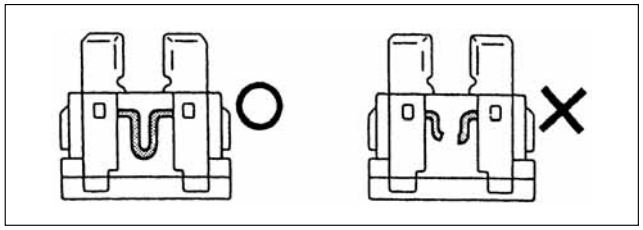
⚠警告　火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

(1) キーを《切》にします。

(2) ヒューズを引抜きます。

(3) ヒューズが図の右側（× 印）のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。



取扱いのポイント

- ヒューズボックスを開ける時は，ボックス上側のロック部を手前に引いてください。
- 交換してもヒューズが切れる時は「お買いあげ先」で点検を受けてください。

❹ ヒューズ（大電流用）

・大電流用ヒューズが切れたときは，**「お買いあげ先」**で点検を受けます。



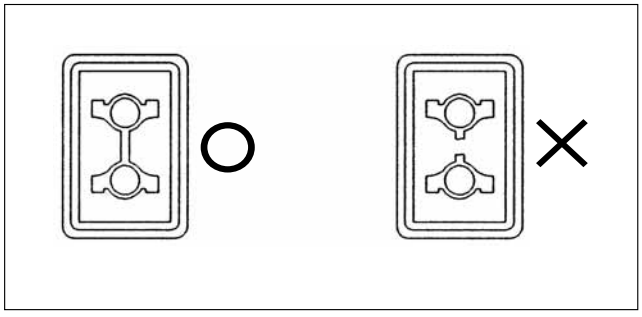
❺ ヒューズ（大電流用）の交換

⚠警告　火災防止のために

◆取付けてあるヒューズ（大電流用）と異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズ（大電流用）のかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

(1) バッテリ(−)端子を外します。

(2) ヒューズ（大電流用）が下図右側（× 印）のようであればヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。

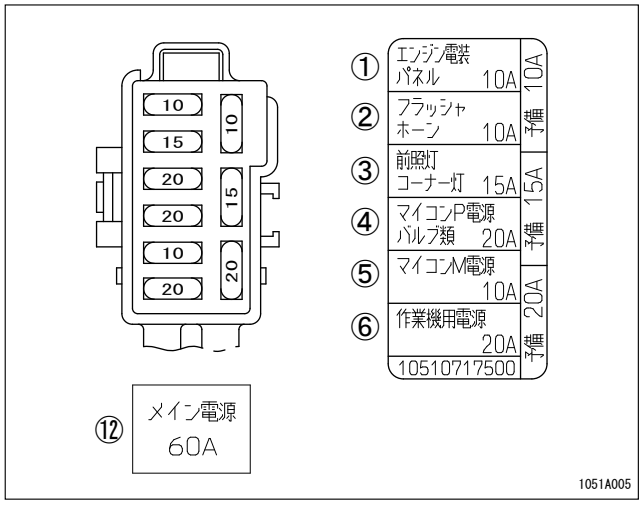


❻ ヒューズの機能

ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不能となります。

(1) 2 柱フレーム仕様　　× : 作動不能

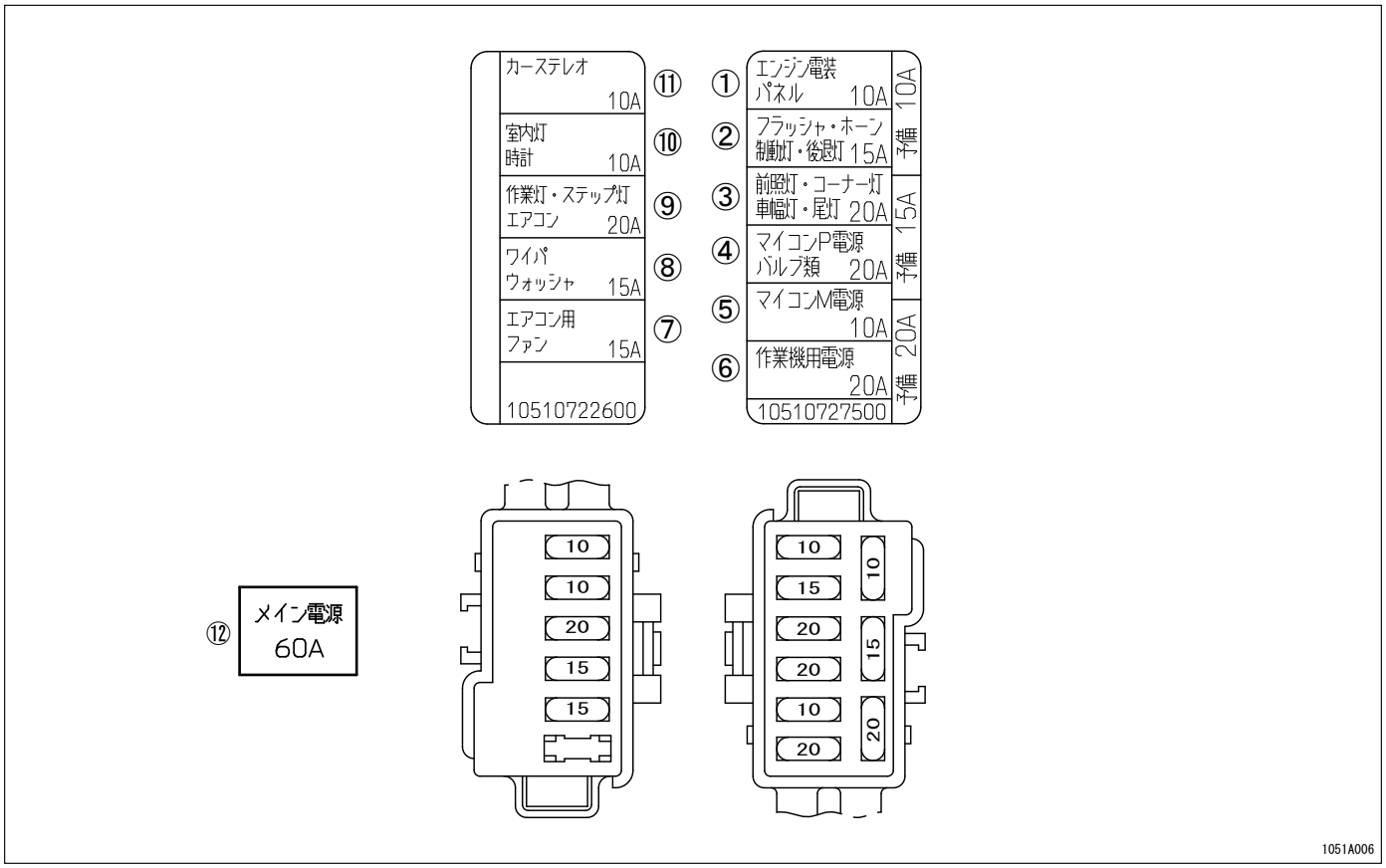
		エンジン始動	前照灯	コーナーライト	方向指示器	ホーン	計器類のモニタランプ	マイコン機能	倍速旋回	オートブレーキ	作業用電源
ヒューズボックス	①（10A）	×					×				
	②（10A）				×	×					
	③（15A）		×	×							
	④（20A）							×	×	×	
	⑤（10A）							×	×	×	
	⑥（20A）										×
流大用電	⑫（60A）	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×



(2) キャビン仕様

×：作動不能

		エンジン始動	前照灯	コーナーライト	方向指示器	ブレーキ灯	バックライト	尾灯	車幅灯	ホーン	計器類のモニタランプ	マイコン機能	倍速旋回	オートブレーキ	作業機用電源	室内灯	カーステレオ	カーステレオメモリ・時計	エアコンのファン	エアコン	前側作業灯	後側作業灯	ワイパ	ウォッシャ
ヒューズボックス	① (10A)	×									×													
	② (15A)				×	×	×			×														
	③ (20A)		×	×				×	×															
	④ (20A)											×	×	×										
	⑤ (10A)											×	×	×										
	⑥ (20A)														×									
	⑦ (15A)																		×	×	×	×		
	⑧ (15A)																						×	×
	⑨ (20A)																			×	×	×		
	⑩ (10A)															×	×	×						
	⑪ (10A)																×							
大電流用	⑫ (60A)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×



1051A006

11. バッテリの点検と充電

この機械は出荷時には補水不要バッテリが装備されています。

バッテリの残存量の確認は 80 ページの❸を参照してください。

指定バッテリ…55B24R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆ブースタケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。

◆ブースタケーブルは，100A以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。

◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。

◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。

◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。

◆⊖端子を取付けたままで充電すると，発電器や電気配線を焼損することがあります。

◆バッテリを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは，水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

補水不要なバッテリ

◆密封タイプなので，急速充電や開封は厳禁です。

補水が必要なバッテリ

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆「水素ガス」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をしてください。
失明や火傷をすることがあります。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですので，こぼさないようにしてください。

◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリの液量が，側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になった状態で使用したり充電すると，バッテリの破裂（爆発）の原因となることがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがありますので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

⚠警告 火傷や火災防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆バッテリを取外すときはバッテリ⊖コードを先にバッテリの⊖端子（アース側）から外し，次にバッテリ⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ⊕コードを先にバッテリ⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。

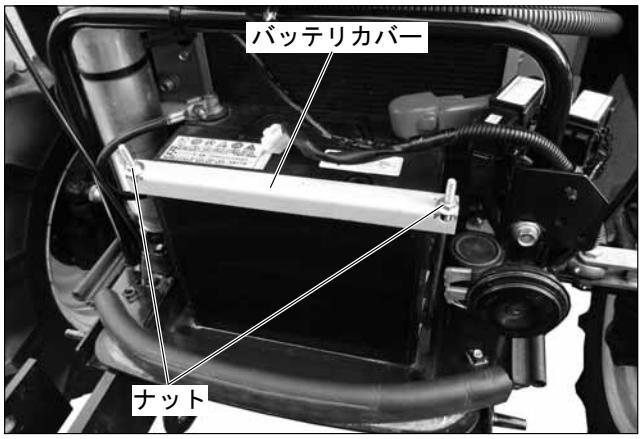
❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと，バッテリが上下左右に動き，振動で電解槽やフタなどが摩耗したり，亀裂を起こすことがあります。

取付金具で，しっかり固定します。

取付金具などが腐蝕していれば，修理または取替えます。

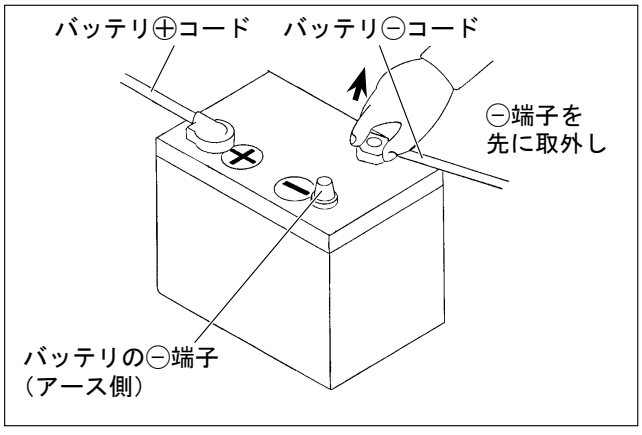
バッテリは車体前方，フロントグリルを取外して点検します。



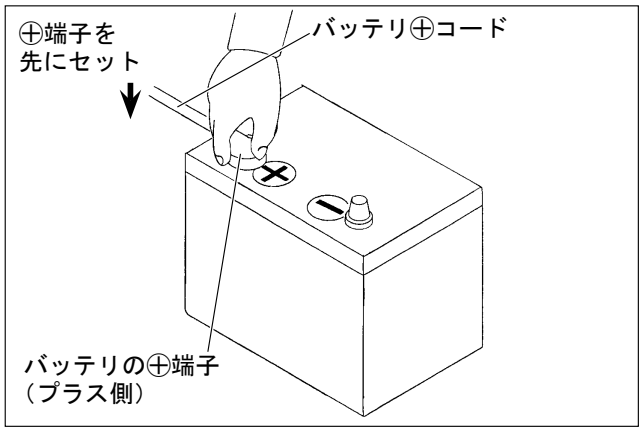
❷ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを**「着脱」**したり充電器で**「充電」**するときは,エンジンを停止し,スタータスイッチから**「キー」**を抜取ります。

(2) バッテリコードを端子から取外すときは**「㊀端子（アース側)」**を先に外します。



(3) バッテリコードを端子にセットするときは**「⊕端子（プラス側)」**を先に取付けます。



(4) バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

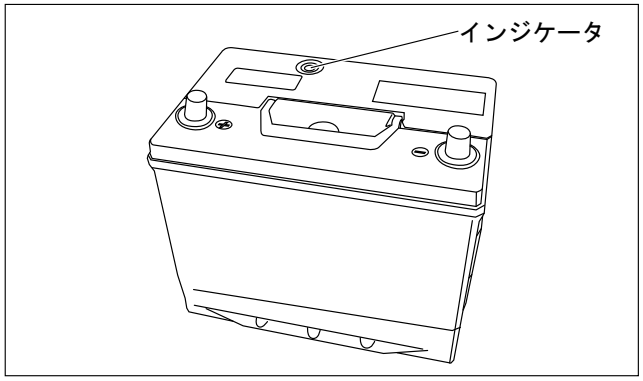
❸ バッテリの状態点検と，異常時の処理

(1) バッテリは上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

取扱いのポイント

●インジケータは真上から確認してください。



(2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

取扱いのポイント

●液もれが発生すると車体が腐蝕する原因となります。

❹ 補充電・交換

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…（－）端子側(アース側)から外す。
・取付け…（＋）端子側を最初に接続する。

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明や火傷をするおそれがあります。

◆バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により，失明や火傷の原因となることがあります。

⚠警告

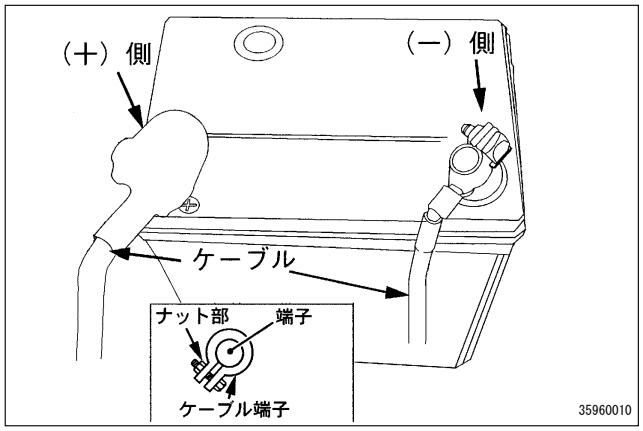
◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（－）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

取扱いのポイント

●バッテリが完全に放電し，スタータスイッチを《入》にしても充電・オイルランプが点灯しない状態になった場合は，バッテリを交換してください。他のバッテリでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し，電装品を破損することがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また，補充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行ってください。
・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
・アクセルの加減で,ヘッドランプの明るさが変わる。
・ホーンの音が，いつもより低い。

1．バッテリを機体から取外します。
(1) ナットをゆるめてフックを外します。
(2) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（－）側から取外してください。



2．補充電を行うときは，平坦な風通しの良い場所を選んで行います。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で（急速充電は厳禁です）行ってください。
3．補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

●バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：55B24R
●バッテリはエンジン始動用ですから，ほかの用途には使用しないでください。
●バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

❺ 点検・補水

⚠危険

◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。
◆バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。
◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。
◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

１．残存容量の確認（補水が必要なバッテリ）

(1) バッテリ液の「比重」を測定する方法と，「バッテリテスタ」で測定する方法があります。

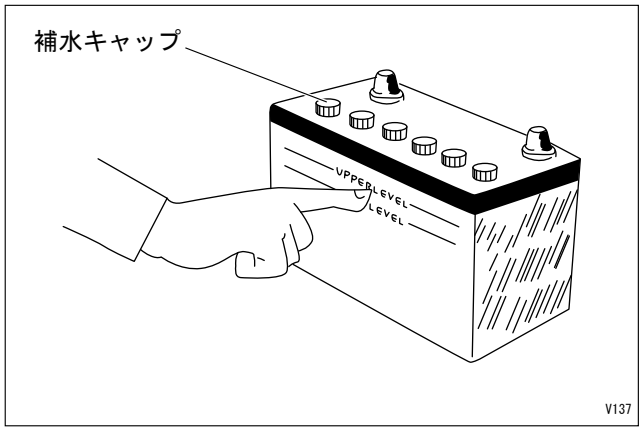
(2) 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

(3) バッテリ液の比重が「1.220（20℃）」以下であれば補充電をします。

比重（20℃）	放電電気量（%）	残存容量（%）
1.280	0	100
1.240	25	75
1.200	50	50
1.160	75	25
1.120	100	0

(4) バッテリテスタで測定するときは，バッテリテスタの取扱説明書に従って測定と補充電を行ってください。

(5) バッテリ液の量を点検し，「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水します。



取扱いのポイント

●バッテリ液が不足している極板が空気中に露出すると，バッテリ寿命は著しく短くなります。
●バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
●バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

❻ 補充電

⚠危険 傷害事故防止のために

◆補充電中は補水キャップを全て取外しますので火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1．補充電を行うときは，平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行います。

また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行ってください。

取扱いのポイント

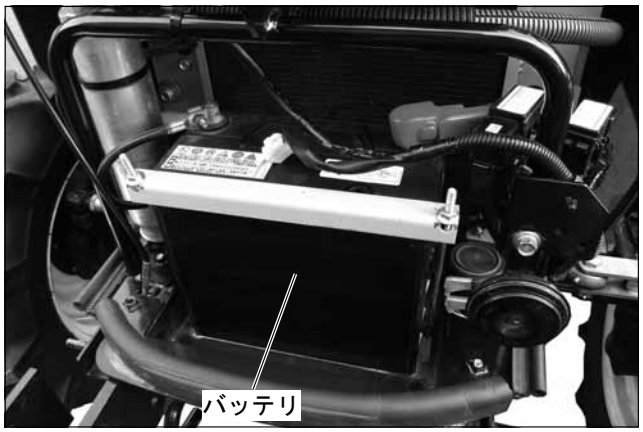
●急速充電を行ったときは，作業後必ず補充電を行ってください。

2．補充電が終ったら補水キャップを全て取付けてください。

❼ ブースタケーブルによるエンジン始動

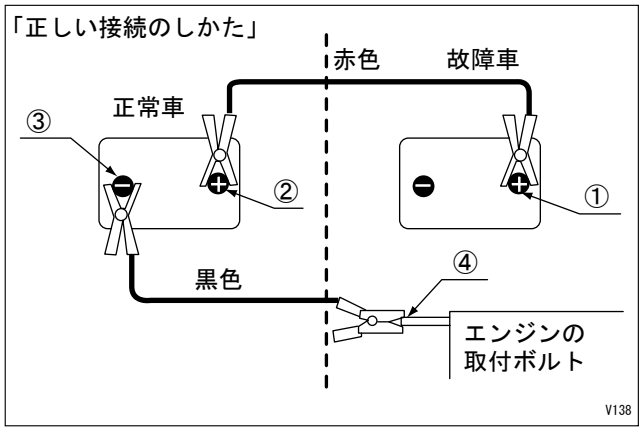
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12 V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動する場合，ブースタケーブルを使用します。

このときは，次の手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

(1) 正常車のエンジンを停止して，①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

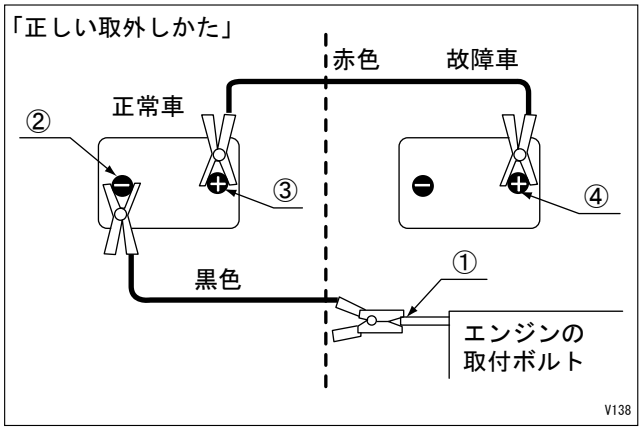


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のエンジンの取付ボルトに接続します。

(2) 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときは，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



❽ バッテリ単体での充電

共通(補水不要なバッテリ,補水が必要なバッテリ)

(1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ります。

(1) 機体からバッテリを取外します。

(2) **「水素ガス」**が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をします。

(3) **「火気」**を近づけたり**「スパーク（短絡）」**による電気火花が発生しないようにします。

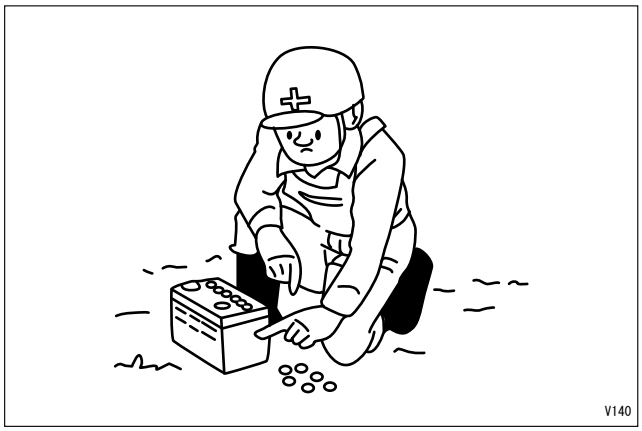
(4) 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを**「切」**にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。

補水不要なバッテリ

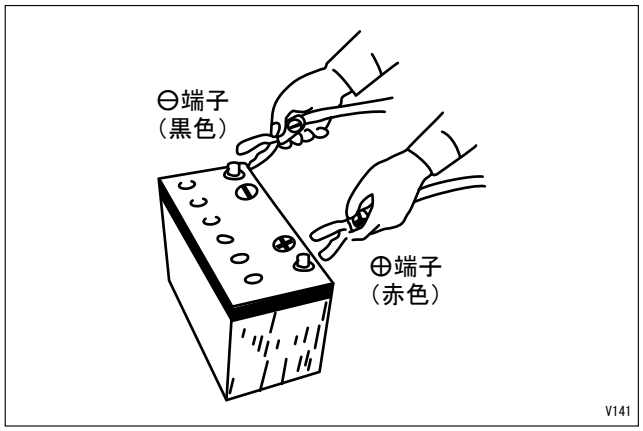
(1) 急速充電厳禁。

補水が必要なバッテリ

(1) 充電前に**「補水キャップ」**をすべて取外します。



(2) 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が**「45℃」**を超えないようにします。



取扱いのポイント

- 各端子は，「ゆるみ」がないように締付けてください。
- 取付けのとき，バッテリ端子部は布で油などを拭き取っておきます。取付け後バッテリ端子部には，腐蝕防止のためグリースを塗布してください。
- バッテリ⊕端子のゴムブーツを，取付けておきます。
- 厳寒時は，機械を格納するときに，バッテリを取外して暖かい所に保管してください。
- 亀裂や変形のあるバッテリは，新品と取替えてください。汚れていれば，清水で洗浄してください。洗浄後は，水分を拭き取ってください。

12. コンプレッサベルトの張り調整[キャビン装備機]

❶ **点検……**

(1) コンプレッサベルトのタワミは，下図のように中央部を押して{押す力約 98N (10kgf)} 18 ～ 20㎜ の範囲であれば良好です。

❷ **調整……**

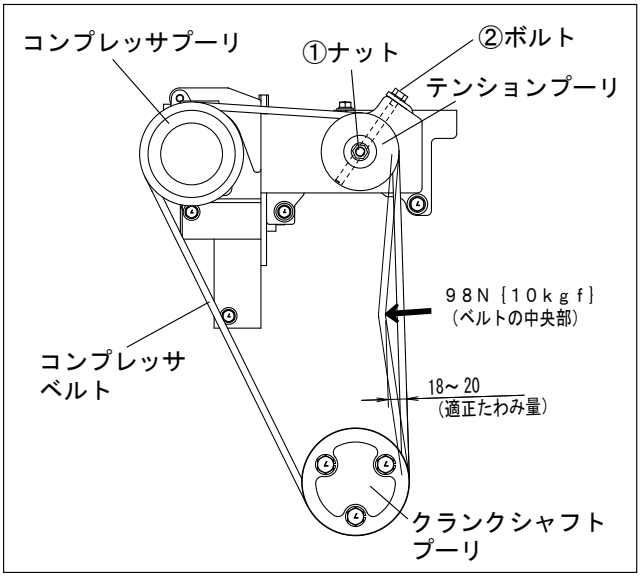
(1) アワメータが 100 時間経過後,コンプレッサベルトの張り調整を行います。

1)テンションプーリの①ナットをゆるめます。

2）テンションプーリの②ボルトを右に回して調整します。

3)テンションプーリの①ナットを締付けます。

締付トルク　44 ～ 54N･m(4.5 ～ 5.5kgf･m)



4）コンプレッサおよびレシーバへのスチーム洗浄は，冷媒ガスの圧力が上昇して危険ですので避けてください。

取扱いのポイント

- **ベルトに損傷を発見した場合，張り調整してもベルトのタワミが 18 ～ 20㎜ にならない場合はベルトを交換してください。**

13. 冷媒（ガス）[キャビン装備機]

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。

下記要領で点検し,冷媒が不足しているときは,「お買い上げ先」で点検及び補充をしてもらいます。

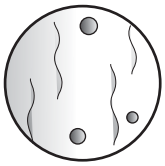
❶点検

(1) エアコンを以下の条件で運転します。

- **エンジン回転数　　：約 1500rpm**
- **温度コントロールレバー:最強冷位置（左端）**
- **ファンスイッチ　　：最強風（ＨＩ）**
- **エアコンスイッチ　　：ＯＮ**

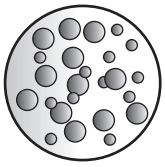
(2) サイトグラスにより，流れている冷媒の状態を確認します。





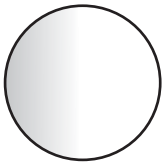
適正

覗窓を覗いて，気泡がほとんど流れてこない状態が正常です。



不足

覗窓を覗いて，気泡が連続的に通過していく場合（気泡が多い）は冷媒不足です。



なし

覗窓を覗いて，クーラガスの流れが見えない場合（気泡も全く無し）は冷媒がない状態です。

長期格納のしかた

1. 機械の掃除・洗浄・格納

トラクタを保管するときは各部の汚れをよく掃除したうえで次の処置をします。

❶ 金属露出部，ネジ部にグリスやオイルを塗って錆止めします。

❷ 油もれ個所，各部の油量を点検し約５分間エンジンを回してオイルを各部にゆきわたらせます。

❸ 不凍液の濃度を調整します。(62 ページ参照)

❹ 燃料タンクに軽油を満タンにします。

❺ タイヤの老化を防止するために空気圧を標準空気圧にしてタイヤの下に板等を敷いて直接地面に置かないようにします。

❻ 作業機（ロータリなど）を地面におろします。

⚠警告 火災防止のために

◆機械にシートカバーを掛ける時はエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときにシートカバーを掛けると火災の原因になることがあります。

❼ 保管場所は屋内とする。やむをえず屋外におく場合は風雨にさらさないようシートカバーを使用します。また停止直後の「熱い状態」ではシートカバーを掛けないようにします。

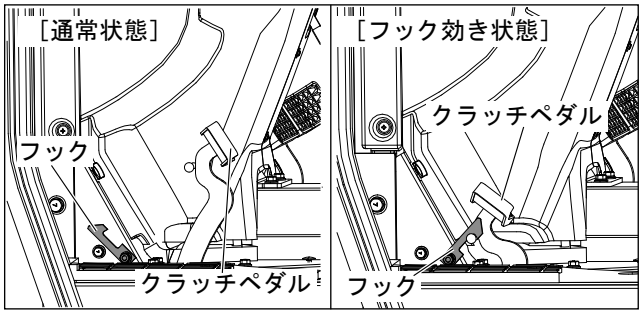
❽ ウエイト類を取外します。

❾ クラッチこう着防止のため，クラッチペダルを踏込み，フックをかけてクラッチ「切」の状態にします。

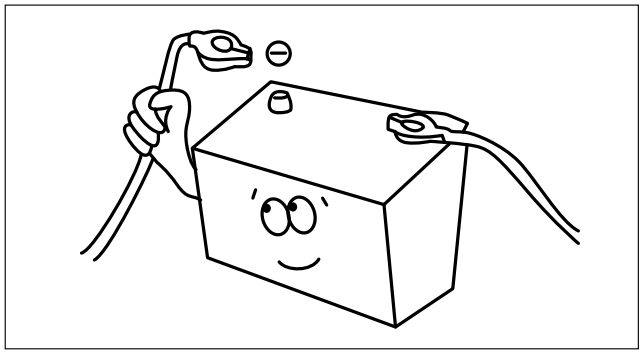
[2 柱フレーム仕様]



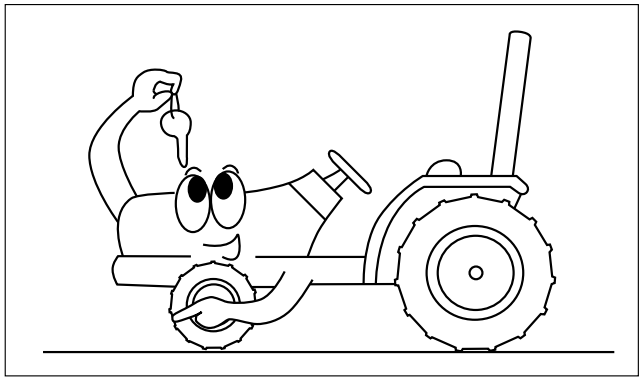
[キャビン仕様]



❿ 保管中の不意な漏電，発火を防ぐためバッテリを車体から取外し，風通しの良い屋内に保管します。また機体に取付けたまま保管するときはバッテリのコードのアース側㊀端子を外しておきます。



⓫ 保管中，不意にトラクタが動き出すのを防ぐため，タイヤに歯止めをし，キーを抜取っておきます。



取扱いのポイント

●錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。

●洗車時の注意

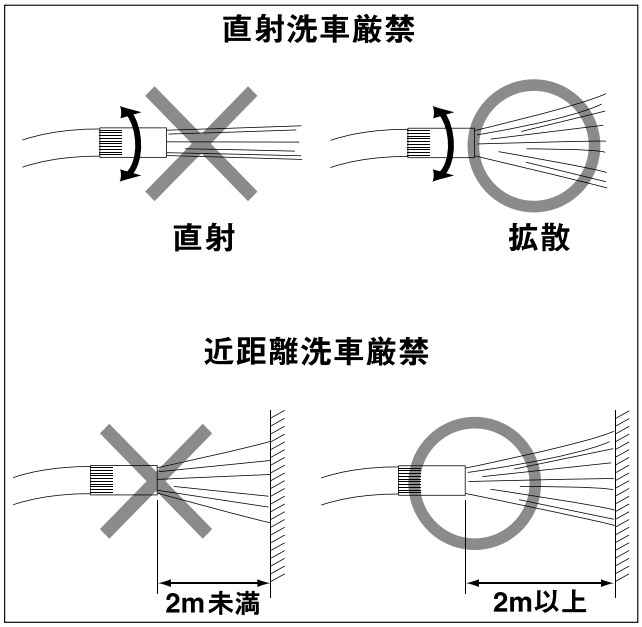
高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械の破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散し，２m以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

１．電気配線部被覆の損傷･断線により，火災を引き起こすことがあります。
２．油圧ホース破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
３．機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例）
（１）シール・ラベルの剥がれ
（２）電装部品，エンジン・ラジエータ，キャビン室内等への侵入による故障
（３）タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
（４）塗装，メッキ面の皮膜剥がれ



2. 格納中の手入れ

❶ １ケ月に１度，防錆，バッテリ補充電のためエンジンを約 10 分間運転します。

❷ 金属露出部，ネジ部を点検し，防錆処置をします。

❸ 油もれ，水もれの有無を点検し不具合のある場合は処置します。

取扱いのポイント

●エンジンを回す前に 1. 機械の掃除・洗浄・格納 で処置した項目を点検し復元してください。

3. 再使用にあたって

格納後，はじめて使用するときには各部の点検を入念に行なった後に運転します。

❶ 1. 機械の掃除・洗浄・格納 で処置した項目を点検し，復元します。

❷ 運転前の点検を確実に行います。

不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や，調整しても再発するときは**「お買いあげ先」**に相談し，点検を受けてください。
・その時は不調の状況とあわせて**「型式」・「機械番号」**をお知らせください。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整・整備は，機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，作業機を降ろしエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジンまわりを点検・整備するときは，エンジンが冷えてから行なってください。

1. エンジン部

1. 始動しない，または始動困難

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶キーを回しても，スタータが回らない	○クラッチペダルの踏込み不足	・ペダルをいっぱい踏込みます	ー
	○バッテリの放電	・バッテリを充電又は交換します	79 ～ 84
	○バッテリ端子の外れ，ゆるみ，腐食	・端子部を掃除して確実に締付け，グリスを塗布し防錆しておく	79 ～ 84
	○ヒューズ⑪の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	76 ～ 78
❷スタータは回るが，エンジンがかからない	○燃料タンクに燃料がない。	・補給する	ー
	○燃料フィルタ詰まり	・フィルタの掃除または交換をする	60
	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う	60 ～ 61
	○ヒューズ①の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	76 ～ 78

2. エンジン出力不足およびエンジン自然停止

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶エンジン回転が不規則	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う	60 ～ 61
	○燃料フィルタの水・ゴミ詰まり	・フィルタの掃除または交換をする	60
	○パイプ系の燃料もれ	・クランプの締付け，パイプ交換をする	―
	○噴射ノズルの水・ゴミ詰まり	・**「お買いあげ先」**で修理する	―
❷エンジンが過回転する	○ガバナにゴミ等が詰まっている	・**「お買いあげ先」**で修理する	―
❸運転中エンジンが突然停止した	○燃料不足	・燃料補給とエア抜きを行う	58 ～ 61
	○ヒューズ①の溶断	・**「お買いあげ先」**で点検を受ける	76 ～ 78
	○ヒューズ⑪の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	76 ～ 78
	○ノズル不良	・**「お買いあげ先」**に依頼し交換をする	―
	○オイル不足によるエンジン焼付き	・**「お買いあげ先」**に依頼する	―
	○ラジエータの目詰まり	・ラジエータスクリーンを掃除する	67
❹エンジンが過熱する	○冷却水の不足	・冷却水を補給する	61 ～ 62
	○ファンベルトのゆるみ，破損	・ベルトの張り調整または交換をする	70
	○エンジンオイル量が少ない	・規定量まで補給する	57
❺エンジンの排気色が白い（除く始動直後）	○エンジンオイル量が多すぎる	・点検し適正量にする	57
❻エンジンの排気色が黒すぎる	○エアクリーナが詰まっている	・エレメントの掃除をする	67
	○燃料が悪い	・正規の燃料に入替える	58 ～ 59
❼エンジンの出力不良	○エアクリーナの詰まり	・エレメントを掃除する	67
	○燃料不足，燃料フィルタの詰まり	・燃料系統をチェックする	58 ～ 60
❽運転中オイルランプが点灯する	○エンジンオイル量が少ない	・規定量まで補給する	57
	○エンジンオイルの粘度が低い	・適正粘度のオイル交換する	57
	○エンジンオイルフィルタの目詰まり	・オイルフィルタを交換する	58
❾運転中にチャージランプが点灯する	○ファンベルトのゆるみまたは破損	・張り調整またはベルト交換をする	70

2. 走行・運転操作部

1. 走らない，ブレーキがきかない

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶クラッチがすべる	○ペダルの調整不良	・ペダルの遊びを調整する	70
	○クラッチライニングの摩耗・焼付き	・**「お買いあげ先」**でクラッチを交換する	―
❷クラッチが切れない	○ペダルの調整不良	・ペダルの遊びを調整する	70
	○クラッチライニングのこう着	・**「お買いあげ先」**で修理する	―
❸ブレーキの効きが悪いまたは片効きである	○ブレーキペダルの遊び量が大きすぎる	・ペダルの遊びを調整する	72 ～ 73
	○ブレーキライニング摩耗・焼付き	・**「お買いあげ先」**でブレーキディスクを交換する	―
	○左右の踏込み量が異なる	・踏込み量を左右同じにする	72 ～ 73
❹ブレーキペダルの戻りが悪い	○ブレーキ戻しスプリングの損傷	・スプリングを交換する	―
	○各摺動部のグリス切れ	・グリスアップをする	66
❺倍速旋回・オートブレーキ旋回が作動しない	○ヒューズ④の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	76 ～ 78

2. パワーステアリング

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶ハンドルが空転する	○油量不足（ミッションオイル）	・油（ミッションオイル）を規定量まで補給する	63
	○配管の損傷，油もれ	・増締め，又は交換する	―
	○ポンプの故障	・**「お買いあげ先」**で修理する	―
❷ハンドルが重い　ハンドルが取られる	○タイヤ空気圧の不揃い	・左右共に規定空気圧にする	73
	○ロッドエンドの遊び発生	・**「お買いあげ先」**で交換する	―
	○使用オイルの粘性大	・オイル交換または暖機運転を十分に行う	100
	○トーイン不良	・修正をする	104
❸前輪のふらつき（ハンドルの遊びが多い）	○各締付部のゆるみ発生	・**「お買いあげ先」**で点検を受ける	―
	○ロッドエンドの遊び発生	・**「お買いあげ先」**で交換する	―
	○トーイン不良	・修正をする	71 ～ 72
	○油圧シリンダにエア混入	・油量（ミッションオイル）を点検しエア抜きをする	19 ～ 20
❹油圧回路系の異常音	○油量不足（ミッションオイル）	・油（ミッションオイル）を規定量まで補給する	63
	○暖機運転不足	・暖機運転を十分に行う	―
	○油圧オイルフィルタの詰まり	・油圧オイルフィルタの交換	64
		・パイプのつぶれ等は修理	―

3. 油圧部

1. 油圧関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶油圧回路の異常音	○油量不足（ミッションオイル）	・油（ミッションオイル）を規定量まで補給する	63
	○暖機運転不足	・暖機運転を十分に行う	―
	○油圧オイルフィルタの詰まり	・油圧オイルフィルタの交換をする	64
		・パイプのつぶれ等は修理する	―
❷リフトアームが上がらない	○油量不足（ミッションオイル）	・油（ミッションオイル）を規定量まで補給する	63
	○油圧オイルフィルタの詰まり	・交換する	―
	○ギヤポンプの故障	・**「お買いあげ先」**で修理する	―
	○コントロールバルブの故障	・**「お買いあげ先」**で修理する	―
❸配管に油もれがある	○各部ジョイントのゆるみ	・増締めを行う	―
	○パイプの亀裂	・**「お買いあげ先」**で交換する	―
❹リフトアームが下がらない	○作業機降下速度調節グリップが**《固定》**位置になっている	・**《速い》**の方向に操作する	36
	○コントロールバルブの故障	・**「お買いあげ先」**で修理する	―

4. 電気・自動制御部

1. 電気関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶電装品各部が作動しない	○ヒューズの溶断	・配線をチェックし各ヒューズを交換する	76 ～ 78
❷ランプ，インジケータが点灯，点滅しない	○電球（バルブ）切れ	・各電球を交換する	97

2. 自動制御関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶マイコンが作動しない	○ヒューズ④の溶断 ○ヒューズ⑤の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	76 ～ 78
❷ポジションコントロールが作動しない	○作業機降下速度調節グリップが**《固定》**されている	・**《速い》**方向に操作する	36
❸　作業機が水平にならない	○傾き設定が**《水平》**になっていない	・**《水平》**にする。	31 ～ 32

取扱いのポイント

- **各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も合わせて行なってください。**
- **ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。**

5. キャビン部

1. キャビン関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶各スイッチが作動しない	○ヒューズ切れ	・配線をチェックし各ヒューズを交換する	76 ～ 78
❷ｳｫｯｼｬ液が出ない。	○ウォッシャ液不足	・補給する	66
❸室内灯が点灯しない	○電球（バルブ）切れ	・電球（バルブ）を交換する	97
❹作業灯が点灯しない	○電球（バルブ）切れ	・電球（バルブ）を交換する	97
❺冷・暖房がきかない	○エアコンスイッチが《OFF》になっている	・《ON》にする	49 ～ 51
❻風量が少ない	○フィルタ目詰まり	・フィルタを掃除する	68 ～ 69

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も合わせて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

付　　表

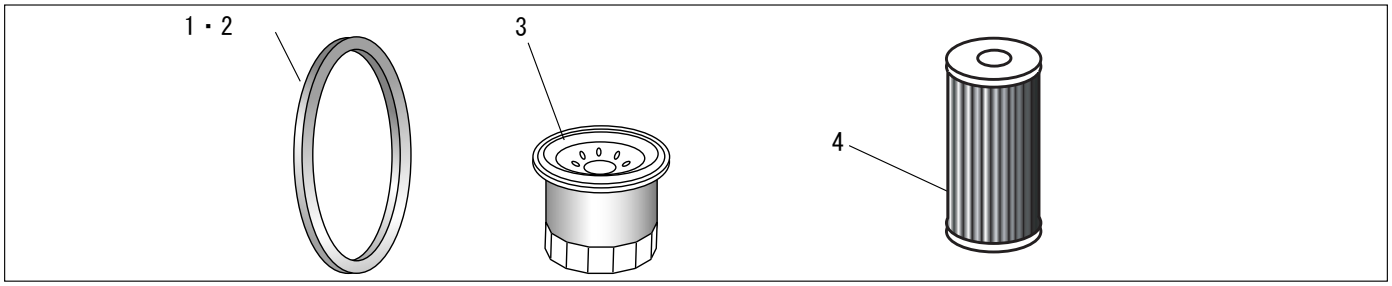
1. 主要諸元

型式名			三菱 GJ24			三菱 GJ27					三菱 GJ30		
区分			D	DN	DL	D	DN	DL	DX	DXL	D	DN	DX
車両型式名			三菱 EDM-GT30F										
駆動方式			4輪駆動										
機体寸法	全長(mm)（ロワリンク先端）		3030										
	全幅(mm)		1310	1215	1325	1215	1330	1325	1330		1215	1330	
	全高(mm)（安全フレーム上端）		1935	1965	1960	1965	1985		2010	1985	1965	2010	
	最低地上高(mm)		325	350	345	350	370	345	370		350	370	
機体質量(kg)			1035	1025	1045	1025	1065	1255	1275	1065	1025	1275	
エンジン	型式名		S3L3-11A			S3L3-12A					S3L3-13A		
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル										
	総排気量(L{cc})		1.496{1496}										
	出力／回転速度(kW{PS}／rpm)		17.7{24}/2600			19.9{27}/2600					22.1{30}/2600		
	使用燃料		ディーゼル軽油										
	燃料タンク容量(L)		27										
	バッテリ(V・Ah)		55B24R　12・36										
走行部	タイヤ	前輪	6-14-4PR	7-14-4PR			7-16-4PR	7-14-4PR	7-16-4PR		7-14-4PR	7-16-4PR	
		後輪	9.5-22-4PR	9.5-24-4PR			11.2-24-4PR	9.5-24-4PR	11.2-24-4PR		9.5-24-4PR	11.2-24-4PR	
	軸距(mm)		1650										
	輪距	前輪(mm)	1100	975	1100	975	1070	1100	1070		975	1070	
		後輪(mm)	1010・1165	960・1225	1050・1125	960・1225	1050・1125				960・1225	1050・1125	
	クラッチ形式		乾式単板										
	ブレーキ形式		ディスク式（湿式）										
	かじ取方式		パワーステアリング（全油圧式）										
	変速方式		同期かみ合い＋常時かみ合い＋選択摺動式										
	変速段数		前進12段，後進12段										
	走行速度[ ]内最高速度	前進(km/h)	0.19～12.4[13.6]	0.20～13.1[14.3]			0.21～13.7[14.9]	0.20～13.1[14.3]	0.21～13.7[14.9]		0.20～13.1[14.3]	0.21～13.7[14.9]	
		後進(km/h)	0.19～11.0[12.0]	0.20～11.6[12.7]			0.21～12.1[13.2]	0.20～11.6[12.7]	0.21～12.1[13.2]		0.20～11.6[12.7]	0.21～12.1[13.2]	
	最小旋回半径(m)		2.2	2.3	2.2	2.3	2.2				2.3	2.2	
PTO	回転速度(rpm)		591・845・1362・991(逆転)										
	軸径		JIS35										
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール										
	装着方式		3点リンク　JIS Ⅰ										

※この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

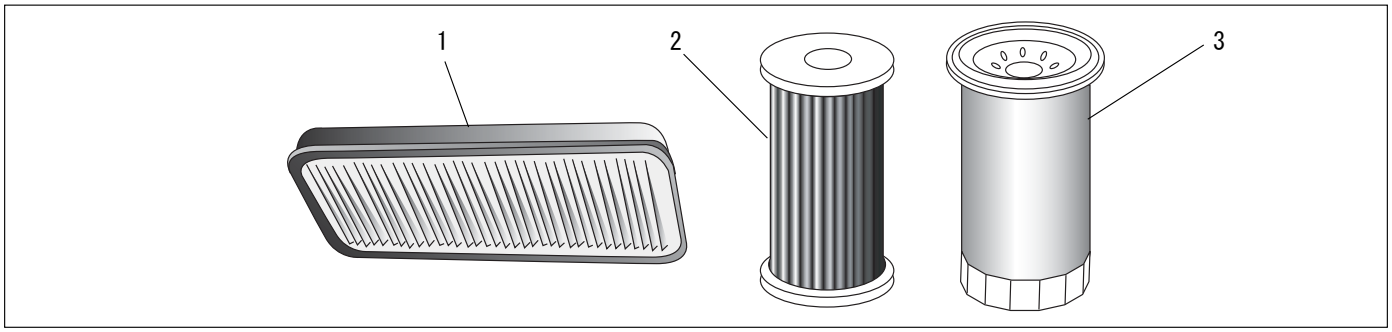
2. 主な消耗部品

1. エンジン関係



見出番号	部　品　番　号	部　品　名　称	台当個数	型　　寸	備　　考
1	31S94-01130	ファンベルト	1		
2	1044　6343　000	コンプレッサベルト	1		(キャビン仕様)
3	31S94-02160	フィルタアセンブリ	1		エンジンオイルフィルタ
4	31S94-03400	エレメント	1		燃料フィルタ

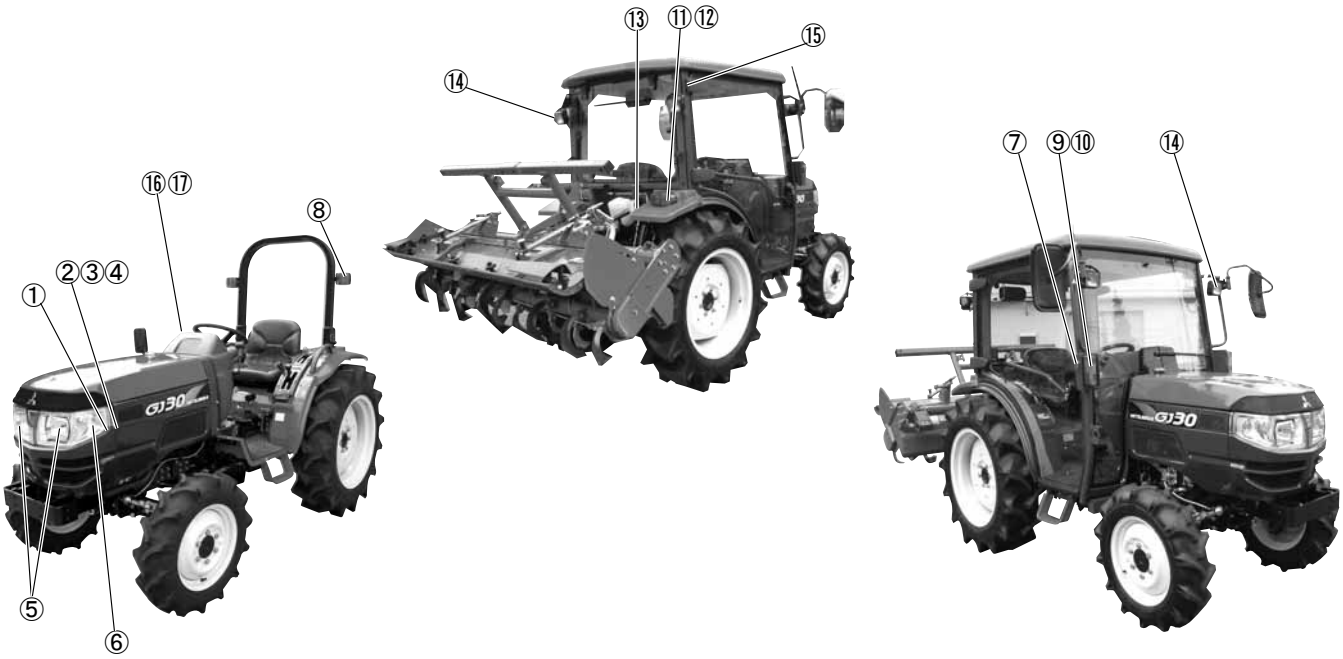
2. エアクリーナ・油圧ライン関係



見出番号	部　品　番　号	部　品　名　称	台当個数	型　　寸	備　　考
1	1044　6145　000	エレメント (キャビンエアフィルタ)	1		
2	3553　0501　800	エレメント (エアフィルタ)	1		
3	1038　2585　000	油圧フィルタ	1		

・ご用命のときは,「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

3. 電装関係



No.	部品番号	部品名称	定　格	備　考	形　状
1	1037 5502 200	ヒューズ（大容量）	60A	共　通	
2	0980 1001 006	ヒューズ	10A	共　通	
3	0980 1001 506	ヒューズ	15A		
4	0980 1002 006	ヒューズ	20A		
5	1040 5511 500	バルブ（前照灯）	12V 55/60W	ハロゲン（H4）共通	
6	1039 2813 200	バルブ（コーナーライト）	12V 18W	共　通	
7	0980 8120 508	バルブ（方向指示灯・側面）	12V 5W	キャビン仕様	
8	0980 8122 104	バルブ（方向指示灯）	12V 21W	2柱フレーム仕様	
9	3583 3036 300	バルブ（方向指示灯・前）	12V 21W	キャビン仕様	
10	0980 8121 001	バルブ（車幅灯・前）	12V 10W	キャビン仕様	
11	1956 6731 200	バルブ（制動灯・後/尾灯・後）	12V 21/5W	キャビン仕様	
12	0980 8122 104	バルブ（方向指示灯・後）	12V 21W	キャビン仕様	
13	0980 8122 104	バルブ（後退灯）	12V 21W	キャビン仕様	
14	1535 6281 200	バルブ（作業灯）	12V 27W	キャビン仕様	
15	0980 8120 508	バルブ（室内灯）	12V 5W	キャビン仕様	
16	1046 2854 500	バルブアッシ（パネルランプ）	12V 1.7W		
17	1046 2854 400	バルブアッシ（パネルランプ）	12V 3.4W		

3. アタッチメント一覧表（参考）

	コードNo.	名称	型式	GJ24	GJ27	GJ30	備考
1	32106 70070	ドローイングヒッチ	DH-GOZ	○	○	○	
2	32101 50051	バンパーウェイト	BW201	○	○	○	20kg　3個まで装着可
3	32101 50161	バンパーウェイト	BW-F1	○	○	○	20kg　5個まで装着可
4	32101 50171	バンパーウェイト	BW-F2	○	○	○	22kg　6個まで装着可
5	32101 50270	バンパーウェイト	BW-30MT	○	○	○	30kg　6個まで装着可
6		スーパーヒッチキット	KT-SHGJ	○	○	○	
7	32105 20160	トップリンクキット	TLK-GOZ	○	○	○	トップリンク調整代　510～800㎜
8	1208 7730 000	ワーキングランプ	EWL-GOM	○	○	○	安全フレーム車用
9	32116 50210	フード	2F-GS05	○	○	○	安全フレーム車用
10	32140 11321	リッチサンフロート車輪	RSB15-922F2	○			ラグ幅　150mm
11	32140 11321	リッチサンフロート車輪	RSB15-924F2		○		ラグ幅　150mm
12	32140 11331	リッチサンフロート車輪	RSB15-1124F2			○	ラグ幅　150mm
13	32141 12411	リッチＬＫ車輪	RLB17S-922F2	○			ラグ幅　175mm
14	32141 12501	リッチＬＫ車輪	RLB20S-922F2	○			ラグ幅　200mm
15	32141 12421	リッチＬＫ車輪	RLB17S-924F2		○		ラグ幅　175mm
16	32141 12511	リッチＬＫ車輪	RLB20S-924F2		○		ラグ幅　200mm
17	32141 12431	リッチＬＫ車輪	RLB17S-1124F2			○	ラグ幅　175mm
18	32141 12521	リッチＬＫ車輪	RLB20S-1124F2			○	ラグ幅　200mm
19	32141 12611	リッチＬＫ車輪	RLA170-922F2	○			ラグ幅　175mm
20	32141 12761	リッチＬＫ車輪	RLA200-922F2	○			ラグ幅　200mm
21	32141 12621	リッチＬＫ車輪	RLA170-924F2		○		ラグ幅　175mm
22	32141 12771	リッチＬＫ車輪	RLA200-924F2		○		ラグ幅　200mm
23	32141 12631	リッチＬＫ車輪	RLA170-1124F2			○	ラグ幅 175mm キャビン車はドアストッパー要
24	32141 12781	リッチＬＫ車輪	RLA200-1124F2			○	ラグ幅 200mm キャビン車はドアストッパー要
25	32142 11651	リッチスキップ車輪	RKS180-922F2	○			ラグ幅　180mm
26	32142 11851	リッチスキップ車輪	RKS210-922F2	○			ラグ幅　210mm
27	32142 12051	リッチスキップ車輪	RKS250-922F2	○			ラグ幅　250mm
28	32142 11661	リッチスキップ車輪	RKS180-924F2		○		ラグ幅　180mm
29	32142 11861	リッチスキップ車輪	RKS210-924F2		○		ラグ幅　210mm
30	32142 12061	リッチスキップ車輪	RKS250-924F2		○		ラグ幅　250mm
31	32142 11671	リッチスキップ車輪	RKS180-1124F2			○	ラグ幅　180mm
32	32142 11871	リッチスキップ車輪	RKS210-1124F2			○	ラグ幅　210mm
33	32142 12071	リッチスキップ車輪	RKS250-1124F2			○	ラグ幅　250mm
34	32505 11220	畦立器　３型	RR3-F123-N	○	○	○	底幅　90mm
35	32505 11230	畦立器　４型	RR4-F123-N	○	○	○	底幅　120mm
36	32505 11240	畦立器　４５型	RR45-F123-N	○	○	○	底幅　135mm
37	32505 11250	畦立器　６型	RR6-F123-N	○	○	○	底幅　180mm
38	32505 11260	畦立器　７型	RR7-F123-N	○	○	○	底幅　210mm

	コードNo.	名称	型式	GJ24	GJ27	GJ30	備考
39	32505 11641	畦立器固定ブラケット	TB-GSF23N	○	○	○	固定式
40	32505 11150	反転式畦立器ブラケット	TBL-GSF23N	○	○	○	ワンタッチ反転式
41	32521 11191	反転式片培土器１２型（右）	FKR12-GON.GX	○	○	○	縦反転式（右用）　底幅 120mm
42	32521 11211	反転式片培土器１９型（右）	FKR19-GON.GX	○	○	○	縦反転式（右用）　底幅 190mm
43	32521 11450	反転式片培土器１２型（左）	FKL12-GON.GX	○	○	○	縦反転式（左用）　底幅 120mm
44	32521 11460	反転式片培土器１９型（左）	FKL19-GON.GX	○	○	○	縦反転式（左用）　底幅 190mm
45	32559 10306	クイックレベラ	JKL-1440F1	○	○	○	RJ140S 用
46	32559 10181	クイックレベラ	JKL-1440DXF1	○	○	○	RJ140S 用
47	32559 10276	クイックレベラ	JKL-1640F2	○	○	○	RJ150S,RJ160S 用
48	32559 10216	クイックレベラ	JKL-1640DXF2	○	○	○	RJ150S,RJ160S 用
49	32816 12660	Ｖローダ	VLD-GJ-WB	※○	※○	※○	制限重量 3.23 ＫＮ 広幅爪付バケット仕様
50	32816 12670	Ｖローダ	VLD-GJ-WCB	※○	※○	※○	制限重量 3.23 ＫＮ デラックス広幅爪付バケット仕様
51	32816 12680	Ｖローダ	VLD-GJ-WBD	※○	※○	※○	制限重量 3.23 ＫＮ 広幅バケット仕様
52	32816 12690	Ｖローダ	VLD-GJ-LB	※○	※○	※○	制限重量 3.23 ＫＮ 大容量爪付バケット仕様
53	32816 12700	Ｖローダ	VLD-GJ-LCB	※○	※○	※○	制限重量 3.23 ＫＮ デラックス大容量爪付バケット仕様
54	32816 12710	Ｖローダ	VLD-GJ-LBD	※○	※○	※○	制限重量 3.23 ＫＮ 大容量バケット仕様
55	32816 12720	Ｖローダ	VLD-GJX-WB	※○	※○	※○	制限重量 3.23 ＫＮ キャビン車用　広幅爪付バケット仕様
56	32816 12730	Ｖローダ	VLD-GJX-WCB	※○	※○	※○	制限重量 3.23 ＫＮ キャビン車用　デラックス広幅爪付バケット仕様
57	32816 12740	Ｖローダ	VLD-GJX-WBD	※○	※○	※○	制限重量 3.23 ＫＮ キャビン車用　広幅バケット仕様
58	32816 12750	Ｖローダ	VLD-GJX-LB	※○	※○	※○	制限重量 3.23 ＫＮ キャビン車用　大容量爪付バケット仕様
59	32816 12760	Ｖローダ	VLD-GJX-LCB	※○	※○	※○	制限重量 3.23 ＫＮ キャビン車用　デラックス大容量爪付バケット仕様
60	32816 12770	Ｖローダ	VLD-GJX-LBD	※○	※○	※○	制限重量 3.23 ＫＮ キャビン車用　大容量バケット仕様
61	32124 12110	サブバルブ　１連	D1-GJ	○	○	○	安全フレーム車用　１連
62	32124 12120	サブバルブ　１連	D1-GJCAB	○	○	○	キャビン車用　１連
63	32152 19000	クイックダイヤホイール	GOZ(9-22)	○			ラグ幅　278mm
64	32152 18730	クイックダイヤホイール	9-24MT		○		ラグ幅　278mm
65	32152 19010	クイックダイヤホイール	GOZ(9-24)		○		ラグ幅　358mm　キャビン車用
66	32152 18740	クイックダイヤホイール	11.2-24MT			○	ラグ幅　358mm
67	32152 19020	クイックダイヤホイール	GOZ(11-24)			○	ラグ幅　358mm　キャビン車用
68	32151 11280	ワンタッチフロートホイール	GOZ(9-22)	○			ラグ幅　150mm
69	32151 11140	ワンタッチフロートホイール	9-24MT		○		ラグ幅　150mm
70	32151 10510	ワンタッチフロートホイール	GOZ(9-24)		○		ラグ幅　150mm　キャビン車用
71	32151 11150	ワンタッチフロートホイール	11-24MT			○	ラグ幅　200mm
72	32151 10520	ワンタッチフロートホイール	GOZ(11-24)			○	ラグ幅　200mm　キャビン車用

※印部は，［ナロートレッド仕様］には装備できません。

4. 潤滑油について

オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

1. エンジンオイルについて

メ　ー　カ	商　　品　　名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD/CD/GL-4） スーパーマルチGDオイル（SAE・10W－30，SL/CF） スーパーディーゼルCF-4オイル（SAE・10W－30，CF-4）
全　　農	クミアイディーゼルオイルCFマルチ（SAE・10W－30，CF）
JX 日鉱日石エネルギー	ファームユニバーサル ディーゼル　CF/DH-1

取扱いのポイント

●やむをえず他メーカのオイルを使用される場合は API サービス分類 CD 級以上のオイルをお使いください。

2. ミッション，フロントアクスルオイルについて

API サービス分類　GL －４級以上のオイルで湿式ブレーキ適性のあるもの。

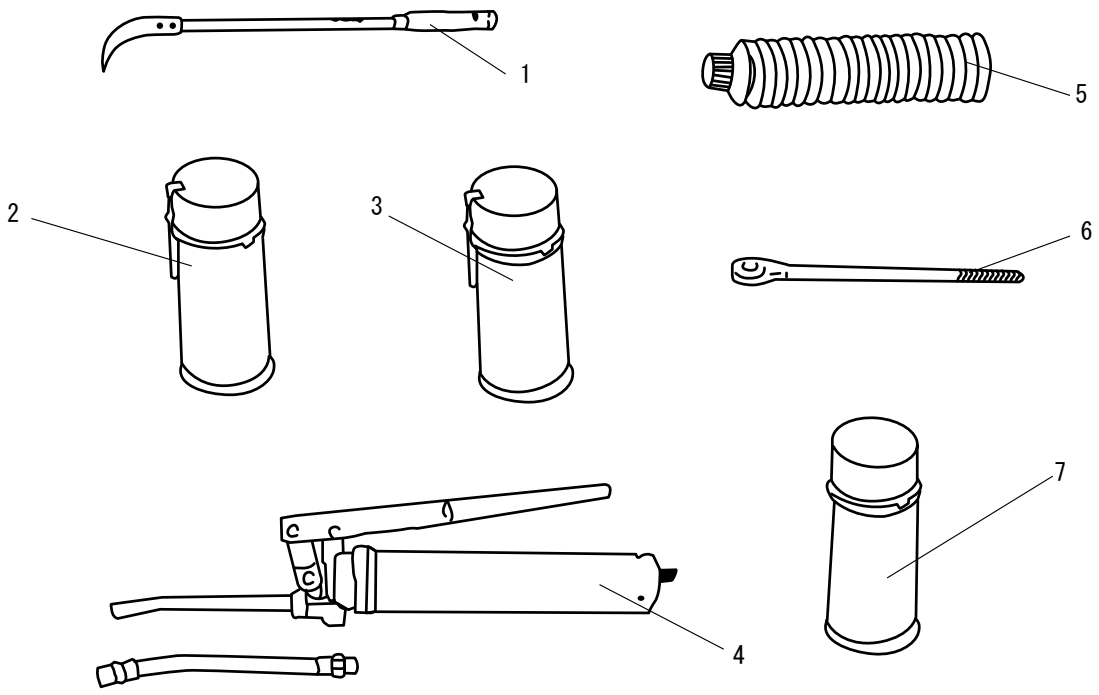
銘柄（メーカ）	オ　イ　ル　商　品　名
三菱農機純正油	スーパーマルチ GB オイル　（SAE・80 W） スーパーマルチ STOU オイル　（SAE・10 W－ 30）
JX 日鉱日石エネルギー	ファームギヤ B　（SAE・80） ファームユニバーサル　（SAE・10 W－ 30）
全　　農	クミアイトラクタオイル　（SAE・80 W）

※商品名は変更することがあります。

5. トラクタ関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商 品 番 号		
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適	
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1 － 420DX	金属部品の防錆，潤滑	
3	スプレーグリス	SP300	〃	
4	グリスポンプ	N850 － 666	フレキシブルパイプ付	
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用	
6	ラチェットレンチ（17）	HT3100	爪の脱着，増締	
7	カラースプレー（赤）	0975　0000　270	（AE 色）	補修用塗料
	〃　（白）	0975　0000　160	（G 色）	
	〃　（黒）	0975　0000　470	（AG 色）	
	〃　（グレー）	0975　0000　690	（BN 色）	
	〃　（ハイグレードグレー）	0975　0000　710	（BR 色）	



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成21年度
農業・食品産業技術
総合研究機構



型式名：三菱 ＣＦＪ３０

合格番号：２０９０３２

種　　類：安全キャブ

依頼者名：三菱農機株式会社
住　　所：島根県八束郡東出雲町大字
揖屋町667番地1

Ⅰ　装着可能トラクター

１．型式名

三菱 GJ30　　三菱 GJ27

２．主要諸元（最大トラクター）

■型式名		：	三菱 GJ30
■種類		：	４駆
■質量（キャブ付き）	kg	：	1275
■軸距	mm	：	1650
■機関出力/回転速度	kW{PS}/rpm	：	22.1{30}/2600

Ⅱ　構造の概要

１．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

ウインドスクリーン，ドア（両側），後窓を装備。

２．主な装備

シートベルト（２点式），換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

３．主要寸法　※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	90.0 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	134.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		：	80.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	85.0 cm
■戸口の幅	（上部）	：	103.0 cm
	（中部）	：	111.0 cm
	（下部）	：	39.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	124.5 cm
■最低位ステップの高さ		：	37.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	200.5 cm
■キャブの全幅	（フェンダーを含む）	：	111.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	21.5 cm

※1．三菱 GJ30（タイヤサイズ ： 前輪 7-16 4PR　後輪 11.2-24　4PR ）に装着時。

2．トラクターシートの銘柄型式 ：難波プレス工業，G026/34 シート

4．主要材料

■ 主　フ　レ　ー　ム　：STKR 400, STK 400, STKM 11 A, SS 400, SPHC, SPCC, SPCE
■ 装着ブラケット　：SS 400, SPHC
■ 装　着　ボ　ル　ト　：S 45 C

Ⅲ　検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，キャブの後部右側，側部左側に対して実施。

■ 基準質量　：1320 kg
■ 所要吸収エネルギー　：後部負荷　2.13 kJ {217 kgf･m}
　：側部負荷　2.95 kJ {301 kgf･m}
■ 圧壊力　：19.40 kN {1978 kgf}

2）試験後のキャブの永久変位

■ 後　部（前 方 へ）　：右側　6.0 cm　左側　2.5 cm
■ 前　部（前 方 へ）　：右側　6.0 cm　左側　3.0 cm
■ 側　部（右側方へ）　：前側　10.0 cm　後側　11.0 cm
■ 上　部（下 方 へ）　：前部　右側　1.5 cm　左側　0.0 cm
　：後部　右側　1.5 cm　左側　1.0 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差　：8.0 cm

2．騒　　音 ※

■ 85.0 dB(A)　[三菱 GJ30]

※ 7.5km/h に近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付　記

強度試験はコードⅢにより実施した。

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成21年度
農業・食品産業技術
総合研究機構



型式名：三菱 ２ＦＪ３０

合格番号：２０９０３４

種　　類：安全フレーム

依頼者名：三菱農機株式会社
住　　所：島根県八束郡東出雲町大字
揖屋町667番地1

Ⅰ　装着可能トラクター

１．型式名

三菱 GJ30　　三菱 GJ27　　三菱 GJ24

２．主要諸元（最大トラクター）

■型式名		：	三菱 GJ30
■種類		：	４駆
■質量（フレーム付き）	kg	：	1065
■軸距	mm	：	1650
■機関出力/回転速度	kW{PS}/rpm	：	22.1{30}/2600

Ⅱ　構造の概要

１．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部、後車軸ケース部及び油圧ケース部にボルトで装着。

なお，格納等のためにフレーム上部を折り曲げることができる。

２．主な装備

シートベルト（２点式）

３．主要寸法　※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：	88.5 cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：	133.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		：	- cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	- cm
■戸口の幅	（上部）	：	- cm
	（中部）	：	- cm
	（下部）	：	- cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	- cm
■最低位ステップの高さ		：	43.0 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	：	198.5 cm
■フレームの全幅	（フェンダーを含む）	：	106.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	21.5 cm

※1．三菱 GJ30（タイヤサイズ ： 前輪 7-16 4PR　後輪 11.2-24 4PR ）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ：難波プレス工業，G026/34 シート

4．主要材料

■ 主 フ レ ー ム ： STKR 400, STKM 11 A, SS 400, SPHC, SPCC
■ 装着ブラケット ： SS 400, SPHC
■ 装 着 ボ ル ト ： SCM 435, S 45 C

Ⅲ 検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。

■ 基準質量 ： 1100 kg
■ 所要吸収エネルギー ： 後部負荷 1.77 kJ {180 kgf･m}
： 側部負荷 2.65 kJ {270 kgf･m}
■ 圧壊力 ： 16.17 kN {1649 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位

■ 後 部（前 方 へ） ： 右側 13.0 cm 左側 12.0 cm
■ 側 部（右側方へ） ： 12.5 cm
■ 上 部（下 方 へ） ： 右側 1.5 cm 左側 0.5 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差 ： 9.5 cm

2．騒 音 ※

■ 95.5 dB(A) ［三菱 GJ30］

※ 7.5km/h に近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ 付 記

強度試験はコードⅢにより実施した。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式，機械番号(製造番号)，キーナンバーは…？

型　　式

機械番号(製造番号)

キーナンバー

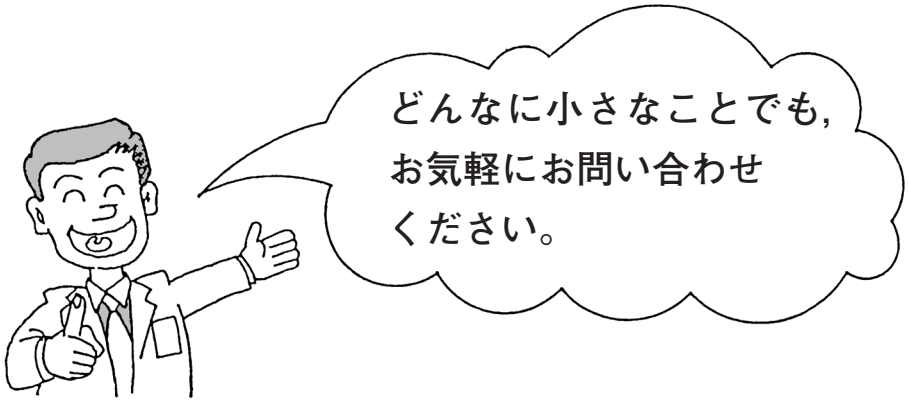
●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)